

訂正  
増補

日本小地誌

香川一秀  
氏著作  
榎本謙堂  
増補

大阪  
積善  
舘發行

022767-000-7

特28-845

日本小地誌(訂正増補)

香川 一秀/著

M29

ADB-0563



193  
187

香川氏秀著  
佐本謙堂增補

訂正  
增補

# 日本地誌

大阪積善堂發行

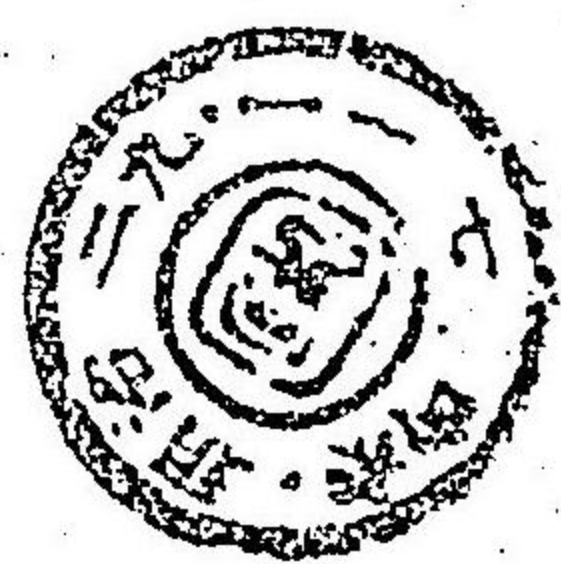
特28  
845

訂正  
增補

香川  
氏秀  
著  
佐  
本謙  
堂  
增  
補

日本  
地理

大阪  
積善  
堂  
發行



Handwritten notes in cursive script, including the characters '日本' (Japan) and '地理' (Geography), likely serving as a library or collection record.

序  
本邦ノ地理收メテ此書ニ在リ一枝ノ筆善ク地  
文學ヨリ我三十六州及ヒ臺灣島ノ地理ヲ詳述  
シテ毫モ漏スコトナク洵ニ既行ノ地理書ヲシ  
テ顔色ナカラシム殊ニ穩安健宕ノ筆ヲ以テ繁  
ニ流レズ簡ニ失セズ善ク其中庸ヲ得タルモノ  
ハ此書ヲ措テ將タ何レノ書ニ覓メンヤ洵ニ是  
レ中等教育ニ適切ナルモノト謂フ可シ感歎ノ  
餘聊カ所思ヲ陳ベテ以テ序ト爲ス

明治廿有九年八月中澣

洛陽散士識

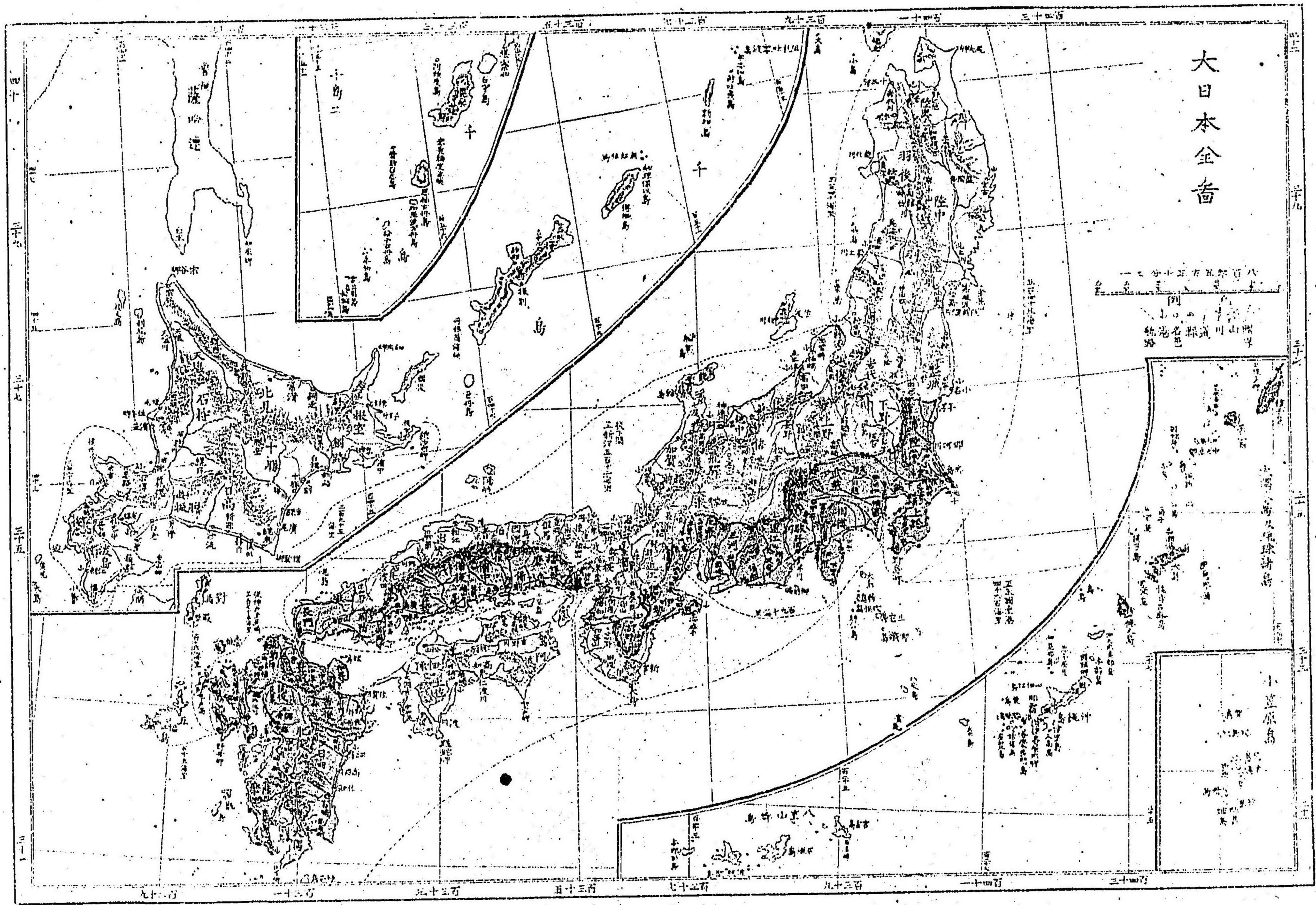
日本小地誌序

古人云物有本末有終始知所先後則近道矣宜乎言也我邦近歲自通歐米宿弊如洗而淳俗時去新利雖生而奸詐或興所謂外本內末者有焉豈不痛乎我友學軒子嘗修歐米之學尤精地理之書頃日奮然自詫曰吾過矣比馬拉亞巔高矣美壽去彼之流長矣然抑末也不如先餐芙蓉之雪漱利根之水乃著日本小地誌一卷徵言于余余雖不敬窮嘉誌其先後得宜足針所謂外本內末者樂而題云爾

明治廿四年天長節後十有五日

渥美契芳題

# 大日本全圖



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

小笠原島

島嶼山連八

增訂 日本小地誌目次

◎ 第一編 地理學總論

○ 第一章

◎ 地理學ノ定義

◎ 地理學ノ區分

○ 第二章 數理地理

◎ 地球ノ形狀

◎ 地軸及兩極

◎ 赤道

◎ 地球ノ運動

◎ 四季

◎ 經緯度

◎ 二至線

◎ 極圈

◎ 帶

一頁

全

全

二

全

全

全

全

三

全

全

全

◎第三章 自然地理	四
◎地球ノ成立	全
◎陸及其區分	全
◎海岸線	六
◎水ノ區分	全
◎排水界	全
○第四章 政治地理	七
◎人種ノ區分	全
◎人類開化ノ程度	全
◎宗教	全
◎政体	全
附 表	全
◎邦制	八
◎各地方應管轄國郡	九
◎第二編 日本地理總論	

○第一章	一八
◎日本帝國ノ位置及成立	全
◎日本帝國ノ面積	全
◎日本帝國ノ經緯度	一九
◎日本帝國ノ境界	二〇
◎山脉	全
◎河系	二一
◎日本帝國ノ沿海	二二
◎湖流	二四
◎氣候	二五
◎地味	全
◎物産附輸出輸入及特別輸出港	全
附 誌	二九
◎東京卜各地卜時間ノ差	全
○第二章	三〇



- ◎ 道路.....三〇
- ◎ 交通.....三一
- ◎ 陸海軍.....三六
- ◎ 人種.....三八
- ◎ 國語.....全
- ◎ 宗教.....二九
- ◎ 政体.....全
- ◎ 條約國.....全
- 附 誌.....三九
- ◎ 內國諸港へノ航路里程.....全
- ◎ 外國有名諸港へノ航路里程.....四二

◎ 第三編 日本地理各論

- ◎ 第一章.....四五
- ◎ 位置.....全

- ◎ 境界.....四五
- ◎ 經緯度.....全
- ◎ 形勢.....全

○ 第二章.....四五

- ◎ 河川.....四六
- ◎ 山岳附礦山.....全
- ◎ 湖沼.....四七
- ◎ 瀑布.....四八
- ◎ 温泉.....全
- ◎ 海岸.....全
- ◎ 港灣.....全
- ◎ 崎岬.....四九
- ◎ 海峽.....全

○ 第三章.....四九

- ◎ 都邑.....全

●東海道誌

○第一章 附誌 島嶼 五四

◎名勝 五一

◎第四章 氣候 五二

◎地味 全

◎產物 全

○第五章 歷史上ノ古蹟 五三

◎沿革 全

◎風俗 全

◎位置 全

◎境界 全

◎經緯度 全

◎形勢 五五

○第二章 河川 全

◎山岳 火山 鑛山 五六

◎湖沼 五八

◎瀑布 全

◎温泉 五九

◎海岸 全

◎港灣 全

◎崎岬 六一

○第三章 都邑 六三

◎名勝 六四

○第四章 氣候 六五

- ◎ 地味 ..... 六五
- ◎ 産物 ..... 全
- 第五章 ..... 全
- ◎ 歷史上ノ古趾 ..... 全
- ◎ 總説 ..... 六六
- ◎ 沿革 ..... 全
- ◎ 風俗 ..... 六七
- 附 誌 ..... 全
- ◎ 島嶼 ..... 全
- 東山道誌
- 第一章 ..... 七二
- ◎ 位置 ..... 全
- ◎ 境界 ..... 全
- ◎ 經緯度 ..... 全
- ◎ 形勢 ..... 全

- 第二章 ..... 七二
- ◎ 河川 ..... 全
- ◎ 山岳・火山・鐵山 ..... 七四
- ◎ 湖沼 ..... 七八
- ◎ 瀑布 ..... 七九
- ◎ 温泉 ..... 八〇
- ◎ 海岸 ..... 全
- ◎ 港灣 ..... 全
- ◎ 崎岬 ..... 八一
- ◎ 海峽 ..... 全
- 第三章 ..... 八二
- ◎ 都邑 ..... 全
- ◎ 名勝 ..... 八三
- 第四章 ..... 八四
- ◎ 氣候 ..... 全

- ◎ 地味 ..... 八四
- ◎ 產物 ..... 全
- 第五章 ..... 八五
- ◎ 歷史上ノ古趾 ..... 全
- ◎ 總說 ..... 全
- ◎ 沿革 ..... 八六
- ◎ 風俗 ..... 全
- ◎ 附誌 ..... 全
- ◎ 嶼嶼 ..... 全
- 北陸道誌
- 第一章 ..... 八八
- ◎ 位置 ..... 全
- ◎ 境界 ..... 全
- ◎ 經緯度 ..... 全
- ◎ 形勢 ..... 全

- 第二章 ..... 八八
- ◎ 河川 ..... 全
- ◎ 山岳・火山・鑛山 ..... 八九
- ◎ 湖沼 ..... 九一
- ◎ 瀑布 ..... 全
- ◎ 温泉 ..... 全
- ◎ 海岸 ..... 九二
- ◎ 港灣 ..... 全
- ◎ 崎岬 ..... 九三
- 第三章 ..... 全
- ◎ 都邑 ..... 全
- ◎ 名勝 ..... 九四
- 第四章 ..... 全
- ◎ 氣候 ..... 全
- ◎ 地味 ..... 全

● 北海道誌

- ◎ 產物 ..... 九四
- 第五章 ..... 九五
- ◎ 歷史上ノ古趾 ..... 全
- ◎ 沿革 ..... 全
- ◎ 風俗 ..... 九六
- 附誌 ..... 全
- ◎ 島嶼 ..... 全
- 第一章 ..... 九九
- ◎ 位置 ..... 全
- ◎ 境界 ..... 全
- ◎ 經緯度 ..... 全
- ◎ 形勢 ..... 全
- 第二章 ..... 全
- ◎ 河川 ..... 一〇〇

- ◎ 山岳○火山○鑛山 ..... 一〇〇
- ◎ 湖沼 ..... 一〇一
- ◎ 瀑布 ..... 一〇二
- ◎ 温泉 ..... 全
- ◎ 海岸 ..... 全
- ◎ 崎岬 ..... 一〇四
- ◎ 海峽 ..... 全
- 第三章 ..... 一〇五
- ◎ 都邑 ..... 全
- 第四章 ..... 全
- ◎ 氣候 ..... 全
- ◎ 地味 ..... 全
- ◎ 產物 ..... 一〇六
- 第五章 ..... 全
- ◎ 歷史上ノ古趾 ..... 全

- 總說 ..... 一〇六
- 沿革 ..... 一〇七
- 風俗 ..... 一〇八
- 附誌 ..... 一〇九
- 島嶼 ..... 全
- 山陰道誌
- 第一章 ..... 一二二
  - 位置 ..... 全
  - 境界 ..... 全
  - 經緯度 ..... 全
  - 形勢 ..... 一一三
- 第二章 ..... 全
  - 河川 ..... 一一三
  - 山岳 ..... 全
  - 鑛山 ..... 一一四

- 湖沼 ..... 一二四
- 瀑布 ..... 一一五
- 温泉海岸 ..... 全
- 海岸 ..... 全
- 港灣 ..... 全
- 崎岬 ..... 一一六
- 第三章 ..... 全
  - 都邑 ..... 全
  - 名勝 ..... 一一七
- 第四章 ..... 全
  - 氣候 ..... 全
  - 地味 ..... 一一八
  - 產物 ..... 全
- 第五章 ..... 全
  - 歷史上ノ古趾 ..... 一一八

◎ 總說

一一八

◎ 沿革

全

◎ 風俗

一一九

附誌

全

◎ 島嶼

全

● 山陽道誌

○ 第一章

一二〇

◎ 位置

全

◎ 境界

全

◎ 經緯度

全

◎ 形勢

全

○ 第二章

全

◎ 河川

全

◎ 山岳

一一一

◎ 湖沼

一一三

欠

MISSING



◎注 意

經度ハ英國綠威ヲ以テ元トス

緯度ハ赤道ヲ以テ本位トナス

經緯一度ハ我カ二十八里十町三十一間三尺六寸ナリ

英里一哩<sup>マイル</sup>ハ我十四町七五一九 一鎖<sup>チェーン</sup>ハ一哩ノ八十分ノ二

一輪<sup>ホイール</sup>ハ一鎖ノ百分ノ一ナリ

一海里<sup>ナウティカルマイル</sup>ハ我カ十六町五十八間三尺一六ナリ

一級<sup>フット</sup>ハ曲尺ノ六尺三五ナリ

河川ハ灌溉航通ノ便アリテ二十里以上ノモノヲ掲ク

山岳ハ各道中ノ著名ナル者ヲ示ス

湖沼ハ周回二里余ニシテ有名ナル者ヲ詳記セリ

瀑布ハ重モニ三十丈以上ノ壯觀ナルモノヲ舉ク

訂正 增補 日本小地誌

第一編

地理學總論

第一章

今日本地誌ヲ編述スルニ先チ聊カ地理學ニ係ル大要ヲ掲ケテ讀者ノ注意ヲ延  
キテ地誌講究ノ資ニ供セン

1 地理學ノ定義ヲ示セ

I 地理學 (Geography) トハ地球則チ吾人ノ生息スル所ノ惑星ニ關スル萬般ノ現象ヲ研  
究スル學問ナリ

2 地理學ノ區別ヲ問フ

2 地理學ヲ三部ニ區別ス ㊦ 數理地理 ㊧ 自然地理 ㊨ 政治地理コレナリ

數理地理ハ數學ニ關スル地理學上ノ解明ヲ講究スル所ノ學問ニシテ地球ノ形狀及廣  
大及其結果ト地圖上ニ表ハセル地位ノ測定法等ヲ究ムル者ナリ

自然地理ハ海陸、山川ノ位置、風雨、寒暑ノ自然ヲ論シ動物、植物、礦物等ノ配布ヲ講  
究スル者ナリ

政治地理トハ境界形勢人民ノ風俗宗教職業政治等總テ人爲ニヨリテ生シタル者ヲ講究スルモノナリ蓋シ数理自然ノ兩地理學ニ於テハ天造ノ自然ニ出テ變易甚ク少シト雖モ政治地理學ニ至リテハ人力ニ關スルカ故ニ變易常ナラストス

## 第二章

數理地理 (Mathematical Geography)

地球ノ  
形狀ヲ問  
フ

3 吾人カ捷息セル地球ハ他ノ諸遊星ト同シク太陽ヲ中心トシテノ周圍ヲ運行スル行星ナリ而シテ其ノ形狀ハ完全ナル圓體ニアラストス

直徑凡三千二百七十七里周圍凡一萬二千三百三十里アリ地球表面ハ其廣サ殆ント一億一千九百五十五萬八千三百十三萬里アリ

地球ノ軸  
及  
兩極トハ  
如何

4 地球ノ軸〔則チ地軸〕ハ地球カ是ニ依テ回轉スルト想像サレタル線ニシテ是ノ兩端ハ則チ地球ノ兩極ナリ

赤道ト  
如何

5 赤道ハ地球ノ最大ナル箇所ヲ周ラシタル者ト想像サレタル圓ヲ云フ

地球ノ  
如何

6 地球ニハ自轉及公轉ノ二運動アリ而シテ自轉(或ハ日動トモ云フ)ハ晝夜ノ別ヲ生シ公轉(或

運動ヲ詳  
記セヨ

年動トモ云フ)ハ四季ノ別ヲ生ス

7 四季ノ  
生スル理  
如何

7 地球ノ公轉ハ季節ノ變化ヲ生スコレ地軸ノ軌道ノ平面ニ垂直線ヲナサスシテ殆ント六十六度三十分ノ角度ヲナスカ故ナリ

軌道ト太陽トノ平均距離ハ九十三万哩トス

8 經緯度  
ト如何  
ナルモノ

8 經度ハ一定ノ子午線(子午線トハ地球ノ表面上ヲ通行シ極ヨリ極ニ至ル線ナリ)ヨリ東西ニ度數ヲ測リタル距離ニシ

テ地球表面ニハ三百六十度ノ經度アリ

緯度トハ赤道ヨリ南北ニ度數ヲ以テ測リタル距離ヲ云フ

9 二至線  
ト如何  
ナルモノ

9 二至線トハ赤道ノ南北ニ在ル者ニシテ其北ニアルヲ夏至線(北半球ニ於テハ)其南ニアルヲ冬至線(南半球ニ於テハ)ト云フ此二線赤道ヲ距ル各二十三度半ノ處ニア

10 極圈ト  
如何ナル  
モノ

10 極圈ハ赤道ニ並行セルニ小圈ニシテ兩極ヲ距ル各二十三度半ノ所ニアリ北ノ極圈ヲ北極圈ト稱シ南ノ極圈ヲ南極圈ト稱ス

11 帶トハ

11 兩極圈ト二至線トカ地球ヲ通過ス之ニ依テ地球面ヲ五部ニ區分スコノ部分ヲ稱シ

如何ナル  
モノカ

テ帯ト云フ

- 一 北寒帯ハ北極圏ノ内ニアリ
- 二 北温帯ハ夏至線ト北極圏トノ間ニアリ
- 三 熱帯ハ夏至線ト冬至線トノ間ニアリ
- 四 南温帯ハ冬至線ト南極圏トノ間ニアリ
- 五 南寒帯ハ南極圏ノ内ニアリ

### 第三章

自然地理(Natural Geography)

12 地球ノ  
成立ヲ問  
フ

12 地球表面ノ成立ハ水四分ノ三陸四分ノ一ノ比例ヲ以テ水陸ニツヨリ成ル

13 陸トハ  
如何且ツ  
區分ヲ示  
シ詳記セ  
ヨ

13 地球ノ乾面ヲ陸ト云フ

幅員ニヨリ陸地ヲ區分スルト大陸及島トス

大陸トハ陸ノ最大部分ヲ云フ

嶋トハ四面水ニヨリテ圍繞サレタル陸地ヲ云フ而シテ陸島海嶋ノ二別アリ陸島ト

ハ大陸ニ附近シ其面積廣大ニシテ殆ント大陸ニ類似セル者ヲ云ヒ海島トハ絶海中  
ニ兀立スル孤島ヲ云フ

形状ニヨリテ是ヲ區分スレハ半嶋、岬、地峽ノ三トス

半嶋トハソノ大半水ニヨリテ圍繞サレタル陸地ヲ云フ

岬トハ洋海中ニ突出セル陸ノ極點ヲ云フ

地峽トハ兩陸ノ間ヲ連絡シタル所ノ狹少ナル陸地ヲ云フ

高度ニヨリ陸地ヲ區分シテ低地高地トシ更ニコレヲ細別スレハ低地ニ平原溪谷ノ二  
アリ高地ニ高原山岳ノ二アリトス

平原トハ陸ノ平坦ナル部分ニシテ海面上ヨリ甚ダ高カラサル所ヲ云フ

沙漠モ亦平原ナリトス

溪谷トハ近傍ノ地面ヨリ低卑ナル部分ヲ云フ

高原トハ海面上ヨリ甚ダ高度ニアル平原ヲ云フ

山岳トハ海面上ヨリ著ルシキ高度ニアル地塊ヲ云フ

14 海岸線トハ如何  
15 水ノ區分ヲ示セ

火山トハ烟火、灰、燐石等ヲ噴出スル者ヲ云フ

14 陸地ノ洋海ト相接シテ兩界ヲ限ル不規則ナル一線ヲ稱シテ海岸線ト云フ

15 地球上ノ水ヲ區分シテ洋及内陸ノ水トス

洋トハ地球ヲ圍繞セル鹽水ノ最大ナル部分ヲ云フ

内陸ノ水トハ陸地ノ内ニアル水部ヲ云フコレヲ區分シテ河及湖ノ二トス

海ハ洋ヨリ小ナル鹽水ノ部分ヲ云フ

洋海中ニ潮水ノ絶ヘス流馳スル者ヲ稱シテ潮流ト云フ

灣トハ陸ニ突入スル水ノ部分ヲ云フ

海峡トハ水ノ二大部分ヲ連絡セル狭少ナル水ヲ云フ

河トハ陸地ヲ流馳スル淡水ノ云ヒニシテソノ始メテ發スル所ヲ源ト稱シ流レテ他

ノ河川或ハ洋海湖等ニ注グ所ヲ河口ト云フ

湖トハ陸地ニヨリ圍繞サレタル水ヲ云フ

16 排水界

16 排水界トハ一川ト之カ支流トカ排水スル地方ヲ云フ

第四章

政治地理 (Political Geography)

17 人種ヲ區分シテ五トス ㊶黃人種 ㊷白人種 ㊸黑人種 ㊹褐色人種 ㊺銅色人種トス

18 人類開化ノ程度トハ人類カ社會ニ於ケル位置ヲ云フ而シテ此ノ程度ヲ概子野蠻、半

開、開明ノ三ニ區別ス

19 宗教ノ主要ナル者ハ佛教、婆羅門教、回々教、基督教トス

20 政体ヲ區別シテ二トス君主政治共和政治是ナリ

君主政治ニ立憲君主政治及專制君主政治ノ二アリトス

トハ如何  
17 人種ノ區分ヲ問フ  
18 人類開化ノ程度ヲ問フ  
19 宗教ノ主要ナル者ヲ問フ  
20 政体ノ區別ヲ問フ

地理學總論終

附表 邦制

(畿内) 山城、大和、河内、和泉、攝津  
 (東海道) 伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、附小笠原島、  
 (東山道) 近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後、  
 (山陰道) 丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐、  
 (山陽道) 播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、  
 (北陸道) 若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡、  
 (南海道) 紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐、  
 (西海道) 筑前、筑後、肥前、肥後、豐前、豐後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、附琉球  
 (北海道) 渡島、後志、膽振、石狩、天鹽、日高、十勝、釧路、根室、北見、千島、附千島群島、

各地方廳管轄國郡

北海道廳

渡島 茅部、龜田、上磯、福島、後志 久遠、太樺、瀬棚、島牧、森部、歌志、磯谷、高島、小樽、津輕、檜山、爾志、七郡、谷、岩内、古宇、稚丹、美濃、古平、余市、  
 十勝 釧路、川上、七郡、上川、釧路、白糠、釧路、厚岸、河東、  
 北見 宗谷、檜、紋別、常呂、網走、千島、  
 天鹽 天鹽、日高、  
 石狩 石狩、  
 根室 根室、

東京府

武藏 内務、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤阪、山谷、牛込、小石川、本  
 町、南足立、南葛飾、  
 六郡及七伊豆ノ内七嶋、

京都府

山城 上京、下京、二區、愛宕、葛野、乙訓、丹波 南桑田、北桑田、船井、丹後 天田、阿蘇ノ五郡、  
 加佐、與野、中、竹、野、熊野ノ五郡、

附表并各地方廳管轄國郡

大坂府

攝津、東區、西區、南區、北區、及東成、河内、南河内、中河内、和泉、堺市、北、泉南、三島、豐能、西成、住吉、ノ五郡、北河内ノ三郡

神奈川縣

武藏ノ内、横濱市及ヒ久良岐、橘樹、都筑、相模ノ内、三浦、鎌倉、高座、上、足柄下、愛甲、津久井ノ九郡、西多摩、南多摩、北多摩ノ六郡、大住、海鏡、足柄

兵庫縣

攝津ノ内、神戸市及武庫、川、播磨、姫路市及明石、美祿、加東、多可、加西、用、赤粟、但馬、城崎、三方、出石、丹波、水戸、多氣、淡路、津名、三原ノ十三郡、朝來ノ四郡、肥前ノ内、長崎市及ヒ西彼杵、東彼杵、北高來、壹岐、對馬、上、下

長崎縣

肥前ノ内、長崎市及ヒ西彼杵、東彼杵、北高來、壹岐、對馬、上、下、南高來、北松浦、南松浦ノ六郡、越後、新潟市及ヒ北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原、東蒲原、三浦、古志、北佐渡、魚沼、南魚沼、中魚沼、刈羽、東頸城、中頸城、西頸城、岩船十五郡、難波、加茂、羽茂ノ三郡

20 生蕃ノ概略ニ述

新潟縣

越後、新潟市及ヒ北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原、東蒲原、三浦、古志、北佐渡、魚沼、南魚沼、中魚沼、刈羽、東頸城、中頸城、西頸城、岩船十五郡、難波、加茂、羽茂ノ三郡

埼玉縣

武藏ノ内、北足立、新座、入間、高麗、比企、橫見、秩父、児玉、賀美、那珂、大里、曙、榛澤、男衾、北埼玉、南埼玉、北葛飾ノ十七郡、下總ノ内、中葛飾

千葉縣

安房、安房、平群、朝夷、上總、夷隅、望陀、周准、天羽、長柄、下總ノ内、東葛飾、印旛、下直生、南相馬、香取、海上、匝瑳ノ八郡、常陸、水戸市及ヒ東茨城、西茨城、那珂、久慈、多賀、鹿島、下總ノ内、結城、行方、信、河内、新治、筑波、眞壁ノ十三郡、豊田、西葛飾、猿島、北相馬ノ五郡

茨城縣

常陸、水戸市及ヒ東茨城、西茨城、那珂、久慈、多賀、鹿島、下總ノ内、結城、行方、信、河内、新治、筑波、眞壁ノ十三郡、豊田、西葛飾、猿島、北相馬ノ五郡

群馬縣

上野、東群馬、南勢多、西群馬、片岡、綠野、多胡、南甘樂、北甘樂、碓氷、吾妻、利根、北勢多、山田、新田、邑樂、佐位、那波ノ十七郡、下野、河内、上部賀、芳賀、下都賀、鹽谷、那須、安蘇、足利、栗田ノ九郡

栃木縣

下野、河内、上部賀、芳賀、下都賀、鹽谷、那須、安蘇、足利、栗田ノ九郡

奈良縣

大和、東平城、西平城、葛城、磯城、橿原、宇陀、宇智、吉野ノ八郡

21 風俗ヲ問フ

21 人口ハ幾何アリヤ

○附表邦制各址方廳管轄國郡

三重縣

伊勢津市及桑名、員部、三重、鈴鹿、河德、  
安濃、一志、飯、多氣、度會、九郡、  
紀伊ノ内 北牟婁、南牟婁、  
志摩 志摩ノ一郡

愛知縣

尾張 名古屋、市及愛知、東春日井、西春日井、丹、  
有、津、豐田、中、海、東、海、西、知多ノ九郡、  
三河 三河ノ一郡、  
設樂、安、飯、渡、  
美、八、名、ノ、十、郡、

靜岡縣

駿河 静岡市及駿東、富士、庵原、  
有、渡、安、倍、志、太、益、津、ノ、七、郡、  
遠江 遠江ノ一郡、  
伊豆 伊豆ノ一郡、  
那、田、方、ノ、四、郡、

山梨縣

甲斐 甲府市及山梨、西山梨、東八代、南巨摩、  
北巨摩、西八代、南都留、北都留ノ八郡、

滋賀縣

近江 滋賀、栗太、野洲、甲賀、蒲生、神崎、愛知、犬上、  
坂田、東淺井、伊香、高嶋ノ十二郡、

岐阜縣

美濃 岐阜市及厚見、各務、方、羽、栗、中、嶋、海、西、下、石、津、多、藝、上、石、津、不、  
破、安、八、大、野、池、田、本、巢、藤、田、山、縣、武、儀、郡、上、加、茂、可、兒、土、岐、

〇八種ヲ  
開フ

長野縣

信濃 南、北、佐、久、小、縣、諏、訪、上、伊、那、下、伊、那、四、筑、摩、東、筑、摩、南、安、曇、  
北、安、曇、更、級、埴、科、上、高、井、下、高、井、上、水、内、下、水、内、ノ、十、六、郡、

宮城縣

陸前ノ内 仙台市及宮城、名取、柴田、黒川、加美、志田、玉、盤、城、ノ、内、刈、  
造、遠、田、栗、原、登、米、桃、生、牡、鹿、本、吉、ノ、十、三、郡、  
伊、具、亘、理、  
ノ、三、郡、

福島縣

磐城ノ内 東、白、川、西、白、川、石、川、田、村、菊、多、磐、前、  
磐、城、檜、葉、標、葉、行、方、宇、多、ノ、十、一、郡、  
岩、代 岩、代、伊、達、安、達、  
津、北、會、津、耶、麻、  
河、沼、大、沼、ノ、十、郡、

巖手縣

陸中 森岡市及南、北、巖、手、紫、波、稷、賀、東、和、賀、四、和、賀、膽、澤、江、刺、西、磐、  
井、東、磐、井、西、閉、伊、南、閉、伊、東、閉、伊、中、閉、伊、北、閉、伊、南、九、戸、北、九、戸、ノ、十、  
七、郡、  
陸前ノ内 氣、仙、ノ、二、郡、  
陸奥ノ内 弘、前、市、及、東、津、輕、西、津、輕、中、津、輕、南、津、  
輕、北、津、輕、上、北、下、北、三、月、ノ、八、郡、

青森縣

陸奥ノ内 弘、前、市、及、東、津、輕、西、津、輕、中、津、輕、南、津、  
輕、北、津、輕、上、北、下、北、三、月、ノ、八、郡、



山形縣

羽前 山形、米澤ノ二市及南村山、東村山、西村山、北村山、最上、東田川、西田川、西置賜、東置賜、南置賜ノ十郡、羽後ノ内 鮎海ノ

秋田縣

羽後ノ内 秋田市及南秋田、北秋田、山本、河、邊、由利、仙北、平鹿、雄勝ノ八郡、陸中ノ内 鹿角ノ

福井縣

越前 福井市及足羽、吉田、坂井、大野、南條、今立、丹生、敦賀ノ八郡、石狹 三方、遠敷、大飯ノ三郡、

石川縣

加賀 金澤市及江沼、能美、石川、河北ノ四郡、能登 羽咋、鹿嶋、鳳至、珠洲ノ四郡、

富山縣

越中 富山、高岡ノ二市、上新川、婦負、下新川、射水、礪波ノ五郡、

鳥取縣

因幡 鳥取市及岩美、八頭、日野ノ三郡、伯耆 東伯、西伯、日野ノ三郡、

島根縣

出雲 松江市及鴨根、八束、石見、石東、邑智、那賀、美濃、鹿足ノ五郡、隱岐 知夫、海士、周吉、松江、大國、ノ四郡、

岡山縣

備前 岡山市及御野、津高、赤坂、笠原、和氣、邑久、上道、兒嶋ノ八郡、備中 都宇、窪屋、後口、小田、後月、下道、賀陽、上房、川上、哲多、

廣島縣

安藝 廣島市及安藝、佐伯、沼高、山、高田、賀茂、豐田ノ七郡、備後 鞆、三次、三可惡ノ七郡、

山口縣

周防 赤間關市及大崎、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉城ノ六郡、長門 厚狹、豐浦、美祿、都濃、阿武ノ五郡、

和歌山縣

紀伊ノ内 和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁ノ七郡、

德島縣

阿波 徳島市及七名東、那賀、那珂、海部、名西、板野、阿波、麻植、美濃、三好ノ十郡、

香川縣

讃岐 大川、木田、小豆、香川、阿野、中多度、那珂、三豐ノ八郡、

愛媛縣

伊豫 松山市及比治、越智、新井、周桑、宇摩、上野、下野、伊豫、喜多、四宇和、東宇和、北宇和、南宇和ノ十三郡、

高知縣

土佐 高知市及安藝、香美、長岡、土佐、吾川、高岡、幡多ノ七郡、

福岡縣

筑前福岡市及糟屋、宗像、遠賀、鞍手、嘉穗、筑後久留米市及七生、浮羽、  
三浦朝倉、筑紫、怡土志摩、早良、八郡三浦、豐前企救、田川、京都、筑後御井、山本、三橋、山門、  
八郡豊前、築後久留米市及七生、浮羽、

大分縣

豐前下毛、宇佐、豐後西國東、東國東、肥前佐賀市及佐賀、肥後熊本、日向日向、

佐賀縣

肥前佐賀市及佐賀、肥後熊本、日向日向、

熊本縣

肥後熊本、日向日向、

宮崎縣

日向日向、

鹿兒島縣

日向日向、

沖繩縣

琉球那覇、首里、島尻、中頭、國頭、

計 一廳、三府、四十四縣、八十四國、二十一區、三十六市

六百五十七郡沖繩縣

各地方廳管轄國郡縣

第二編

日本地理總論

第一章

日本帝國  
面積  
ノ面積  
ノ面積

1 日本帝國ハ地球ノ東半球ニ表立シテ亞細亞洲ノ東部ニ位シ東北ヨリ斜ニ西南ニ連  
 亘シ四大島及是ニ附屬スル許多ノ島嶼ヨリ成立ス而シテ全ク温帶國裡ニアリ  
 四大嶋トハ本洲島、四國島、九州島、蝦夷島、ノ云ヒニシテ是ニ附屬セルノ島嶼ハ  
 二千有餘アリ就中住民アル者五百二十餘ニシテ重モナルモノヲ千島、琉球、佐渡  
 、對馬、淡路、隱岐、壹岐、小笠原ノ諸島トス

2 面積凡二萬四千七百九十四方里ニシテ今是ヲ細別スレハ左ノ如シ

- 本洲 一萬四千五百七十一方里
- 蝦夷 五千六十一方里
- 九州 二千六百七十七方里
- 四國 千八百八十七方里

日本帝國  
ノ經緯  
度ノ間

3 經緯度ハ

- 東 東經百五十六度三十二分 千島國占守郡占守島東端
- 西 東經百二十二度四十五分 琉球國與那國島西端
- 南 北緯二十四度六分 琉球國波照間島南端
- 北 北緯五十度十六分 千島國占守郡アライト島北端

- 千島 千三十三方里
- 琉球 百五十六方里
- 佐渡 五十六方里
- 對馬 四十方里
- 淡路 三十六方里
- 隱岐 二十一方里
- 壹岐 八方里
- 小笠原 四方里

(備考) 經度ハ英國綠威ヲ元トス

夫レ經度ハ總テ英國綠威ヲ以テ元トシ計算スルト雖モ各國ノ便宜ニヨリ其首府ヲ元トナスコトアリ故ニ今我國ニ於テ東京本丸視天臺ヲ元トシ計算シタル者ヲ茲ニ示ス

東 東經十六度四十七分

(場所ハ前同) 樣ナリ省ク

西 東經十七度

4 四方海ヲ以テ繞ラシ西北ハ日本海ヲ隔テ、露領滿洲ト對シ西にこらいつく海峡ヲ以テ朝鮮ヲ望ミ西南ハ群島斷續シテ近ク台灣島ニ瀕シ支那海ヲ隔テ支那本部ニ對シ東北ハ宗谷海峡ヲ以テ露領樺太島ニ面シ千島久里留海峡ヲ以テかむさすかニ對シ東南ハ總テ太平洋ニシテ小笠原群島其洋中ニ羅列セリ

5 日本ノ諸島嶼ハ要スルニ山脈ノ集合シテナレル者トス而テ其脈ノ主要ナル者ニアリ一ハ南、西ヨリ北、東ノ方向ニ走リ一ハ南、南西ヨリ北、北東ニ走ル此第一ニ屬スルモノ亦ニアリ其一ハ九州ニ起リ始メハ薩摩、肥後ノ境ヲナシ少シク北ニ進ンテ豊

日本帝國ノ境界ヲ開ク

山脈ヲ開ク

後ト日向ノ境ヲナシ速吸海峡ヲ通りテ四國ヲ横キリ遂ニ本洲ノ伊勢ニ亘ル者其二ハ九州ノ北、西都ヨリ起リ速瀬海峡ヲ過キ四國ヲ通りテ本洲ノ中部ニ亘ル此ノ山脈ハ前山脈ト並行セリ又タ第二ニモ主要ナルモノニアリ一ハ主トシテ奥羽ノ分境ヲナシ一ハ前山脈ト並行シ太平洋ト北上川ノ間ニ亘レリ此ノ二山脈ハ共ニ日本ノ北部ヨリ北南、西部ニ亘ル

本洲ノ中部ニ在リテ前二者ノ中間ニ位スル山脈アリ飛騨信濃ノ間ニ亘ル蝦夷ニハ千島ヨリ來ル一脉ト樺太ヨリ南走スル一脉ト其中央部ニ於テ集合シ所々ニ蟠結シテ蝦夷ノ主要山脈ヲ形成セリ

本邦火山ノ數ハ少ク凡百二十餘アルナリ活火山ハ五十一ニシテコレヲ細別スレハ千島三十六アリ蝦夷二十一アリ其他二十四ハ南方ノ洲及島ニアリ本洲ニ付キ概述セバ畿内ニナク四國ニ稀ニ中國ニ少シクアリテ最も多キ部分ヲ越後武藏ヨリ中部ニ掛リシ地方ナリトス

6 全國ノ地勢ハ幅員狹ク左右海ニ濱スルカ故ニ大陸地方ノ如キ長流大河ニアラス而

河系ヲ

問  
日本帝國ノ沿海ヲ示

シテ源ヲ連山ノ間及湖沼ヨリ發シ山嶺ノ腹背ニ沿ヒテ平野ニ注キ海ニ入ル故ニ田圃旱燥ノ憂甚タ少シトス

我邦ノ海岸ハ交牙深ク從テ其濶頗ル多シ四國及北海道ハ其屬而甚タシカラサルモ本洲ノ南方及九州ノ西方ハ甚タシク四大島及豆南諸島千島群島洲南諸島ヲ合スレハ海岸線ノ延長ハ凡ソ一萬五千三百里ニモ及ヘリ

我邦沿海ノ測量未ダ充分ナラサルヲ以テ沿海線モ亦精密ナラス次ニ示ス所ノ表ハ文政年間幕府ノ命ヲ受ケ伊能忠敬ナル人ノ海岸ニ接近セル道路ヲ測量セシモノナリ故ニ沿海線トシテ見ルモ亦タ可ナルベシ氏カ焦必苦慮シテ定メタルハ驛度一度ノ長サ(則チ南北)ヲ我ニ里二分即チ六十八英里八。八トシタルトコレナリ然ニ今泰西ニ於テ各國聯合シテ測算シタル者ト大差アルヲナシ是ニヨリコレヲ見レハ氏ノ測算實ニ精密ナリト謂ヘシ

氏ノ此測量ヲ始メタル東京芝ノ大木戸ヨリ東海道沿海ノ場處ヲ旅シ大阪ニ出テ山陽道ヲ歷テ長門馬關ニ來リ次ニ山陰道ヲ廻リ越前敦賀ニ至リ夫ヨリ陸奥ノ三廐ニ赴キ

東京芝ニ歸レリ

至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從
東大坂	大馬關	馬關	教賀	三教	三教	三教	三教	三教	三教
五百七拾一里二十七町三拾五間	三百十二里三十二町十六間	三百二十七里拾一町十二間	三百二十三里廿三町四十二間	四百二拾六里六町十間	千九百六十一里二十八町五十五間				
合	計								

四國ハ阿波國板野村岡崎村ヨリ始メ其レヨリ南ニ巡リ伊豫宇和島ニ至リ北ニ廻リ岡崎ニ歸ル

至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從	至從
四國	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島
二百六十七里二十七町四十一間	百八十三里十二町三十五間	四百五十一里四町十六間							
合	計								

九州ハ豐前小倉ヨリ東南ヲ廻リ鹿兒嶋ニ至リソレヨリ長崎ニ出テ小倉ニ歸レリ

九州沿海

至從小	至從長	至從小
島	島	島
三百五十一里二十一町二十八間	二百四十七里十六町三十七間半	二百六十一里五町二十四間
合計	八百六十里七町四十九間半	

北海道ハ松前ヨリ始メ其東岸ニ沿フテ根室目梨郡ニ出シカ如シ是レヨリ精密ノ測算ナキヲ以テ表ヲ掲ケス

千島ハ其周圍一里以上ノモノハ皆計算シアリ

8 潮流

8 太平洋中ノ我群島則チ琉球地方ノ南面ニ沿フテ西南ヨリ斜ニ東北ニ流ル、黒潮ハ恰モ赤道直下ヨリ支那東岸ヲ旋リテ九州ノ南端ニ來リニ流ニ分レ一ハ日本海ニ注キ一ハ四國本洲ノ南ニ赴キ東海道ニテ又タニ流トナリ一ハ北向シテ銚子<sup>チウシ</sup>下ヨリ北海道ノ南ニ注キ一ハ南ニ流レ太平洋ニ赴ケリ

黒潮ハ其色曇天ノ日ニハ灰色ヲ呈シ日光ヲ受クルルハ細濺藍色トナル故ニ精密ニ色ヲ識別シ能ハサル人ニハ黒色ニ見ユコレ其名アル所以ナリ

9 氣候

9 千島群島及北海道ノ北部ハ氣候寒冽ニシテ年ノ半ハ青草ヲ見サル如キアアルモ南方ニ向フニ從ヒ漸次温和トナル九州四國山陽及東海ノ諸道ハ黒潮ノタメニ極メテ暖ナリ

10 地味

10 全國地味肥沃ナルモ山陰ノ一道甚ダ瘠瘠ナリトハ

11 物産

11 物産ヲ記スニ知リ易カラシメテ分チテ述ベン

農産物ノ主ナルモノハ米、大麥、裸麥、小麥、豆類、蕎麥、蕎麥、茶、粟、甘藷、馬鈴薯、綿實、藍葉、芥子、煙草等アリ

品中主要ナル者

米ハ常食トシテ欠ク可カラサルモノニシテ且ツ酒類ヲ作ルニ必要ナルカ故ニ産地甚タ多シ

凡ソ日本耕地ノ六分ハ米田ナリトス而シテ其收穫ノ最多キハ新潟、兵庫、千葉、福岡ノ四縣ニシテ各百万石以上ノ收穫アリ新潟縣ハ他ニ比シテ比較的多カラサルモ其區域他ヨリ遙ニ廣キカ故ニ收穫高全國ニ冠タリ米質亦タ最モ良シ福岡千葉二縣ハ比較的米田ノ多キ遠ク他縣ニ勝ユ

大麥ハ埼玉縣ノ主産地タリ他ニ比シテ畝地ノ多キヲ本邦第一タリ  
 裸麥ハ愛媛縣第一位ヲ占メ小麥ハ埼玉群馬ノ二縣ヲ主トス養蠶ノ最モ盛ナルハ  
 長野、福島、群馬、滋賀、ノ四縣ニシテ就中蠶糸ヲ最モ多ク出スハ群馬縣ナリトス他  
 ノ三縣ハ重ニ繭及蠶卵紙ヲ出セリ  
 茶ハ日本ノ地味能クソノ培養ニ適セリ其主産地ハ京都静岡三重ノ一府二縣ニシテ  
 最良品ハ京都府ヨリ出テ最モ多キハ静岡縣ナリ  
 水産物ハ漁業、製鹽、ノ二分ニ分ツ  
 本邦ノ漁業ハ盛大ナルヲ以テ其採取スル所頗ル多シ今其品目ヲ舉ケレハ乾鰯、魚油、  
 乾魚、鹽魚、等トス  
 乾鰯ハ千葉縣ソノ主産地タリ魚油ハ宮城千葉二縣及北海道ヲ以テ主産地トス  
 本邦ノ鹽ハ概子海水ヨリ採ル岩代國等ニハ山鹽ヲ産スルモ其ノ量極メテ少ナシ主  
 要ナル製鹽地ハ内海ニ濱スル地方ニシテ愛媛、山口、兵庫、徳島、廣島、岡山、等ノ諸縣  
 ナリ

礦産ノ主ナル者ハ石炭、銅、鉄、金、銀、鉛、石油、硫黃、陶土トス  
 石炭産出ノ主要ナル地ヲ高島、唐津(共ニ)三池(筑)ノ三地トス而シテ肥前一國ヨリ  
 産スル石炭ノ産出高ハ實ニ全國産出ノ半ニ近シ  
 銅ノ最出地ハ天和銅山(大)尾去澤(中)別子銅山(越後)等トス  
 鐵ノ製出高最モ多キ地ハ山陰山陽兩道トス  
 金ノ製出地ハ佐渡、丹波(野)甲斐大隅等ナリ  
 銀ハ佐渡、丹波(野)飛彈、岩代(半田)陸中、越前、播磨等ヨリ出ツ而シテ全國製出高ノ  
 三分ノ一ハ岩代ヨリ出ツル者ナリ  
 鉛ハ飛彈ヨリ出ツル最モ多シ  
 石油ハ本邦ニ産スルヲ微少ニシテ内國ノ需要ニサヘ足ラサルナリ其主ナル産出地  
 ハ遠江、越後、石狩等トス  
 硫黃ハ豊後北見韃路千島トス而シニ千島ハ全國産出高ノ四分ノ一ヲ出セリ  
 陶土ハ尾張肥前等ヲ以テ主トナス

製造物ニハ生糸、絹布、陶器、砂糖、漆器、酒類、等ソノ主タリ

元來我邦ノ紡績ハ人手ヲ以テナシ居リシモ近來大ニ發達進歩シ水力蒸氣力ニヨリ工場モ亦々増加シ頗ル盛大ニ向ケリ

陶器ヲ製造スル主ナル地ハ山城(京)加賀尾張肥前(布)薩摩等トス巧クミニ鳥草花ヲ燒キ付ケルヲ以テ名アリ

砂糖ハ全國至ル所盛ニ製造セリ北海道膽振門別製糖場ニテ八十萬圓餘ノ價額ヲ出スト

漆器ハ他國人民ノナシ得サル所ニシテ日本故有ノ製品ナリトハ外人ノ常ニ賞評スル所ナリコレ本邦諸山ノ漆樹良好ナル漆液ヲ合メル故ナルベシ然ニ近日ニ至リテハ奸商徒ヲニ利ニ奔リ劣品ヲ出シ欺キ信用ノ幾分ヲ減セリ

酒ハ本邦主要ナル物産ノ一ニシテ各府縣中醸造高ノ最多キヲ兵庫縣トス

醬油ハ本邦ニアリテハ欠ク可カラサル日用品ニシテ千葉縣最モ醸造多シ

輸出物中最モ主要ナル者ハ生糸、絹布、茶、陶器、漆器、銅類、米、油類、樟腦等トス

輸入物ハ金巾、鐘物、時計類、毛皮、毛織物、書籍等ナリ

特別輸出港ハ四日市(伊)馬關(長)博多(筑)門司(豐)口ノ津(肥)唐津(肥)三角(肥)伏木(越)小樽(後志)ノ九港トス

附誌

東京ト各地ト時間ノ差

東京ノ正午ニ對スル時

札幌 午後零時六分三十秒

仙臺 全 零時四分二十八秒

函館 全 零時三分五十二秒

新潟 午前十一時五十七分九秒

名古屋 全 十一時四十八分三十二秒

京都 全 十一時四十三分五十九秒

大阪 全 十一時四十二分五十四秒



兵庫 午前十一時四十一分三十三秒  
 廣島 全 十一時三十分四十七秒  
 熊本 全 十一時二十三分四十七秒  
 長崎 全 十一時二十分二十八秒  
 那覇 全 十一時一分四十秒

第二章

12 道路ノ制ヲ問フ

12 維新以來道路大ニ改タマル然レモ秋田青森及信濃飛騨地方ハ未タ惡シキ所多シトス今マ道路ヲ分チテ國道縣道里道ノ三トナス  
 國道ハ其幅員七間ヨリ狭少ナサル者ヲ云フ東京ヨリ各國ノ港灣、伊勢宗廟、各府縣、各鎮守府、各鎮臺、ニ達スルノ道路及各府、各鎮臺ヲ拘聯スル道路、及鎮守府ト鎮臺ヲ拘聯スル道路コレナリ  
 縣道トハ四間乃至五間ノ道路ニシテ各府縣ヲ相接觸シ及各鎮臺ヨリ各分營ニ達スル路、各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルノ路、著名ノ區ヨリ都會ニ達シ或ハ其區ニ往還ス

13 交通ノ有様ヲ問フ

ヘキ便宜ノ港等ニ達スル道路ヲ云フ  
 里道ハ一定ノ幅員アラスシテ彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ神社佛閣及田畑耕耘ノ爲メ或ハ堤防牧蓄鑛山製造所等ノ爲メニ該區人民ノ協議ヲ以テ別ニ設クル道路ヲ云フ  
 13 本邦ノ地勢延長ナリト雖モ其幅員狹ク海港水利ニ富ムカ故ニ海陸ノ運輸極メテ便ナリ而シテ維新以來鐵道、電信、郵便、燈臺、等ノ設ケアルアリ座シテ交チ千里ノ外ニ通スルヲ得ルニ至ル今マ項ヲ分チテ概述セン  
 陸運 鐵道工事頻リニ起リ道路ノ修築新築益々進歩シ運搬ノ便大ナリトス今街道ノ主ナルモノヲ舉グレハ東海道路ハ本島ノ南東海岸ニ沿ヒ東京ト京坂地ヲ相連絡セリ又此ノ三府ヲ連絡スル別道路アリ仲仙道路コレナリ同街道ハ東海道路ノ北ニ沿フテ本洲ノ中心ヲ貫通ス又東京青森間ヲ通スルヲ與洲街道ト云ヒ東京甲府ヲ通スルヲ甲洲街道ト云フ又タ東京ト新潟トヲ通スルニ道アリ尙京阪ノ兩方ニ至リ數多ノ街道アリ近來修築シ良美ノモノトナレリ  
 四國九洲ノ道路ハ近來其面目ヲ改メ昔時ノ險惡ニ比ス能ハス其他今茲ニ略ス

陸運ニ供スル運搬要具ハ馬車(一万八千餘輛)人力車(十九万餘)牛車(六千九百餘)荷  
 籠車(五十七万七千餘)トス  
 水運ノ業モ亦甚タ進歩セリ且ツ短小ナルモ數多ノ河川内地ヲ網羅スルヲ以テ  
 利甚タシ汽船總數千二百四十餘ニシテ和船五十四萬餘アリ  
 鐵道 明治五年東京橫濱間ニ布設セシ鐵道ハ我國鐵道ノ濫觴ニシテ爾來神戸大阪間  
 ノ布設ヲ始メトシ官民兩設ノモノ日ニ多ク最近ニ至リテハ民設頗ル旺盛殆ド全  
 國ニ普及カヲントスルノ狀況ナリ今全國鐵道線路表ヲ左ニ掲ケ以テ其盛況ヲ示サン

全國鐵道線路表

●官有鐵道		●大阪鐵道	
新橋橫濱間	一八、〇〇	湊町王寺間	一五、七八
東京(新橋)神戸間	三七六、三二	王寺櫻井間	一三、一一
大船橫須賀間	一〇、〇三	湊町奈良間	二五、三六
大府武豐間	一一、〇一	湊町梅田間	八、七九
米原金ヶ崎間	三二、〇一	●浪速鐵道	
高崎直江津間	一一七、一〇	片町四條阪間	八、一四
青森碓ヶ關間	三五、六〇	●阪神鐵道	

難波堺間	六、二二	小倉行橋間	一四、六四
●攝津鐵道		鳥栖武雄間	三三、〇〇
尼ヶ崎池田間	八、三四	●筑豐鐵道	
●關西鐵道		若松白井間	二八、六五
名古屋龜田間	三七、二六	直方金田間	六、二〇
龜田津間	九、六〇	小竹幸袋間	三、〇四
草津龜田間	三五、〇七	●讚岐鐵道	
●參宮鐵道		丸龜琴平間	一〇、一五
津宮川間	二二、五八	●豐州鐵道	
●山陽鐵道		行橋伊田間	一六、四〇
神戸廣島間	一九八、六二	●道後鐵道	
●播但鐵道		道後古町間	一、六四
備磨生野間	三三、〇〇	●伊豫鐵道	
●奈良鐵道		平井河原高濱間	一〇、一九
京都奈良間	三四、〇〇	●甲武鐵道	
●九州鐵道		●川越鐵道	
門司松橋間	一三〇、七五	●青梅鐵道	

○附表并備各地方產物轉國郡

飯田町(東京)八王寺間	二六、七六	越名爲生間	九、五六
國分寺川越間	一八、四〇	●炭礦鐵道	
立州青梅間	一一、三三	手宮室蘭間	一三〇、五三
●日本鐵道		岩見澤砂川間	一一、〇七
新橋赤羽間	一六、一四	岩見澤歌志内間	三〇、七一
土浦友部間	二一、六〇	岩見澤空知太間	二四、七五
上野前橋間	六九、〇九	岩見澤内太間	六、六〇
東京(上野)青森間	四五、六六	岩見澤内間	八、七七
小山水戸間	四一、四五	岩見澤幾春別間	一一、一九
宇都宮日光間	二五、〇〇	追分夕張間	二六、四八
尻内湊間	五、〇四	●釧路鐵道	
●兩毛鐵道		標茶跡佐登間	二五、七八
小山前橋間	五〇、七五	●全國鐵道哩數	二、二四四、一五
●佐野鐵道			

電信 海港等船舶出入多ク交通盛ナル地ノミニシテ内地ニハ甚タ少シトス  
又タ水庭電線ハ

箱館ト陸奥ノ間ニアリ以テ北部ト本洲トノ交通ナシ淡路ト播磨トノ間及備前ト  
讃岐トノ間ニ設クルモノハ四國ヘノ交通ナセリ又タ赤間ケ關ト豐前トノ間ニ設ク  
ルモノハ九州ヘノ交通タリ次ニ海外ニ通スル者ハ肥前ヨリ壹岐ニソレヨリ對馬ニ通  
シ朝鮮釜山ニ達ス又長崎ヨリウラジハすとつクニ通シ全所ヨリモベリニソレヨリ  
魯國電信線ニヨリ以テ歐洲ト交通ス又長崎ヨリ上海ニ通シコレヨリ印度電信線ニヨ  
リ歐洲ト交通スルナリ

電信局チ分チテ一等二等三等ノ三種トス一等電信局ノ所在地ハ東京、京都、大阪ノ三  
府及横濱、神戸、長崎、箱館、新潟ノ五區ナリ

郵便 其法略ホ整頓セリト云フヘキカ郵便局モ亦一等二等三等ノ三種ニ分ツ一等郵  
便局ノ所在地ハ三府五港及名古屋區熊本區廣島區仙臺區赤間ケ關區ナリ現今郵便局

ナ電信局ト合併シテ一等郵便電信局ヲ形成セル地アリ即チ京都、横濱、神戸、長崎、箱館、新潟、赤間ヶ關ノ一府六區トス一等郵便局ノ獨立シテ設置セルハ東京、大阪、熊本、仙臺、廣島、トス

燈臺 燈臺ヲ設置スルハ海濱ニ於テ航船ノ便ヲ計リ其ノ適當ノ場所ニ設ケ陸地ノ位置方向等總テ航海中船舶ニ關スル危險ヲ防クニアリ

日本ノ如キ四圍海洋タルノ國ハ特ニ其必要ヲ感ス其數五十九(明治二十一年ノ調査ナリ)アリトス

14 陸軍各師團配置ノ地

14 陸海軍  
々管ノ所  
在地ノ間  
フ

- 第一師團 東京鎮臺 東京營所 高崎分營
- 第二師團 佐倉營所
- 第二師團 仙臺鎮臺 仙臺營所 新發田分營
- 第三師團 仙臺營所
- 第四師團 青森營所

第三師團

名古屋鎮臺

第五旅團

名古屋營所

豊島分營

第六旅團

金澤營所

第四師團

大阪鎮臺

第七旅團

大阪營所

大津分營

第八旅團

姫路營所

第五師團

廣島鎮臺

第九旅團

廣島營所

第十旅團

松山營所

丸龜分營

第六師團

熊本鎮臺

第十一旅團

熊本營所

第十二旅團

小倉營所

福岡分營

以上ノ外更ニ六師團ヲ置キ合セテ十二師團ト爲スコトニ決セリ

海軍區

- 第一海軍區 橫須賀鎮守府
- 第二海軍區 吳鎮守府
- 第三海軍區 佐世保鎮守府
- 第四海軍區 鎮守府未定
- 第五海軍區 鎮守府未定

軍艦四十五艘アリトス(征清ノ際収容セシ軍艦ヲ除ク)

15 日本人種ハ各種ニ屬スルカ

15 我國人ハ黄色人種ニ屬セルカ如シ肌膚褐也ヲ呈シ毛髮純黒ニシテ髭鬚少シ今マ上古ノ人種ヲ按スルニ天神ノ裔ト土人種ノ二種アリトス土人ハ後蝦夷ニ退ク又タ三韓支那ノ民歸化シ此ニ至リテ種族混淆セリ

國民ノ階級ニ四アリ皇族、華族、士族、平民、トス彼ノ世人ヨリ輕蔑ヲ受ケ賤マレタル穢多モ明治ノ聖代ニ遇ヒ公民ニ編入セラレ

16 國語

16 我國ハ言靈ノ幸フ國ト稱シ唯タ言語ヲ貴ベリ然ニ三韓内屈セシヨリ韓音ヲ交ヘ漢文來リシヨリ漢語ヲ交ヘ佛法傳來シテ梵語ヲ間ヘ爰ニ至リ雜錯ノ純粹ナル國語ヲメ

17 宗教ノ有様ヲ問フ

知ルヲ難キニ至ル若シ此ノ如クンハ幾百年ノ後チ是カ判別チナス能ハサルニ至ラカ  
17 我邦ハ古來祭政チ一ニシ而シテ固有ノ宗教ト稱スルモノナシ信仰ハ自由ニシテ佛敎漸ク不振ノ傾向アルカ如ク基督教之ニ反シテ讚美ノ歌聲頗ル高シト雖モ實ニ人心ヲ支配スル者ハソレ儒敎ナランカ尙ホ神道アルモ微々乎タリ

18 政体ハ如何

18 我皇統ハ一系ニシテ連綿タルヲ二千五百五十一年實ニ世界上無比ノ國ニシテ天子ノ外ニ至尊ナク上下分定リ國体ノ尊嚴犯スヘカラス皇帝ハ專權ナルモ臣民泰山ノ安キニ居ル然ルニ明治二十三年ヲ以テ歡呼ノ中ニ主憲君主政体ヲ確立シ帝國議會ノ開設アリテ人民政ニ參與スルニ至レリ

19 條約國ノ名ヲ舉ゲ

19 方今我邦ト同盟シテ條約ヲ締結セル各國ハ亞米利加合衆國、魯西亞、和蘭、大不列顛、日耳曼、佛蘭西、瑞西、葡萄牙、伊太利、丁赫、白耳義、瑞典、諾威、奧太利、西班牙、布哇、白露、暹羅、清國、墨西哥、朝鮮ノ廿一國トス

附 誌

内國諸港ヘノ航路里程

横濱ヨリ	
駿河清水港	五十海里
伊勢四日市港	百九十海里
攝津神戸港	三百四十三海里
長門赤間ヶ關港	五百六十六海里
肥前長崎港	七百〇七海里
琉球那覇港	千〇三十五海里
薩摩鹿兒島港	五百六十五海里
陸前萩ノ濱港	二百七十海里
陸奥青森港	四百六十二海里
渡島函館港	五百十八海里
後志小樽港	八百十海里
根室根室港	八百海里

越中伏木港	八百三十九海里
越後新潟港	七百三十八海里
神戸ヨリ	
備後尾道港	百〇八海里
長崎ヨリ	
筑前博多港	九十六海里
肥前島原港	五十五海里
對馬嚴原港	百十海里
薩摩鹿兒島港	百五十二海里
新潟ヨリ	
長門馬關港	四百九十三海里
越前敦賀港	二百三十海里
越中伏木港	百二十二海里

羽後酒田港	六十八海里
越後直江津	六十三海里
函館ヨリ	
陸奥青森港	五十九海里
羽後酒田港	百十九海里
根室根室港	二百九十五海里
外國有名諸港へノ航路里程	
横濱ヨリ	
香港	千三百五十六海里
柴根	二千二百四十九海里
新嘉坡	二千八百六十三海里
錫蘭	四千三百七十三海里
亞丁	六千五百七海里

蘇士	七千八百十五海里
伊國那不兒	九千三十二海里
佛國馬耳塞	九千五百二十八海里
布哇	三千二百四十三海里
桑港	三千九百十二海里
巴拿馬ヲ經紐育	八千九百二十四海里
濠洲麥普尼	四千二百二十九海里
長崎ヨリ	
上海	四百三十七海里
芝罘	四百九十二海里
天津	六百六十三海里
釜山浦	百六十二海里
仁川	四百五十八海里

元山津  
浦潮斯德

四百六十海里  
六百五十五海里

(備考 一海里八十六町九分七厘五毛ナリ)

### 日本地理總論終

### 第三編

#### 日本地理各論

#### 第一章

#### 畿内誌

- 1 位置ヲ示セ
  - 2 境界ヲ示セ
  - 3 經緯度ヲ問フ
  - 4 形勢ヲ問フ
- 1 畿内ハ殆ト我帝國ノ中央部ニ位シ五ヶ國ヨリナルガ故ニ亦タ五畿内トモ稱セリ
- 2 南、紀伊ニ接シ西北、山陰(丹)山陽(播磨)兩道ニ連ナリ東ハ東海道(伊賀)東山道(近江)ニ界シ西方ノ一部彎曲シテ海ヲ擁ス大阪灣コレナリ
- 3 東經百三十五度十八分ヨリ三十六度二十六分ニ至リ北緯三十三度五十分ヨリ三十六度二十六分ニ盡ク面積凡四百四十五方里
- 4 畿内ノ地勢タル南北ニ長ク東西ニ短ク東、北、南、ノ三面ハ高地ナリトス特ニ南部則チ大和ハ高山峻岳多シ山城ノ中央部大和ノ北部淀川沿岸ノ地方ハ總テ平野ニシテ肥沃ナリ

#### 第二章



5 河川ノ  
主ナル者  
ヲ舉ゲヨ

5 淀川ハ近江ニ於テ瀬多川ト云ヒ宇治ニ至リ宇治川ト稱シ淀ヨリ以下淀川ト稱ス  
ノ源近江琵琶湖ニ發ス長十九里二十五町餘舟筏ノ航通里程十五里餘ニ過キサレトモ  
頗ル便益アリトス

大和川ハ大和ニアリ上流ヲ初瀬川ト呼ヒ源ヲ大和東部ニ發シ和泉攝津ノ境ニ入り遂  
ニ大坂灣ニ注ク長十三里許下流ニ八十間餘ノ大和橋ヲ架ス

十津川ハ源ヲ大和東南部ニ發シ紀伊ニ至リ熊野川トナル長サ二十里餘アリ

吉野川ハ大和ノ中央部ヲ貫流スルヲ十七里餘紀伊ニ至リ紀ノ川ト稱セラル源ヲ大  
原山(和)ニ發セリ

尙ホ大和ニ北山川(十一)アリ攝津ニ武庫川(十三)アリ

6 主ナル  
山岳ヲ示  
セ附嶺山

6 比叡山(二千七百二十三尺)山城ノ東境ニ秀テ近江ニ跨リ其山脈南ニ走テ鷲峰笠置  
ノ諸山ニ連ナル

愛宕山(二千九百四尺)山城ノ西北ニ聳ヘ丹波ニ接スコレ山城國中最高峰タリ山嶺ニ  
愛宕神社ヲ祀レリ其山脈南ニ走リ高雄天王大江ノ諸山トナル

7 湖沼ヲ  
示ス

大峯(六千二百十尺)ハ大和群峰中ニ巍然トシテ高ク峙チ一名山上ヶ岳ト云フ山脈四  
方ニ走り金峰、七面、釋迦、國見、大日等ノ諸山トナル又々大臺原(四千二百尺餘)アリ  
金剛山(四千三百尺)ハ高ク河内ノ東南ニ兀立シテ楠氏ノ忠ヲ不朽ニ傳和泉ニ榎尾山  
攝津ニ武庫摩耶ノ諸山アリ  
銅坑ハ大和、吉野郡板尾及同郡天ノ川郷、和田村天和山等アリ又々攝津、島下郡泉原  
等アリ  
銀坑ハ攝津河邊郡多田院村永盛山及同村間歩山等  
あんちもにハ坑ハ大和吉野郡谷後山ニアリ  
陶土坑ハ攝津有馬郡池庄及山城愛宕郡等ニアリ其他略ス

7 湖沼ノ數少キニアラスト雖トモ大ナル者ニ至リテハ甚ダ稀ナリ巨椋池(周回四里)山  
城ニアリ狭山池(周回一里餘)河内ニアリ巨椋池ハ宇治川ノ水害ヲ防クタメ豊太閤ノ穿チシ  
モノニシテ狭山池ハ灌溉ニ便センタメ崇神天皇ノ開鑿ニカ、ル尙ホ納所池(周回二)六  
地藏沼(周回二里)等山城ニアリ

○第二編 地理各論△畿内誌

8 瀑布  
問フ

8 明神大瀑ハ伊賀ノ上野川山城相樂郡北大河原ニ來リ瀑布ヲナシ名張川ニ會シテ木津川トナル高百五十丈餘アリ

大和吉野郡大臺原山ニ中ノ瀑アリ高サ百五十丈許幅十五間餘北上川ニ注ケリ

攝津菟原郡武庫山麓ニ布引瀑アリ高サ二十三丈餘幅二間餘恰モ白布ノ掛レルカ如シコレ布引ノ名アル所以ナリ其他甚多キモ略ス

9 温泉  
問フ

9 有馬平野ノ二温泉ハ攝津ニアリ有馬ハ古昔舒明、聖武二帝行幸シ給セ織田、豐臣以下公卿牧伯ノ來遊セシモノ數フヘカラス繁盛ヲ極メリ尙ホ大和ニハ東泉寺温泉アリ山城ニ天龍寺嵐山等アリ共ニ効アルヲ以テ著名ナリ

10 海岸ノ如何ヲ示セ

10 和泉海岸ハ魚網ノ利多シト云フ畿内ノ地タル西方ノ一部ノミ海ニシテ海岸短シ屈折モ亦僅少ナリ而シテ其沿岸ノ岸和田及ヒ谷川ニ舊置ノ燈臺各一基ノ設アリ

11 港灣  
問フ

11 神戸大阪兵庫ノ三港ハ攝津ニアリ神戸港ハ深サ滿潮八匁千潮六匁アリテ慶應三年開港スル所ナリ大阪港ハ深サ滿潮五匁千潮四匁アリ兵庫港ハ神戸港ト相接シ深サ滿潮十一匁千潮八匁トス

12 崎岬  
問フ

堺港ハ和泉ニアリ永錄年間ヨリ外國商船來リ交易セシモ慶應年間ソノ渡來ヲ禁ス深サ滿潮二匁餘千潮一匁餘アリテ大艦巨船ヲ入ル、ト能ハス而シテ舊置ノ燈臺一基アリ

攝津和泉ノ二國瀕スル所ハ則チ大阪灣ニシテ古ヘ茅渚港ト稱セリ

12 和田岬ハ攝津ニアリ兵庫港ノ港口ヲ扼シ和泉觀音崎ト相對シテ大阪灣ヲナス而シテ和田岬ニ燈臺アリ水面ヨリ高キコト五丈二尺燈光ハ赤色ニシテ照射十二海里ニ達ス大阪ノ燈臺ハ天保山ニ在リ水面ヨリ高キコト五丈三尺燈光ハ白色ニシテ照射十二海里半ニ達セリ又攝津ノ住吉ニ高サ二丈九尺ノ燈臺アリ

觀音岬及黑崎ハ共ニ和泉ニアリ

13 海峡  
問フ

13 須磨海峡(或ハ明石海峡)ハ攝津ニアリ内海ト大阪灣トノ境ヲナス

### 第三章

14 都邑  
點ケル

14 京都ハ山城ノ中央ニアリ鴨川東方ヲ貫流シ市街井然トシテ砥ノ如ク桓武帝經曆十二年都ヲ茲ニ定メ平安城ト稱ス爾來明治元年マテ七十一世千七十四年間ノ皇都ニシ

○第三編 地理各論△畿内誌

テ保元以來戰爭ノ地トナリ數々焦土トナル上京區一條ニ舊皇居アリ又タ二條城ハ二條宮ト稱ス共ニ今尙昔時ノ觀ヲ存ス神社佛閣勝地古跡頗ル多シ東山ニ圓山、清水、東福寺等アリ足利義政ノ築キタル銀閣寺ハ月侍山ノ麓ニアリ西山ニハ嵐山、嵯峨御室、及足利義滿ノ築ケル金閣寺アリ今尙ホ舊時ノ壯麗ヲ想像スルニ足ル美術工業ハ古來ヨリノ長技ニシテ且水性清淨ナルカ故ニ西陣織物及友禪染加茂川染ノ如キ他邦ノ及ブ所ニアラス伏見ハ京阪間ノ要路ニ當リ文祿三年豐臣氏城ヲ桃山ニ築キ居ル此地水運ノ利アリテ市民頗殷富ナリ

奈良ハ大和ノ東北部ニアリ元明天皇以來ノ皇都ニシテ桓武天皇ノ遷都ニ至ルマテ八十餘年トス今ニ南都ト稱セリ春日社東大寺ハ著名ナル社寺ニシテ東大寺ハ聖武天皇ノ創建ニカ、リ有名ナル大佛ノ坐像アリ丈ケ五丈六尺ニシテ顔ノ長一丈六尺アリ俗ニ奈良ノ大佛ト稱ス

堺ハ和泉ノ北端ニ在リテ足利氏ノ時山名氏清コ、ニ居ル大阪ヨリノ鐵道來リ商業稍繁盛ナリ

大阪、神戸、兵庫ハ攝津ニアリ大阪ハ浪速ナニワ或ハ難波トモ稱セリ天正年間太閤石山ニ居城ヲ築キ大ニ形勢ヲ變シ濶渠ヲ開鑿シ運輸ヲ便ニス大阪城コレナリ今僅ニ牙城ノミヲ存シ大阪鐵臺ノ本營タリ而シテ商業上ノ要路ニシテ畿内近傍ヲ始メ山陰山陽北陸南海西海ノ諸道ヨリ貨物悉ク輻輳スルヲ以テ商業ノ繁盛ナル本邦第一ト稱ス住吉、四天王寺最モ著名ナルモノトス

神戸ハ西南、兵庫ト相接シ本邦五港ノ一ニシテ内外ノ巨船常ニ出入絶ヘルヲナク貿易ノ盛ナル横濱ニ次ク兵庫ハ古昔ハ繁榮ナリシモ神戸開港以來概テ神戸ニ内外ノ商船巨舶投錨スルヲ以テ市中ノ繁榮遠ク及ハサルニ至レリ此地湊川神社アリ楠正成ヲ祭ル

ソノ他山城ノ宇治、大和、郡山、河内牧方、和泉、岸和田、攝津、西宮、天王寺、住吉、等アリ

15 吉野山ハ大和ニアリ吉野川ノ沿岸山谷一里餘ノ間櫻樹相連ナリ一目千樹ノ名ニ負カス花期技ヲ曳クノ人數フヘカラス實ニ花ヨリ出テ花ニ入ルノ觀アリ月ヶ瀬ハ名張

15名勝ヲ問フ

川ノ溪澗ニアリテ梅林三丁餘ニ亘リ花時清香郁郁トシテ數里ニ及フ而シテ山水ノ景亦タ甚タ佳ナリ

攝津ニ負磨浦アリ海濱一帶青松駢列シ遠ク淡路島ヲ望ミ風光絶佳ニシテ觀月ノ勝ヲ以テ名ナリ住吉モ亦青松白砂ト相映シ極メテ佳ナリ同地ノ沙千ハ有名ナルモノナリ箕面山ハ紅葉ヲ以テ著ハル

嵐山ハ山城ニアリ滿山櫻花ニシテ大井川其下ヲ流レ風光明媚ナリ

### 第四章

16 氣候概子中和ニシテ殊ニ海ニ瀕スル地方(攝津和泉)ハ最モ溫暖ナリ然レトモ大和山間ハ稍寒冽ニシテ山城ハ冷暖常ニ變シ冬時叡山嵐ト稱スル風吹キテ最寒冷ヲ覺ユ

17 地味問フ 河内和泉及大和ノ北方肥沃ナリト云フ要スルニ大和川ノ近傍淀川ノ下流ノ平野一般肥沃ナルカ如シ

18 産物問フ 京都ノ織物、繻物、染物ハ品位高尚ニシテ其名海外ニ高ク又大和ノ吉野紙、吉野葛、大和飛白、奈良酒、河内、和泉、ノ木綿、攝津ノ伊丹酒、池田炭、山城ノ宇治茶、等ハ最有

名ナルモノトスソノ他御影石、奈良漬、一貫張、清水焼、藤細工等アリ

### 第五章

19 歴史上ノ古跡問フ 大和ニハ橿原宮趾、吉野行宮趾、笠置宮趾アリ河内ニ金剛山、赤阪城趾アリ攝津ニ湊川、一ノ谷、福原アリ

20 沿革問フ 畿内ハ神武天皇以來概子歷代ノ帝都ニシテ古昔ヨリ最早ク開ケタル國ナルヲ以テ田畝大ニ闢ケ人口ノ稠密ナルコト本邦第一ニ位ス

21 風俗示セ 神武天皇都ヲ大和ノ橿原ニ定メ給ヒシヨリ後所々ニ地ヲ相シ遷都アリト雖モ概子此ノ近傍トス元明天皇平城(其奈)ニ遷都シ玉ヒシ後桓武天皇ニ至リ山城ニ地ヲ選ミ平安城ト名ク爾來山城ヲ以テ首邦トナス是レヨリ千七十四年間ノ宮城ニシテ百官有司

咸ク輦轂ノ下ニアリ源賴朝ノ府ヲ鎌倉ニ開クニ及ヒ京都以下守護ヲ任シテ鎮セシム北條氏權ヲ執ルニ至リ兩六波羅探題ヲ京師ニ置キ畿内及關西諸州ノ政刑ヲ掌テシム建武中興ノ後制度古ニ復セシモ未タ幾何ナラスシテ足利尊氏起リ府ヲ室町ニ開ク永錄年間足利氏ノ號令行ハレス政亂レ戰爭絶ユルヲナク群雄割据シ畿下畿甸戰區トナ

ル天正ノ初織田信長之ヲ平定シテ京都ニ所司代ヲ置キ堺ニ政廳ヲ設ケ攝津ニ守護ヲ置ク其後徳川氏ニ至リ尙ホ京都所司代アリ二條城ヲ築キ堺奉行兵庫奉行等アリ明治維新ニ至リ皇都ヲ東京ニ遷シ給ヒ二府二縣四市六區五十五郡アリ

22 附誌  
乃嶽ヲ示  
セ

22 本道ハ概子富豊ニシテ衣食住ノ度東京ニ亞ク東北地方(山)ハ民俗甚ダ儉嗇ニシテ飲食ヲ節シ服飾ノ美麗ヲ願ヒ進取ノ氣ニ乏ク性温順ナリ中央以南(大和)ハ質朴勤儉ノ風アリテ西部海岸(和泉)ノ地ハ優柔奢靡ノ弊ヲ免カレス然レトモ山間ノ僻邑ハ淳厚ノ風ヲ存ンス

附誌

23 攝津大阪港ノ口ニ天保山アリ天保年中安治川アノチカハヲ浚濬シソノ泥沙ヲ茲ニ投シテ沙洲ヲナス

日本地理各論。畿内誌終

東海道誌

第一章

1 位置ヲ示セ

1 畿内ノ東ヨリ起リテ本洲ノ中央南部ニ位シ太平洋ニ沿フタル一帯ノ諸國ヲ稱シテ東海道トイフ

2 境界ヲ示セ

2 西ハ畿内(山城)及南海道(紀)ニ接シ北ハ東山道諸國ニ界シ東南ハ太平洋ニ面ス

3 經緯度ヲ示セ

3 東經百三十六度十四分ヨリ百四十一度八分ニ盡キ北緯三十四度十五分ヨリ三十六度五十六分ニ至ル面積凡二千六百五十八方里アリ

4 形勢ヲ示セ

4 本道ノ地勢タルヤ東西ニ長ク南北ニ短シ甲斐駿河遠江ノ北部及畿内ニ接スル地方ハ山岳重疊スト雖尼相摸以東ノ六國及東山道ノ上野下野ヲ合シテ關東八洲ト呼ブ大原野アリ又タ尾張ノ過半ト下總ハ低平ニシテ小金原、習志野、小牧、等ノ平野アリ

第二章

5 河川ヲ問フ

5 利根川ハ源テ上野ニ發シ武藏下野ノ國界ヲ貫流シテ下總ノ銚子ニ至リ海ニ入ル長サ七十一里餘ニシテ舟楫ノ便極メテ多ク坂東第一ノ大河ニシテ坂東太郎ト稱ス支流

ナ江戸川ト云フ下總ノ南端ニ至リ海ニ入ル水流緩ニシテ舟運ノ便アリ天龍川ハ源ヲ信濃ニ發シ遠江ニ入り海ニ注キ長サ五十六里餘アリ大井川ハ甲斐白根山ニ源ヲ發シテ遠江ノ東境ヲ流レ海ニ注ク長サ四十六里此ノ二川ハ水勢甚急ニシテ運輸ノ便少シトス

木曾川ハ源ヲ信濃ニ發シ尾張伊勢ヲ貫通シ海ニ流盡ス長凡五十五里餘

荒川ハ武藏ニ發源シ下流隅田川ト稱シ又タコレヨリ大川ト云ヒ品川海ニ注グ長サ四十三里餘アリ

富士川ハ三個ノ水源アリ信濃ヨリ發スルヲ笠無川ト云ヒ甲斐ニ發スルヲ笛吹川ト云ヒ一ナ芦川ト云フ三流合シテ駿河ノ北境ニ入り國ヲ貫流シ海ニ注グ長サ二十九里餘水勢急ニシテ本邦三急流ノ一タリ

ソノ他那珂川(四十)常陸ニアリ馬入川(三十)相摸ニアリ三河ニ矢矧川アリソノ他畧ス

6 主ナル  
七 岳ヲ示  
山 附 火山

6 白根山(高一万二千)ハ甲斐ニアリ八ヶ嶽亦ソノ北境ニアリ高サ九千六百六尺アリ地嶽嶽(高八千八百)西境ニ屹峙シ金峯山(高サ八千五百)七面山(七百二十)大菩薩嶽(高六千三百)雁坂山(高八十八尺)

及 嶺 山

(六千八百)等アリ

天城山(高四千五百尺)ハ伊豆ノ中央部ニアリ山中良材ヲ出ス

箱根山(高四千二百尺)ハ相摸ノ西境ニ峙チ山脉蜿蜒シテ伊豆國境ニ跨レリ

愛鷹山(高四千二百尺)ハ駿河ニアリ山麓ヨリ海邊ニ至ル原野ヲ稱シテ浮島平野ト云フ著名ナリ

武甲山(高四千三百尺)ハ武藏ノ西部ニアリ秩父岳トモ稱シ山脉三峰兩神等ノ諸峰ニ分岐セリ

黒法師山(高七千餘尺)ハ遠江ノ北部ニアリソノ他秋葉山及常陸ノ筑波山等ハ名山ナリトス

富士山(高一万二千三百七十尺)ハ駿河甲斐ニ跨リテ山脚ハ庶草繁茂シ山腰樹木多ク山腹以上ハ岩石嵯峨トシテ草木生スルヲナシ延暦十九年始メテ噴火シ寶永年間ニ再ヒ爆發シ山腹

ニ一峰ヲ生ス寶永山則チコレナリ現今ハ熄火山ニシテ山頂ニハ周回一里餘ノ噴火口アリ山麓原野數里ニ亘ル富士ノ裾野ト云フ

飯山(高二千八百尺)ハ伊豆八丈島ニアリソノ形富士ニ似タルヲ以テ八丈富士ト稱ス山頂常ニ

烟ヲ噴ク

三原山(高二千五百尺許)ハ伊豆大島ニアリ常ニ噴烟セリ雄山モ亦火山ニシテ三宅島ニアリ銀銅鉛ヲ産スル礦坑ハ伊勢員辨郡ニアリ寛永以來其採取盛ナリ陶土坑ハ三河西賀茂郡木瀬及同郡白川ニアリ

石炭坑ハ武藏秩父郡及常陸多賀郡大塚村等ニアリ

硫黃坑ハ相模足柄下郡宮城野元箱根等及ヒ伊豆加茂郡白田郡賀郡池代ニアリ

石油坑ハ遠江榛原郡菅ヶ谷ニアリ其他諸坑畧ス

7 湖沼ヲ問フ

7 湖沼ノ大ナル者ヲ記セバ富士ノ八湖ノ中ニテハ甲斐河口湖(周回四里餘)山中湖(周回三里餘)相摸蘆湖(周回四里餘)等有名タリ蘆湖ハ箱根山中ニアリテ水色清ク富士ノ山影之ニ倒寫シテ風景絶佳ナリ印幡沼(周回十里餘)下總ニアリ入鹿池(周回十里餘)尾張ニアリ霞浦(周回三里餘)ハ常陸ノ南部ニアリ本邦湖沼ノ第二ニ位シ灌溉利極メテ多シ尙ホ牛久沼(周回六里餘)大寶沼(周回三里餘)北浦(周回五里餘)等アリ

8 瀑布ヲ問フ

8 大垂瀑ハ遠江榛原郡高熊村ニアリ二條トナリ一ハ高五十丈一ハ二十丈餘ニシテ共

問フ

ニ幅四間アリ下流大井川ニ注ク  
布引瀑ハ伊勢飯高郡大俣村ニアリ高九十丈餘勢ヒ雄壯ニシテ風折不動ノ二瀑アリ共ニ五十丈許トス

逆巻瀑布ハ武藏秩父郡中津川ニアリ高五十丈許幅凡五間荒川ニ注ケリ

四度龍ハ常陸久慈郡袋田ニアリ高四十丈餘幅四十一間頗壯觀アリ

旭瀑(伊豆)大瀑(駿河)等アリ各壯觀ナリス

9 温泉ヲ問フ

9 熱海、修善寺、湯ヶ原、湯ヶ島、松原等ノ諸泉ハ伊豆ニアリ熱海ハ東京ヲ距ル二十八里許ニシテ海陸トモニ往來至便ナルヲ以テ都人ノ就テ浴スルモノ多ク頗ル繁榮ナリ修善寺モ亦著名ニシテソノ効熱海ニ同シ大同年間僧空海ノ發見ニ係ルト箱根七湯ハ相模ニアリ湯本、塔ノ澤、宮ノ下、堂ヶ島、底倉、木賀、蘆ノ湯コレナリ共ニ有名ニシテ熱海ト並稱シテ來浴スルモノ甚々多シソノ他朝湯(伊豆)柳原(伊豆)梅ヶ嶋(駿河)三藤(新瀉)新湯(新瀉)等アリ

10 海岸ノ状ヲ示セ

10 海岸ハ屈曲甚々シク東京、伊勢、駿河ノ三大灣アリ房、總、伊豆、大半島突出セリ

11 滿洲  
間フ

11 四日市、礮港ハ伊勢ニアリ四日市港ハ深四匁乃至五匁ニシテ燈臺アリ礮港ハ深凡八匁アリ共ニ長泊ノ地タリ  
的天港ハ深六匁其港口安乘浦ニ燈臺アリ水面ヨリ高キコト十丈二尺燈光白色ニシテ照射七海里ニ達ス鳥羽港ハ深サ五匁許ニシテ管島ニ燈臺アリ水面ヨリ高キコト十七丈六尺燈光白色ニシテ照射十五海里ニ達ス共ニ志摩ニ在リ  
師崎港ハ尾張ニアリ深十五匁大井港ハ七匁許アリ  
大濱港ハ三河ニアリ深七匁餘トス  
清水港ハ駿河ニアリテ駿河遠江ノ物産ヲ輸出スルノ港ナリ深十五匁アリ  
下田港ハ伊豆ニアリ深六乃至八匁アリ往古外國船入船セリ  
横須賀港ハ海軍々艦ノ碇泊所ニシテ深二匁乃至十二匁アリ浦賀港ハ深五匁乃至十匁ニシテ古昔外船ノ入泊セル所ニシテ其名著ハル共ニ相模ニアリ  
横濱港ハ武藏ニアリ安政六年開港セシモノニシテ五港ノ一タリ燈臺及浮標アリ其燈臺ハ阜頭ニ設置シ水面ヨリ高キコト四丈八尺燈光ハ赤色ニシテ照射六海里ニ達ス浮

六十

12 崎  
間フ

標ハ球形赤色ニ作り高サ一丈大退潮ノトキ深サ四匁ノモノ二個アリ一ハ港ノ北方神奈川砲臺ヨリ突出スル洲ニ浮置シ一ハ港ノ南方ニ在ル洲ノ北端ニ浮置ス  
銚子港ハ下總ニアリ深二匁餘  
志摩ノ岬ト三河ノ伊良胡崎ト東西相對シテ一大灣チナス伊勢内海コレナリ  
尾張羽豆岬ト三河伊良胡崎ト相對シ三河海(或ハ衣浦ト云)チナス  
濱名灣ハ遠江ニアリ昔時潮汐相通セス一大湖チナセシモ寶永年間地震ノタメ其口崩レ入海トナル其崩口チ今切ト云フ  
相模ノ三崎ト伊豆半島ト東西相對シテ内海チナス相模灘コレナリ  
伊豆ノ南端ヨリ志摩ノ大王崎ニ至ルマテチ遠洲灘ト云フ海上七十里餘風浪暴ク航客毎ニ難ム所タリ  
武藏上總ノ間チ東京灣ト云フ  
12 志摩ハ半島國ニシテ岬多シ大王崎ハ虎視崎或ハ大鼻ト稱シ東南ニ突出スル三里許崎端岩礁錯出舟行危險ナルト東海第一タリ來崎ハ南端ニ突出スル三町許舟行頗ル險



ナリ

羽豆崎ハ尾張ニアリテ或ハ師崎トモ稱セリ波浪常ニ怒濤ス

三河ニ伊良胡崎アリ羽豆崎ト相對ス

御前崎ハ遠江ニアリ駿河灣ノ口ニ當ル突出スル一二里余岬端ニ燈臺アリ水面ヨリ高

キコト十七丈三尺燈光白色ニシテ照射十九海里ニ達ス

觀音崎ハ相模ニアリ岬角ニ燈臺アリ水面ヨリ高キコト十七丈八尺燈光白色ニシテ照

射十七海里ニ達ス

富津及大東崎ハ上總ニアリ

本牧岬ハ武藏ニアリ東南ニ突出シ而シテ本牧ノ瀬ノ外方ニ燈船ヲ碇置シ赤光色ニシ

テ水面ヨリ高キコト三十六尺照射十海里ニ達ス

石廊岬ハ伊豆ノ南端ニアリテ突出スル七町許其岬端ニ燈臺アリ水面ヨリ高キコト十

八丈五尺燈光赤色ニシテ照射十海里ニ達ス

犬吹崎ハ下總ニアリ斗出スル一五町餘人ノ能ク知ル所ニシテ燈臺アリ水面ヨリ

コト十六丈八尺燈光白色ニシテ照射十九海里半ニ達ス

野島崎安房ニアリ南端ニ斗出スル一二町許コレヨリ以來潮流急駛シ房洲沖ト稱ス

### 第二章

13 都邑ヲ  
問フ

13 東京ハ武藏平野ノ東隅ニ位ス足利氏ノ時大田持資城テ之ニ居ル天正十八年徳川家

康居城ヲ築キシ以來徳川將軍代々コレニ居リ二百六十五年間幕府ヲ置キシ所ナリ明

治元年聖駕東臨シ東京ト改メ我帝國ノ首府ニシテ東洋中ニ屈指セラレ帝國大學、東

京盲啞院、博物館、動物園、植物園、圖書館等林立シ建築壯麗人目ヲ眩ス隅田川東ヲ貫

流シ運輸ノ便言ヲ待タス而シテ都下公園ノ設ケ多ク春花秋月四時ノ觀ヲ備ヘ遊人各

所ニ群集セリ

横濱ハ東京ノ西南八里餘ニアリ東京灣ニ臨ミ關東諸港中樞要ナル位地ヲ占メ本邦輸

出輸入ノ貨物過半コノ地ヲ過キサナルク大艦巨船常ニ輻輳シテ稅關及外國人ノ居留

地等アリ街衢整然貿易盛昌ニシテ家屋ノ建築亦タ宏壯ナル者多シ

名古屋ハ尾張ニアリ慶長十五年徳川家康諸侯ヲシテ城ヲ築カシメ義直ヲ置ク有名ノ

城ニシテ現今城内ヲ鎮臺ノ本營トス屈指ノ都會ニシテ水陸運輸ノ便ヲ占メ繁榮三府ニ亞キ熱田ニ接近ス

静岡ハ駿河ニアリ元ト府中ト稱シ稍繁盛ナリ

横須賀ハ相模ニアリ鎮守府及其部屬ノ造船所アリコレ慶長元年徳川幕府ノ創設セシモノトス

ソノ他安濃津(伊勢)世人單ニ津ト稱セリ水戸(常陸)甲府(甲斐)小田原(相模)等アリ

14 三保松原ハ駿河ニアリ一帯ノ沙洲海中ニ斗出スル一里餘白沙青松相映シ風光明輝ナリ清見瀉ハ田子浦三保松原ノ勝景總テ一眸ノ中ニアリテ風景畫クカ如シ

伊勢ノ大神宮ハ雄略天皇ノ創建シ給ヘルヲ外宮ト云ヒ垂仁天皇ノ創建ニカ、ルヲ内宮ト云フ構造質樸ナルモ宏壯ナリ

尾張ノ熱田神社ハ日本武尊ヤマトノミコトヲ祀リ有名ナル神社ナリ

下總ノ成田不動ハ堂宇壯麗ニシテ天慶ノ年僧寬朝ナルモノノ開基セルモノナリ

相模江ノ島ハ風光絶佳ノ所ニシテ島中天女ノ祠ヲ安ンシ遙ニ富岳ヲ望メリ

14 名勝ヲ開フ

### 第四章

15 氣候ヲ開フ 15 北方山岳ヲ負ヒ南面海ニ面スルカ故ニ氣候温和ニシテ身体ニ適ス而テ東京府ハ夏時南風多ク冬時北風多シ

16 地味ヲ開フ 16 本邦中最低地多キ部分ニシテ伊勢尾張武藏ハ總テ肥沃ナリ伊豆志摩安房ハ薄瘠ニシテソノ他ハ概子肥瘠相半ハスルカ如シ

17 産物ヲ開フ 17 山海ノ産極メテ多ク製造品亦盛ンナリ伊賀ノ伊賀燗、伊勢ノ萬古燗、形紙、茶、津線子、紙、煙草、袋、尾張ノ瀬戸燗、七寶燗、米、名古屋扇、遠江ノ椎茸、濱名納豆、石腦油、石灰、三河ノ石材、茶、木綿、材木、駿河ノ半紙、茶、竹器、芝川海苔、興津鯛、甲斐ノ葡萄、柿類、水晶、伊豆ノ八丈絹、相模ノ湯本細工、武藏ノ秩父絹、八王子織、淺草海苔、川口鑄物、錦畫、安房ノ房洲砂、魚類、上總ノ茶、鯉、下總ノ美淋、醬油、銚子縮、結城紬、炭、常陸ノ紙類礦屬ハ本道中ノ名産ナリ水戸煙草西内紙等總テ有名ナル産物トス

18 歴史ノ古蹟ヲ開フ 18 尾張ニ小牧山桶狭間アリ桶狭間ハ草野荒涼ノ間古碑一基アリ即チ義元ノ墓ナリト

### 第五章

○第三編 地理各論△東海道誌

19 總説ヲ示セ

ス及ヒ長湫<sup>ナカク</sup>アリ遠江ニ三方ヶ原<sup>ミカマヘ</sup>アリ甲斐ニ天目山アリ相模ニ鎌倉及石橋山アリトス  
19 本道ニハ東山道近江一部ヲ加ヘ東海道五十三次ト稱スル宿驛アリ則チ東京ヨリ西  
京ニ達スル大道路コレナリ是等ノ宿驛今尙ホ衰頽ノ狀ヲ呈スルヲナシ而シテ帝國ノ  
首府アル所ニシテ重要ナル地方ト稱スヘシ

20 沿革ヲ問フ

20 本道ハ駿河地方ヨリ東北ハ古昔蝦夷ノ据窟ニシテ景行天皇ノ朝日本武尊之ヲ征定  
シ給ヒシヨリ王土ニ歸ス是ニ於テ國造縣主ヲ置キ治メシム大化ノ初メ廢シ國郡ノ制  
ヲ定メ十一國トナリ後チ十五國トナル天慶二年平將門謀反シ下總猿島郡廳南ヲ以テ  
京師ニ擬シ偽宮ヲ營シテ八州<sup>(相模、武藏、上總、下總、安房、常陸、上野、下野)</sup>ヲ煽動シ明年誅ニ伏ス永曆年間源賴  
朝ヲ伊豆ニ流シ後チ兵ヲ擧ケ鎌倉ニ府ヲ擧ムルニ及テ駿河伊豆相模武藏上總下總及  
ヒ越後<sup>(北陸)</sup>信濃<sup>(東山)</sup>豐後<sup>(西海)</sup>ノ九國ヲ以テ其管國トス武中興ニ至リ成長親王ヲ  
東國管領ニ任シ足利直義執權トナリ鎌倉ニ鎮セシメ有功ノ諸將ヲ以テ守護トナス足  
利尊氏天下ヲ私シ將軍府ヲ鎌倉ニ置キ其子基氏ヲ以テ關東管領トシ義詮ヲシテ武藏  
ヲ管セシム其後天文年間ヨリ關東大ニ亂レ群雄互ニ相ヒ争フ織田信長京畿二十余州

21 風俗ハ如何

チ併定シ足利氏ニ代テ兵權ヲ執ル本能寺ノ變アリテ信長ノ弒セラル、ヤ豐臣秀吉亂  
ヲ定ム天正年中秀吉東征シテ北條氏ヲ滅シ其故地關八洲ヲ徳川家康ニ賜フ家康關東  
ニ遷リ府ヲ江戸ニ開キ天下ヲ一統シテ親族及ヒ藤堂本多酒井等ノ功臣ヲ諸國ニ分封  
シ其後改革アリテ藩ヲ置キ明治維新ニ至リ縣ヲ置ク現今一府八縣六市トナレリ  
21 本道ノ風俗ハ一定セスシテ伊賀伊勢ハ輕薄巧便ニシテ志摩尾張三河遠江地方ハ朴  
實温厚トス駿河甲斐武藏ハ慥悍豪俠ナリ特ニ東京人ヲ以テ甚タシトス安房上總下總  
ハ撲直素野ニシテ常陸ハ偏固ナリトス

附 誌 附小笠原島

伊豆七島 伊豆ノ東南ニ當リ海上ニ碁布セルモノヲ伊豆七島トス大島、利島、新島、  
神津島、三宅島、御倉島、八丈島ニシテ聊カ頂ヲ分チテ誌サム

大島ハ伊豆下田港ヲ距ル東八里餘七島中最大ナルモノトス周回十里餘アリ住民ハ  
業ヲ以テ專業トシ勞働ニ堪ユ地味礫瘠ニシテ穀類ニ適セス三原山アリ噴火山トス  
利島ハ大島ノ東南四里餘ニアリ周回二里許島中飯料水ニ乏シ宮塚山<sup>(高千七百三十五尺)</sup>中央部

22 附誌 鳴喚ヲ示セ

ニ峙ツ地味大島ニ反シ膏腴ナリ

新島ハ利島ノ南一里許ニアリ周回六里餘沙土ニシテ耕種ニ適セス男子ハ漁業ヲナシ女子ハ紡績ヲ勉ム南半里許ノ所ニ式根島ト名ツクル周回一里許ノ島アリ未タ住民ナシ

神津島ハ式根島ノ西南二里餘ニアリ周回六里ニ近ク中央ニ天城山(高二千尺許)アリ巖瀨ノ間養蠶ヲカム二三ノ附屬小島アリ

三宅島ハ神津島ノ東南八里許ニアリ周回七里餘雄山ト名ツクル火山アリ地味薄礫ニシテ漁農ヲ以テ生業トシ鯉節、乾魚、薪材ヲ産出ス西方二里許ニ属島アリ大野原島ト云フ

御藏島ハ三宅島ノ東南四里許ニアリ周回四里許土地薄瘠ナリ島ノ四面崖礁險峻ナリトス

八丈島ハ御倉島ノ東南二十里許ニアリ周回十里餘大島ヨリ少ナル十町餘ニ過キス山(或ハ西ト云)ハ噴火山ナリ男子ハ農漁ニ従事シ女子ハ蠶桑機織ノ業ヲ勉メ八丈絹ト稱ス

ル良好ノ織物ヲ出ス地味肥瘠相半ハシ氣候温暖ニシテ暑熱甚シ西方一里許ニ小島アリ周回一里餘南方十八里許ニ青ヶ島アリ周回五里餘二島トモニ附屬島タリ

小笠原島 八丈島ノ東南百八十里許ニ在リテ北ヨリ南ニ弁列シ八十九島ヨリ成立ス

北緯二十六度三十分ヨリ同二十七度四十五分ニ至リ東經百四十二度二十三分ニ起リ百四十二度三十三分ニ盡ク南北ニ亘ル凡ソ三十五里ニシテ東京ヲ距ル二百五十里許ナリ父島、母島、鐸島ノ三ニ分チ其他ハコレニ屬ス

文祿元年小笠原貞頼是ヲ發見ス故ニ其性ヲ以テ島名トセリ

天保元年伊太利人他ノ外國人男女二十二名ヲ伴ヒ布哇島ヨリ父島ニ移住ス是ヲ住民ノ初メトシ其後文久元年ニ至リ幕府命シテ諸島ヲ巡視セシム翌年八丈島ノ人民四十餘名ヲ移シ開拓セシメシカ翌三年故アリテ八丈島ヨリノ移住人ヲ引キ拂ハセ開拓ノ事業中絶セリ明治八年官再ビ業ヲ起シ内地ノ民ヲ移住セシメ是ヨリ後チ漸次移住人増加シ土地漸ク闢ク明治十年ニ至リ東京府ノ所轄トナリ島廳ヲ置キ之ヲ司トラシム

父島ハ本島或ハ北島トモ稱シ周回十五里餘旭山アサヒヤマアリ群島中ノ最高山タリ大村オホムラハ殆ント市街ノ景アリテ島廳シマノミヤ在ル所ナリ大港オホミナト宮濱等ミヤハマノ港アルモ碇船極メテ不便ナリハツ瀬川ハ西瀧海ニ入り水深ク船楫ヲ通スヘシ附屬島ノ大ナルモノヲ兄島アノ（周回四里餘）弟島オトモ（周回三里）トス總テ地味肥瘠相半ス

母島ハ南島トモ稱シ父島ノ西南十二里許ニアリ周回十里餘アリテ北港アリ深七仞餘ニシテ稍可ナリ屬島ノ大ナルモノヲ向島ムカフ（周回一里許）平島ヒラ（周回一里餘）トス地味肥沃耕種ニ適ス

錫島ハ父島ノ北十八里餘ニアリ周回三里許オカフ煤島スエ（周回二里餘）嫁島ヨメコレニ屬ス地味沃饒ニシテ牧畜ニ適セリ

總テ歸化人ノ言語ハ英語ヲ普通トシ男女共ニ跣足ナリ内地移住人ハ粗ナル洋服ノ如キ者ヲ着シ米ヲ以テ常食トシ家屋ハ風強キヲ以テ柱ヲ堅固ニシ外面ハ機關ノ葉ヲ以テ掩ヒ繞ラスニ低キ扉ヲ如キモノヲ以テス

地勢山多ク平野少ナク沿海ハ巖石相連リ波濤激烈ニシテ碇泊ノ地ニ乏シ

硫黃島イソラシマ 小笠原島南南西沖北緯二十四度零分ヨリ同二十五度三十分東經百四十一度零分ヨリ同四十一度三十分ノ間ニ散在セル三島ニシテ其中央ニ在ル島ヲ硫黃島

ト稱シ其南ニ在ル島ヲ南硫黃島ト稱シ其北ニ在ル島ヲ北硫黃島ト稱ス而シテ本島ハ小笠原島ニ屬セリ

本土ハ熱帶地方ニ近キヲ以テ氣候甚タ炎熱ナリ

農ヲ以テ第一トシ傍テ漁業牧畜等ヲナス農産物ニハ糖、甘藷、山藍、玉蜀黍、大根、西瓜、煙草アリ海産物ニハ綠蠅龜、鯨、鱈、紫貝、章魚等アリ製造物ニハ天日製鹽ヲ以テ後來有望ノモノトナスト云フ又タ信天翁、大蝙蝠、椰子、鳳梨等珍奇ノ動植物アリ又硫黃島三島ハ硫黃ノ産出頗ル多シ

日本地理各論、東海道誌終

### 東山道誌

#### 第一章

1 位置ヲ  
1 本道ハ畿内ノ東ニ隣リ東海道ノ北ニ連ナリ西南ヨリ東北ニ亘レル十三國ヨリナル  
本道ヲ別チテ二部トス近江以下下野マテ中仙道ト稱シ磐城以下羽後マテ奥  
羽ト稱セリ

2 境界ヲ  
2 西ハ畿内山陰道ニ界シ西南東海北陸兩道ニ接シ東北ハ大平洋及日本海ニ臨ム

3 經緯度  
3 東經百三十六度ヨリ百四十二度十三分ニ至リ北緯三十四度四十七分五十一秒ヨリ  
四十一度三十分五十一秒ニ盡ク面積六千八百四十九方里本邦八道中最大ナル者トス

4 形勢ヲ  
4 飛騨信濃ハ本洲島ノ中央部ニ位シ全國第一ノ高地ニシテ琵琶湖ノ沿岸美濃、上野、  
下野三國ノ南部及陸前ノ中央部ハ低地ナリトス奥羽地方ハ北ニ向キ東西海ヲ受ケ北  
端ハ北海道ト津輕海峽ヲ隔テ、相對ス

#### 第二章

5 河川ヲ  
5 近江ハ數多ノ川流四境連山ヨリ發シ皆中央ナル琵琶湖ニ入り大河ナシ横田川(長十  
五里)

問フ

(餘)愛知川(長十)等ヲ以テ巨流トス

美濃ノ揖斐川ハ伊勢ニ入り海ニ注ク長三十里許アリ長良川ハ墨股川ト稱シ長三十二  
里餘共ニ木曾川ノ支流ナリ

飛騨ハ殊ニ急流多ク益田川ハ美濃ニ入り飛騨川トナリ木曾川ニ合シ長三十一里餘ソ  
ノ他宮川(長二十)白川(長十八)等

信濃ニ發源セル木曾川ハ西南ニ向テ木曾山中ヲ流レ水勢急速岩石多ク舟楫通テスル  
能ハサルモ美濃ニ入り稍西ニ轉シ飛騨川ニ合スルニ及ヒ水勢彌大トナリ舟楫ノ便ア  
リ伊勢尾張ノ間ニ至リテ海ニ入ル長四十六里餘アリ千曲川ハ甲斐ニ發源シ信濃ニ來  
リ犀川ト合シ兩川ノ間ヲ川中島ト云フ越後ニ入り信濃川トナル水源ヨリ此ニ至ル長  
六十里許天龍川ハ諏訪湖ニ發源シ利根川ハ上野ニ發源シ武藏下總ノ間ニ入ル水源ヨ  
リ此ニ至ル長二十八里片品川ハ利根川ニ合シ長三十里許アリ  
下野ニ發源セル那珂川ハ常陸ニ入り那珂港ニ注ケリ長四十二里許鬼怒川ハ下總ニ入  
リ利根川ニ注ク長四十一里許等

阿武隈川ハ磐城ニ發シ岩代ノ國境ニ入り陸前磐城ノ境ニ至リ海ニ注ク長五十里餘舟楫ノ便アリ

陸中ニ北上川アリ國ノ中央ヲ貫流シ南ニ赴キ陸前ニ入り石巻港ニ至テ海ニ注ク長七十里餘岩石少ナク舟筏ノ便少カラズ本邦第二ノ巨流タリ

最上川ハ羽前ノ南境ニ發シ上流ヲ松川ト稱シ羽前羽後ノ界ニ至リ海ニ入ル長六十二里水勢急速日本三急流ノ一タリ

其他岩代ニ唯見川(長三十)日橋川(長四十)陸奥ニ能代川(長二十)羽後ニ雄物川(長三十)等アリ

6 甲賀山(高四千九百)ハ近江ノ東南隅ニアリ其北ニ當リ三上山アリ近江富士ト稱ス應

吹山(高四千四百)國ノ東ニアリテ美濃ニ跨カレリ

惠那嶽(高七千三百)ハ美濃ノ東部ニアリ信濃ニ跨リ分岐ノ諸峯ハ三森水晶等トス國ノ西南ニ屹立シ伊勢近江ノ國境ニ跨ルモノヲ三國嶺ト云フ

乘鞍岳(高九千)飛騨ノ東境ニ聳ヘ信濃ニ跨レリソノ他高山位山等ノ諸山アリ

6 山岳ヲ  
間フ則火  
山嶽山ヲ  
示セ

御嶽山(高九千)ハ信濃ノ西部ニアリ美濃飛騨ノ國境ニ跨ル赤石山ハ高一萬二百十餘尺本邦第二ノ高山ナリソノ他錫杖岳(高九千二)マダシ岳(高七千八百)岩管山(高七千五百)等ノ高山アリ又タ駒ヶ岳(高七千八)ハ國ノ中央部ニ峙テリ

碓氷嶺(高二千)ハ上野ノ西境ニアリ吾妻山(高五千)ハ國ノ西北境ニ峙テ上ニ日本武尊ヲ祠ル白雲、金鷄、金洞ノ三峯鼎立スコレヲ總稱シテ妙義山ト云フ山上妙義神社(武尊ヲ祭)アリ頗ル壯麗ナリソノ他榛名山(高二千)等アリ

男體山(高八千)下野ノ北境ニ屹峙シ上野國境ニ入レリ山脉ノ分起セルモノヲ大員名子山(高六千)女貌山(高七千)等トス其他男鹿山(高五千)等ノ諸山アリ

八溝山(高三千四百)ハ磐城ノ西南ニ聳ヘ下野常陸ニ跨レル峻嶺トス阿伽井岳(高二千)地嶽等アリ

駒ヶ岳ハ岩代ノ西南ニ巍ユル高峻ナル山岳ニシテ上野越後ト國界ヲ劃ス高七千三百三十尺アリ尙ホ燧山(高六千五百)赤安山(高六千四)吾妻山等アリ

岩手山(高六千七)或ハ岩鷲山ト稱シ陸中ノ西隅ニアリ山上岩手山神社アリ早池峯山(高

千尺) 酢川岳(高五千) 等アリ  
 八甲田山(高六千五) 陸奥ノ中央ニアリ  
 月山(高六千) 羽前ノ中央ニアリ 國ノ西隅ニ朝日岳(高六千三百) 三十餘尺) アリ 葉山羽黒山共ニ中央部ニアリ 飯豊山(高六千七百) 六十七尺) ハ羽前岩代越後ニ跨ル  
 羽後ニ大平山鳥海山等アリ 鳥海山ハ火山トス  
 淺間山(高八千二) 百三十尺) ハ信濃ノ西北隅ニアリテ天仁元年噴火シ天明三年ニ至リ爆發シテ砂石ヲ雨ラシ爾來噴烟今尙ホ絶ヘスシテ山麓數里ノ間ハ焦土草木ヲ生セス著名ノ火山ナリ  
 赤城山(高六千三) 百尺餘) ハ建長年間噴火シ後熄ム  
 白根山(高六千) 五百尺) ハ上野ニアリ天明三年淺間山ト同時ニ噴火シ明治十五年再ヒ煙ヲ噴キ  
 榛山トナル  
 那須岳(高六千三) 百尺餘) 下野ノ北境ニ峙テ應永十五年初メテ噴火シ應永十七年ニ至リ再噴シ  
 安政四年又タ起リ明治十四年ニ至リ鳴動シ今尙ホ噴煙ス 白根山(七千九百) 二十尺) ハ明治五年

始メテ噴火シ同六年七年再ヒ起リ明治二十二年十二月噴煙鳴動セリ  
 磐梯山(高五千八百) 六十四尺) ハ岩代ニアリ猪苗代湖ノ北方ニ屹峙ス大同元年破裂シテ猪苗代湖ヲ生シ明治二十一年七月復タ破裂シニ里四方ヲ崩壞シ人口四百家屋三十六戸ヲ埋没セリ 藏王岳ハ陸前羽前ノ國境ニ跨リ慶應二年始メテ噴火ス  
 陸前寒風山ハ寛保二年噴火シテ今マ熄ム 陸奥岩木山ハ天明三年噴火シ今マ尙ホ絶ヘス 津輕富士ノ稱アリ  
 銅坑ハ近江甲賀郡、石部及美濃郡上郡、畑佐、飛騨吉野郡、蛇腹谷、東嶽山村、取切山及下野安蘇郡足尾陸中鹿角郡尾去羽後秋田郡阿仁等ヲ以テ主ナルモノトス  
 銀坑ハ飛彈和佐保鹿間等及岩代大沼郡輕井澤伊達郡半田陸中鹿角郡小阪陸奥津輕郡湯澤山羽後雄勝郡院内秋田郡阿仁等アリ  
 石炭坑ハ磐城磐前郡白水ニ總テ十箇所アリ本道中石炭ノ産出磐城ヲ以テ第一トス一年ノ採出百九萬千四百余貫トス  
 鉄坑ハ信濃水内郡替佐及上野甘樂郡中小阪磐城檜葉郡上手岡陸前黒川郡吉田栗原郡



花山等アリ

金坑ハ陸前栗原郡長崎本吉郡戸倉等トス

陶土坑ハ美濃七岐郡惠那郡及信濃東筑摩郡本條更級郡岡田等アリ

7 湖沼ヲ問フ

琵琶湖(周回七十三里七十一町)ハ近江ニアリ本邦第一ノ大湖ニシテ其水勢多川トナル宇治川ノ

上流タリ湖中奥島沖島竹生島アリ風景絶佳ニシテ近江八景ノ稱古ヨリ噴々タリ

大沼ハ飛彈ニアリ周回三里餘

諏訪湖(周回四里)ハ信濃ニアリ嚴寒ノ際ニハ湖面氷結シテ人馬ノ往來難カラス天龍川

源ナ此ニ發セリ尙ホ野尻湖(周回三里)アリ

板倉池(周回三里)尾瀬湖(周回三里)ハ共ニ上野ニアリ

下野日光山中ニ中禪寺湖(周回八里)アリ湖水溢レテ瀑布トナル華嚴瀑コレナリ赤間沼アリ

周回四里トス

猪苗代湖(周回十里)ハ岩代ニアリ湖中島アリ翁島ト稱ス

品井沼(周回五里)大沼(周回三里)長沼(周回三里)ハ共ニ陸前ニアリ

8 瀑布ヲ問フ

小河源沼(周回十三里)十輪田湖(周回十里)霧架沼(周回六里)十三瀉(周回六里)ハ共ニ陸奥ニアリ

八郎瀉(周回十里)田澤瀉(周回三里)ハ共ニ羽後ニアリ

8 養老瀑布ハ美濃多藝郡養老山ニアリ高サ七丈餘幅二間甚タ壯觀ナリ阿彌陀瀑ハ三國嶺ニ懸リ高六十丈餘アリ

白水瀑ハ飛彈大野郡ニアリ二百餘丈幅七間又タ嶽谷瀑布ハ高百二十丈青垂瀑ハ高四十五丈餘アリ然トモ濶共ニ間餘トス

米子瀑ハ信濃高井那米子ニアリ二條ニ別レ南ヲ不動瀑ト云ヒ高九十丈幅一間一尺北ヲ權現瀑ト云ヒ高六十丈幅一間二尺二瀑相距ル一町餘下流相會シ共ニ千曲川ニ入レ

銚子瀑ハ上野荒船山ノ北崖ニ懸ル高五十丈餘幅一間許

華嚴瀑ハ下野日光山中ニアリ高七十五丈幅十五間頗ル絶壯ニシテ人ヲシテ眩目久シク見ル能ハサラシム裏見瀑ハ阿含瀑トモ稱シ高十丈餘幅三間ソノ他霧降瀑ハ飛沫霧ノ如ク數層ニ注下シ高三十四丈幅五間共ニ壯觀ナリ尙ホ日光山中四十餘ノ多キアリ

9 温泉  
問フ

9 靈泉寺温泉ハ信濃ニアリ甚タ著名ナリソノ他院内上下淺間等アリ  
伊香保草津ニ温泉ハ上野ニアリ共ニ有名ニシテ相距ル十三里余ニ過キス而シテ伊香保ハ東京ヲ距ル三十五里往來至便ニシテ貴顯紳士ノ入浴スルモノ多シ傳ヘ云フ垂仁天皇ノ御代發見セリトソノ他鹿澤河原澤渡等諸泉アリ  
下野ニ鹽原アリ羽前ニ田川アリ羽後ニ大瀧、湯ノ澤等ノ諸泉皆ナ効アルヲ以テ著ハルソノ他甚タ多キモ略ス

10 海岸  
問フ

10 中山道ノ部分ハ東海北陸ノ兩道ニ夾マレ畿内ニ接スルヲ以テ海ニ面セルコトナギモ唯奥羽ノミ海ニ臨ス然レトモ大ナル出入アルコトナシ

11 港灣  
問フ

11 奥羽ノ地ハ良港ニ乏シ就中著名ナルモノヲ舉グレハ  
石巻港ハ陸前北上川ノ河口ニシテ深五匁乃至十二匁燈臺ノ設ケアリ水面ヨリ高キコト五丈二尺燈光白色ニシテ照射六海里半ニ達ス  
青森港ハ陸奥ニアリテ深八匁餘而シテ燈臺アリ水面ヨリ高キコト四丈五尺燈光白色照射五海里ニ達ス

12 崎岬  
問フ

酒田港ハ羽後ニアリ深一匁餘  
陸奥ノ大間岬龍飛崎ト相對シ一灣ヲ擁ス大間岬ノ方ヲ野邊知灣ト云ヒ龍飛崎ノ方ヲ青森灣ト云フ

陸前黒崎ヨリ西ヲ仙臺灣ト稱ス

12 黒岬ハ陸前ニアリ岬ノ近キ所ニ金華山ト名ツクル島アリ東南ノ海灣ニ數百ノ島碁布ス有名ナル松島コレナリ

龍飛崎ハ陸奥ニアリ津輕海峡ニ突出シテ渡島ノ白神崎ト遙ニ相對ス其間海潮急激舟行頗ル危険ナリ尻屋岬ハ遙ニ渡島ノ惠山岬ト相對シ長サ二里餘海中暗礁多ク燈明臺アリ水面ヨリ高キコト十五丈燈光白色ニシテ照射二十海里半ニ達セリ大間岬ハ津輕海峡ニ突出シ小泊崎ハ陸奥海ニ突出シテ野邊知灣ト青森灣トヲ別ツ

陸中ニ尾崎アリ二里餘閉伊崎ハ一里三十町餘斗出セリ  
入道岬ハ羽後ニアリ八郎瀨ノ前ニ出ツ

13 海峡  
問フ

13 陸奥ニ平館海峡アリ即チ青森灣ノ海口ナリ又タ松前海峽トハ龍飛崎ト渡島白神崎

問フ

トノ間ヲ云フ

第三章

四都邑ヲ  
問フ

14 大津ハ近江ニアリ琵琶湖ノ南岸ニ臨ミ東海道ノ要路ニ當リ海船アリ長濱ニ往來シ且ツ東海鐵道線コヽニ通シ水陸共ニ運輸至便ナリ昔天智帝コヽニ都シ給ヘリ京都ヲ距ルニ里半許トス彦根ハ琵琶湖ノ東岸ニアリテ徳川時代石田三成ヲ此地ニ封シ後井伊氏ノ封トナル大津ヲ距ル十五里餘  
岐阜大垣ハ共ニ美濃ニアリ共ニ商業繁盛ナリ

長野ハ信濃ニアリ善光寺ト名ツクル有名ノ古寺アリ參詣者常ニ絶ヘス爲メニ市街ノ繁榮ヲ助ク松本上田ノ兩町共ニ繁昌ナリ

前橋ハ上野ニ在リ古昔厩橋ト稱シ武田、上杉、北條ノ三氏常ニ此地ヲ爭ヘリ往來頗ル盛ンニシテ商業昌榮シ東京ヲ距ル僅ニ二十八里餘トス高崎ハ中山道ノ衝ニ當リ稍盛ンナリ

宇都宮ハ下野ニアリ陸羽街道及日光街道ノ要路ニシテ往來繁ク頗ル昌ンナリ東京ヲ

15 名勝ヲ  
問フ

距ル二十八里餘栃木モ亦タ宇都宮ニ次キ市街繁榮ナリ足利ハ足利氏累世ノ居城ニシテ足利學校銀阿寺等ノ舊蹟アリ

仙臺ハ陸前ニアリ奥羽地方第一ノ都會ニシテ仙臺鎮臺ノ本營及縣廳アリ仙臺城ハ慶長七年伊達政宗ノ築キシ所ニシテ累世ノ居城タリ

弘前ハ陸奥ニアリ商業隆盛ニシテ青森ハ船舶輻輳繁昌ヲ極ム

山形及ヒ米澤ハ陸前ニアリ米澤ハ伊達晴宗此ニ居リ後テ徳川時代上杉景勝コヽニ封セラル養蠶ノ業盛ンニシテ其名著ハル

羽後ニ秋田、酒田、大館等アリ他略ス

15 近江八景ハ古來ヨリ有名ニシテ總テ琵琶湖畔ノ沿岸ニアリ三井晚鐘、粟津晴嵐、石山秋月、唐崎夜雨、勢多夕照、比良暮雪、堅田落雁、矢橋歸帆、トス  
姨捨山ハ信濃ニアリ山麓ノ水田梯形ナシ明月田水ニ映シ影ヲ分ツ田毎ノ月ト稱スルコレニ起ル頗ル奇觀トス

日光東照宮ハ下野日光山中ニアリ社殿ノ構造金銀珠玉ヲ鑲ハメ壯麗ナル天下ニ比ナ

シ庚申山ハ怪岩奇石ヲ以テ著ハル登降スル者必ス鉄鎖ニ攀援セサルヘカラス  
松島ハ陸前ニアリ數百ノ島嶼悉ク青松ヲ生シ綠波ト相映シ風光明媚本邦三景ノ一タ  
リ松島八景アレトモ記サス

### 第四章

16 氣候ヲ  
問フ

16 本道ハ西南ヨリ東北ニ延長シテ其兩極端ノ距離甚タシク從テ氣候亦タ著シク異ナ  
レリ中山道ニテノ低地ハ温暖ニシテ特ニ近江美濃ノ如キハソノ最タルモノトス然レ  
信濃飛騨ノ如キハ寒氣甚タシク陸奥陸中羽後地方ハ寒烈ノ地ニシテ特ニ秋田青森ハ  
降雪頗ル多シトス嚴寒ノ候積雪丈餘ナルヲ普通ナリ

17 地味ヲ  
問フ

17 近江美濃陸前及ヒ上野ノ東南部ハ甚タ肥沃ナリ其他ハ肥瘠相半スカ如シト云フ  
18 本道ハ養蠶ノ盛ンニ行ハル、地方ニシテ外國輸出品ノ第一位ヲ占ルモノハ多ク本  
道ノ産出ニ係ル且ツ本道ハ古昔ヨリ牧馬ノ盛ナル地方ニシテ牧養セサル國ナク就  
中南部馬ヲ以テ最モ駿馬ナリト稱ス

18 産物ヲ  
問フ

近江ノ長濱縮緬、茶、絹縮、帷子地、曝布、雁皮紙、大津繪、等美濃ノ紙、養老酒、岐草提燈

19 歴史上  
ノ古蹟ヲ  
問フ

19 美濃ニ賤ヶ岳關ヶ原アリ信濃ニ川中島アリ陸前ニ宮城壺之碑アリ陸中ニ衣川、厨  
川、鳥海ノ柵趾アリ

### 第五章

20 本道ハ古昔七國ニシテ東北地方ハ蝦夷ノ巢窟地トス前ニモ記シタルカ如ク他ノ諸

道ニ比スレハ大ナル第一ニ位スルモ人口稀少ニシテ未タ開發セサル原野甚タ多シ  
又タ全道山岳多ク往還不便ナリシモ近來道路ノ修築鐵道ノ敷設日チ遂フテ盛ンニシ  
テ交通大ニ開ケ文化日進セリ

21 沿革ヲ示セ

21 東北地方ハ總テ蝦夷ノ巢窟地タリシナリ崇神天皇ノ御宇皇子豐城命ヲ遣ハシ東國ヲ治メシム蓋シ上野下野ノ間ニ在リテ政ヲ行ヒ給ヘリ景行天皇ノ朝日本武尊東征シテ悉ク之ヲ征服シ玉ヒシヨリ國造縣主各地ニ在テ治ヲ司ル六化ノ初國守郡領ヲ置ク天慶ノ亂藤原秀郷功アリシヲ以テ上野下野及武藏下總等ノ守ニ任シ下野ニ居ル其後安部賴時陸奥ニ於テ叛ス源賴義コレヲ平ク清原武則ノ孫家衡叔父武衡ト俱ニ亂ヲナス源義家コレヲ討平セリ其後藤原清衡押領使トナリ陸奥出羽ヲ占領ス建武中興ノ時義長親王與羽二州ヲ兼治シ新田義貞上野ノ守護タリ足利氏ノ末路命令行ハレサルノ時ニ及ヒ諸州ノ豪族並ヒ起リ互ニ雄ヲ爭フ北條氏康ハ上野下野ノ間ニ上杉氏ト爭ヒ武田晴信ハ上杉輝虎ト川中島ニ戰ヘリ織田信長コレヲ平定シ豐臣氏ニ至リ其功臣及故領守ニ分封シ德川氏ノ時ニ及ヒ又々變交アリ其後幾多ノ變遷アリ明治維新ノ際陸奥ヲ磐城以下ノ五國トシ出羽ヲ羽前羽後ノ二ツニ分チ藩ヲ置ク後チ改メ縣トナシ現今十一縣七市アリ

22 風俗ヲ

22 近江ハ風俗伶俐商賈ニ長シ美濃ハ質直ニシテ勇ヲ好ミ飛彈信濃ハ頑樸ニシテ上野

間フ

下野ハ稍捷黠ニシテ仙臺地方ハ浮薄ノ風アリ其他ノ諸國總テ野鄙樸陋ナリ飛彈信濃及東北地方ハ麥稗蘿蔔等ヲ混炊シコレヲ常食トセルカ如シ家屋ハ市邑ヲ除クノ外ハ茅又ハ板ヲ以テ屋ヲ葺キタル狹隘ナル家ニ住ミ近江美濃下野越中越後等ノ諸國農民ハ窄裾ノ袴ヲ穿テルモノ多シ

附 誌

23 附誌 島嶼ヲ問フ

沿海ノ地少ク島嶼甚タ少シトス陸前宮戸島(周圍四里余)金華山島(周圍三里余)田代島(全)江ノ島(周圍二里余)野々島寒風澤島共二一里餘ノ周圍ニ過キス宮戸田代兩島ノ如キハ人口五百許アリ

東山道誌

○第三編 地理各論△東山道誌

### 北陸道誌

#### 第一章

- 1 位置ヲ示セ  
1 本邦ノ西北端ニ位シ六國相連ナリ能登半島狀ヲナシ日本海ニ突出シ佐波ハ別ニ一  
小島ヲナシ越後ノ北日本海ニアリ總テ七國ヨリ成ル
- 2 境界ヲ示セ  
2 西山陰(丹波)ニ接シ東南ハ東山道ノ背ニ密接シ西北一帯日本海ニ瀕セリ
- 3 經緯度ヲ示セ  
3 東經百二十五度四十三分ニ起リ百四十度ニ盡キ北緯三十五度十八分ヨリ三十八度  
三十三分ニ至ル面積凡ソ千六百三十四方里トス(備考佐渡ヲ  
兼入セズ)
- 4 形勢ヲ問フ  
4 西南ヨリ斜ニ東北ニ亘リ本道ノ東南部則チ東山道ノ境ニハ一帯ノ山脉連亘シ支脈  
分レテ各國ノ境界ヲナセリ河川ハ概テ東山道ニ發源シ日本海ニ注ク東南一帯ハ高地  
ニシテ行路峻險ナルモ信濃川下流ノ地ハ低ク東南ヨリ西北ニ亘リ長サ凡ソ十三里  
餘幅員六七里ノ間稻田相連レリ

#### 第二章

- 5 河川ヲ問フ  
5 九頭龍川ハ越前ノ東隅ニ發源シ日野川ト合シ亘流トナリ坂井港ニ注ク長凡三十二

問フ

里餘

手取川ハ源ヲ加賀ノ東南ニ發シ國ノ中央ヲ貫流シ海ニ入ル長サ二十餘里  
越中ニ川流ノ大ナルモノニアリ神通及射水兩河トス共ニ源ヲ飛騨ニ發シ長サ凡ソ神  
通川ハ三十里許射水川ハ四十里餘アリ尙ホ黒部川常願寺川アリ長サ共ニ二十里許  
信濃川ハ越後ニアリ筑摩川犀川ノ下流ニシテ信濃ヨリ來リ國ノ中央ヲ流レ海ニ注ク  
長サ百里餘本洲第一ノ長流トス然レトモ信越ノ界ハ河中岩石併立シ激湍ニ沮メテレ  
舟筏ヲ通スル能ハスシテ運輸ノ便ハ北上、利根ノ兩河ニ及ハスト云ソノ他阿賀川ア  
リ岩代ニ發源シテ國ノ東境ニ入り貫流シテ海ニ入ル長サ四十五里餘アリ

6 山岳ヲ問フ  
6 荒島山ハ越前ニアリ高四千尺餘ソノ他繁縷岳國見岳(共ニ高  
二千尺)等アリ

7 山及嶺ヲ問フ  
7 寶達山(高二千尺)石動山等ハ能登ノ南境ニ峙テリ

8 山岳ヲ問フ  
8 蓮華山ハ越後ノ西南境ニアリ朝日岳トモ稱シ越中信濃ニ跨ル分レテ數峯トナル大蓮  
華山(高九千八百  
七十二尺)蓮華山(高九千六百  
八十三尺)最モ高シトス大日岳(高五千九  
百六十尺)八國ノ東隅ニ峙チ其支  
峯鳥帽子山(高三千  
余尺)蒜場山(全  
上)等トナル御神樂山(高三千  
尺許)ハ岩代ニ跨リ飯豐山ハ羽前岩

代ニ跨レリ其他米山御月山苗場山等モ高山ナリトス  
 白山(高八千九百)ハ加賀ノ東南隅ニアリテ越前美濃飛騨ニ跨リ北陸第一ノ高山トス天  
 文十六年始メテ噴火シ後ニ回ニシテ熄ム白雪常ニ盡キスコレ其名ヲ得タル所以ナリ  
 越中ノ東南隅ニ立山(高五千)アリ天保七年噴出シ山中火坑多ク硫煙ヲ噴ク  
 妙香山ハ越後ノ南隅ニアリコレ亦タ噴火山ナリ  
 銅坑ハ加賀能美郡ニ十箇所及越後東蒲原郡鹿額等ニアリ  
 銀坑ハ越前面谷山及越後蒲原郡等トス  
 石炭坑ハ越前丹生郡及越後北蒲原郡ニアリ  
 金坑ハ加賀能美郡金平及越中下新川郡松倉越後岩船郡高根等トス  
 金銀坑ハ加賀石川郡及ヒ佐渡雜太郡金北山下相川郡羽田等ニ凡ソ十數所アリ就中金  
 北山ハ其發見最モ古ク探出最モ多ク本邦礦山中著名ナルモノトス  
 石油坑ハ越後北蒲原郡ニ九箇所中蒲原郡ニ十六所東頸城郡西頸城郡共ニ十所其他十  
 數所アリ

尙ホ鉛坑多キモ略セリ

7 湖沼ヲ  
問フ

7 三方湖(周回總テ二里余)ハ若狹ニアリ三湖相連レリ  
 北瀉入江(周回五里二十余町)越前ニアリ加賀ニ巨ル

河北入江(周回六里余)ハ八田瀉トモ稱セリ柴山湖(周回三里)今江瀉(周回二里許)等總テ加賀ニアリ

能登ニ邑智瀉(周回三里余)アリ越後ニ福島瀉(周回三里許)鏡瀉(周回二里許)等アリソノ他一里許ノモ  
 ノ甚タ多シトス

8 瀑布ヲ  
問フ

8 千仞瀑ハ加賀能美郡ニアリ高サ凡ソ二百丈許本道瀑布中第一ノ壯觀トス頗ル壯絶  
 ナリ

稱名瀑ハ越中新川郡早乙女岳ニアリ高サ百丈餘幅十間下流常願寺川トナル

布引瀑ハ越後守間岳ニアリ高サ百二十丈餘幅二間頗ル壯觀ナリ不動瀑アリ高七十五  
 丈餘幅七間許アリ

其他能登寶達山ノ山中ニ樽見瀑アリ

9 温泉ヲ  
問フ

9 加賀ニ辰口、山中、深谷等アリ能登ニ和倉、藥師アリ越中ニ山田、西明寺小川等アリ

問フ

越後ニ關屋冷泉アリ此地新瀉ヲ距ル一里許ニシテ浴客甚タ多シトス岩室、湯澤、大蒲原、湯ノ澤、出湯等總テ効アリテ世ニ知ラル

10 海岸ノ

狀況ヲ問

10 海岸ハ六十余里ノ間一直線ニシテ著シキ屈曲ナク唯タ若狹越前能登ニ總ノ出入アルノミ從テ良港ニ乏シ

11 港灣ヲ

問フ

11 小濱港ハ若狹ニアリ松崎及ヒ赤礁岬相對シテ海口チナス北海ノ航船概テ此ニ寄泊ス

敦賀、阪井、ノ兩港ハ越前ニアリ敦賀港ハ深四十余俵ニシテ船舶輻輳シ頗ル良港タリ

七尾港ハ能登ニアリ深三乃至五俵餘ナリ碇泊ニ便アリ

新瀉港ハ越後ニアリ天保年間奉行所アリ明治ノ初外國互市場トナシ本邦五港ノ一ニシテ北海岸中要港タリ然レ深一俵乃至五俵許ニシテ大船巨舶ヲ容ルテ難ク且ツ冬期ハ強風多ク波浪高ク寄泊スルノ艱ナク極メテ寂寞タリ而シテ港ノ西岸丘上ニ高サ三丈二尺三寸ノ舊置燈臺アリ

七尾灣ハ能登ノ東部ニアリ中央ニ能登島アリテ灣口チニツニ分カテリ

12 崎岬ヲ

12 松崎及赤礁崎ノ二崎ハ若狹ニアリ松崎ハ四十余町海中ニ突出セリトス

越前岬及立石崎ハ共ニ越前ニアリ

能登ニ珠洲岬アリ佐渡島ト遙ニ相對シ東ニ突出シ岬前岩礁多クシテ北海岸中第一ノ險惡ナル地トス

### 第三章

13 都邑ヲ

13 福井ハ越前ノ都會ニシテ天正年間柴田勝家此ニ居レリ福井縣廳ノアル所ニシテ繁盛ナリトス敦賀モ亦氣車汽船ノ便アリテ日チ逐フテ繁華ニ赴ケリ

金澤ハ加賀ノ東北隅ニアリ此地元ト我邦第一ノ大諸侯タリシ前田家ノ城下ニシテ日本海ニ面セリ現今第三師團第六旅團及石川縣廳アルアリ商業頗ル隆盛ニシテ其繁榮

名古屋(尾張)ニ亞キ北陸第一トス

七尾ハ能登七尾灣ノ南岸ニアリ此地七尾ノ良港アルヲ以テ繁榮ナリ徳川時代前田利家ノ子利長ノ封トナル

富山ハ越中ニアリ商業盛ンナリ就中賣藥商多キヲ以テ頗ル名アリ前田利長ノ支夫タ



リシ  
 新瀛ハ越後ノ都會ニシテ五港ノ一タリ水陸ノ利アリ内外物貨輻輳シ商業繁盛ナリ  
 其他若狹ノ小濱、加賀ノ小松大聖寺越中ノ魚津越後ノ高田、三條、新發田、長岡村上等  
 總テ繁昌ナリトス

14名勝ヲ  
 問フ  
 14名勝トシテ記スヘキ者ナシ唯越中越後ノ國界ニ有名ナル親不知ノ危險アリ斷崖ノ  
 下僅ニ通路アリテ崖腹ニ洞穴ヲ穿テリコレ激浪來ル、時避クル所ニシテ是ニ臨メバ  
 粟然タリ

### 第四章

15氣候ヲ  
 問フ  
 15東南山ヲ負ヒ西北海ヲ控ユルヲ以テ冬時寒冽降雪甚タ多ク積雪丈餘ニ及ヒ簷下僅  
 ニ行人ヲ通スルニ至ル殊ニ越後高田近傍ハ最モ深ク行旅跡ヲ絶ツニ至ル

16地味ヲ  
 問フ  
 16越前越後ノ平野ハ肥沃ニシテ若狹能登ハ甚タ薄瘠ナリ其他諸國ハ肥瘠相半ハスカ  
 如シ

17産物ヲ  
 17若狹ニ厚紙、若狹塗、生絲、葛粉、藍、茶等アリ越前ニ煙草、茶、奉書紬、布、雲丹、干鰯

問フ  
 18 歴史上ノ古跡ヲ  
 問フ  
 等加賀ノ九谷燒、漆器、金澤象眼細工、木綿、加賀絹、茶等能登ノ石花菜輪島塗、布等越  
 中ノ銅器、鉄器、吳呂、丸布、生絲、棧留稿、氷見蠶等越後ノ縮布、清好平絹、縹、麻布、  
 石腦、油、海魚等ニシテ佐渡ノ金銀ハ最モ有名ニシテ尙ホ石花菜、海苔、陶器、鑄物細  
 工、海魚等アリ

### 第五章

18 加賀及越中ニ跨レル蠟波山ノ南ニ當リ俱利加羅谷古戰場アリ越前ニ藤嶋アリ今マ  
 別格官幣社タル藤島神社アリ新田義貞ヲ祀ル所タリ

19 總説ヲ示セ  
 19 上古ハ若狹佐渡ヲ除キ蝦夷ノ巢窟地ニシテ暫ク王土ニ歸セサリキ本道ハ礦物ニ富  
 ミ且ツ越後ニ奇觀アリ即チ火井ニシテ地中ヨリ火氣ヲ發ス或ハ燈ニ用ヒ或ハ焚ノ  
 用ニ供ス

20 沿革ヲ問フ  
 20 前述ヘタルカ如ク上古若狹佐渡ヲ除ク外總テ越ト稱シ蝦夷ノ巢窟タリシカ後漸ク  
 王土ニ歸セリ大化以降國郡ノ制ヲ定メ國司郡領ヲ置キ治メシム源賴朝ノ時越後ヲ以  
 テ管國ノ一ニ編入セリ建武中興ノ際新田義貞皇太子恒良及親王尊良ヲ奉シ越前拙山

21 風俗ハ如何

ニ據ル義貞藤島ニ於テ戰歿ス其後足利氏ノ政令漸ク行ハレサルニ及ヒ領主各雄チ爭ヒ上杉輝虎四方チ風靡シ越後能登及佐渡ヲ領ス織田信長起リ家臣ニ分封シ關原ノ役畢リ徳川氏ニ歸シ八藩アリ奉行ヲ佐渡ニ置ク爾來天保年間ニ新潟奉行ヲ置キ明治維新ニ至リ藩ヲ廢シ縣ヲ設ク現今四縣五市四十二郡アリ

附誌

22 附誌 島嶼ヲ問フ

22 佐渡島ハ本道ノ東北日本海中ニアリ東徑百三十八度二十四分ヨリ同五十分ニ盡キ北緯三十七度四十八分十七秒ヨリ三十八度十八分十七秒ニ至リ周回五十三里餘ノ一島國トス地勢南北ニ長ク東西ニ短シ島ノ西北部ニ金山(高四千尺許)アリ其他金剛山五月雨山等諸山アリ國府川羽毛川アリ共ニ長六里余ニ過キス

二大崎アリ鷲崎ハ東北海上ニ斗出シテ山津山嘴ニ對シテ灣チナシ澤崎ハ西南端ニ突

出シテ春日崎ト對シ灣チナス赤泊、小木ノ港アリ淀泊ニ便ナリ

全島土地平坦肥沃ニシテ耕種ニ適シ沿海ハ亦々海産ニ富メリ金銀ノ産出本邦ニ冠絶セリ

氣候酷寒風浪常ニ惡シトス

相川ハ島中第一ノ繁華ノ地トス其他小木河原田等ノ名邑アリ順徳天皇ヲ奉葬セル眞野ノ山陵アリ

鎌倉時代本間能忠コ、ニ封セラレ其後澁谷、土屋等各地頭トナレリ承久ノ年順徳天皇ヲ此ニ遷セリ再ヒ本間氏守護トナル天正年間ニ至リ上杉輝虎ノヲメニ攻メラレ遂ニ降ル輝虎義子景勝ヲ此ニ居ラシム豊臣氏景勝ヲ封スルニ會津ヲ以テシ更チ適シテ事ヲ執ラシム徳川氏ニ至リ奉行ヲ置キテ管セシメ探礦ノ業ヲ勵マセリ明治維新佐渡縣ヲ置ク久シカラスシテ相川縣トナス遂ニコレヲ廢シテ今マ新潟縣ニ隸屬セシム居民ハ探礦ヲ以テ專業トナセリ

能登島ハ能登ノ東七尾灣中ニアリテ灣口ヲ分カテリ北ニアルチ大口峽ト呼ヒ南ニア

ルテ小口峽ト呼ヘリ周回十四里二十町許東西三里餘南北一里十八町許トス近傍ニ數十ノ島嶼アリ居民ハ製鹽ヲ以テ専業トナス戶數千余ニシテ人口殆ント六千ニ達セリ其他一里以上ノモノ三四アリ若狹ニ御神嶋アリ周回一里余能登ニ船倉島アリ周回一里許七島アリ其最大ナルモノヲ稱シ大島ト呼フ越後粟生島ハ國ノ北端ニアリテ周回四里余トス其他略セリ

### 北陸道誌終

## 北海道誌

### 第一章

1 位置ヲ示セ

2 境界ヲ詳記セヨ

3 經緯度ヲ記セ

4 形勢ヲ示セ

1 本道ハ我帝國ノ最北部ニアリテ蝦夷島ト稱シ十一國及千島群島其他許多ノ島嶼ヨリナル

2 東南ハ大平洋ニ瀕シ北ハ宗谷海峽ヲ以テ樺太ト相對シ東北ハをこつく海ニ面シ久留里海峽ヲ隔テ、かむさつかニ對シ西ハ日本海ニ接シ南ハ津輕海峽ヲ以テ本洲ニ對スル地ヲ東山道ノ陸奥トス

3 東經百三十九度五十八分ヨリ百五十六度三十二分ニ至リ北緯四十一度二十五分ニ起リ五十度五十六分ニ尽ク面積蝦夷島五千八百三十三方里ニシテ千島群島一千十一方里アリ

4 本道ノ形勢恰モ尾ヲ振フ赤鯉ニ似タリ而シテ全道山多ク中央部ヨリ數多ノ山脈ヲ方支ス然レトモ石狩、膽振、十勝、釧路、根室等ニハ四方十數里ニ亘ル平野多シトス

### 第二章

5 河川ヲ  
記セ

5 石狩川ハ源ヲ石狩國石狩嶽ニ發シ遂ニ日本海ニ注ク長凡百六十七里水常ニ深ク下流數十里ノ間小蒸氣船ヲ通スルヲ得ヘク運輸灌漑ノ便益實ニ大ナリ本邦第一ノ巨流ニシテ海ニ入ルノ所ハ鮭魚ノ獵獲盛ンナリ

天鹽川ハ源ヲ天鹽十勝山石狩石狩岳二山ノ北方ニ發シ西北ニ流レ海ニ入ル長サ七十  
余里トス

大洋川ハ十勝ニアリ東南ニ流レ太平洋ニ注ク長四十四里余下流ニ派トナリ流ルニ  
里許同シク太平洋ニ注ケリ是ヲ十勝川ト爲ス

釧路川ハ久壽里川トモ稱シ源ヲ釧路ニ發シ遂ニ太平洋ニ注ク長三十七里余アリ  
其他北見ニ常呂川(長三十里)根室ニ西別川(長三十里)日高十勝ノ兩國界ニ新冠川(長二十里)等アリ

6 山岳ヲ  
記セ  
山嶺山

6 宗谷山(高四千尺余)ハ北見ノ北隅ニアリ其山脉東南ニ連亘シ天鹽山脉ニ連レリ  
天鹽ニ天鹽岳アリ十勝ニ十勝岳アリ共ニ峻嶺トス  
石狩岳(高六千尺許)夕張岳ハ共ニ石狩ニアリ

後方羊蹄山ハ(高六千五百尺余)後志ニアリテ東南隅ニ屹峙セリ本道第一ノ高山ニシテ噴火山トス

渡島ノ東部ニ内浦岳(或ハ駒ケ岳ト云)アリ古來ヨリ噴火山ニシテ寛永十七年大ニ爆發シ人畜ノ死傷算ナク魚土海ヲ没シテ大島ヲ生セリ尙ホ惠山大川嶽等ノ火山アリ

其他膽振ノ有珠嶽釧路ノ雌峯等噴火山ニシテ雌峯ハ常ニ灰沙ヲ噴出セリ  
本道鑛山ノ所在ハ十餘箇所トス而シテ其六ハ硫黃坑ニテコレニ次クチ石炭坑トス硫

黃ハソノ採出本邦ニ冠絶セリ

硫黃坑ハ渡島龜田郡惠山及膽振虻田郡ニセコアンベツ釧路アトサノホリ其他北見千島ニアリ採出總合百五十萬貫ニ達セリ

石炭坑ハ渡島龜田郡、石崎、後志、岩内郡、石狩、石狩郡、及膽振天鹽等ニアリ

石油坑ハ石狩厚田郡シヤツカリ山及同郡シユンベツ山ニアリ其他金銀銅等ノ數坑アリ

7 湖沼ヲ

7 北見ニ猿間湖(周四十里許)アリ根室ニフナレン湖(周四十里餘)膽振ニ洞爺湖(周四十里餘)釧路ニ阿寒

湖ノ目

湖渡島ニ大沼等アリ皆ナ有名ナル者トス其他十勝ノ喜門沼往牛沼膽振ノ支笏湖長都沼等アリ

3 瀑布ヲ記セ

8 石狩瀑ハ石狩嶽ニ懸レリ溪流集リテ六條ノ瀑布トナリ共ニ奔流シテ石狩川ノ源ダリ其ノ二條ハ高百五十丈幅六間餘他ハ高三十丈幅二間許ニ過キス

阿寒瀑ハ釧路釧路郡ニアリ阿寒川ノ未流激シテ瀑布トナル者ナリ

刺鳥別瀑ハ千島擇捉島ニアリ高サ五十餘丈幅二十間直ニ海中ニ奔落シ頗ル壯絶トス

9 温泉ヲ記セ

9 恵山湯河汲湯ハ渡島ニアリ後者ハ函館ヲ距ル僅カニ九里半許トス膽振ニ登別湯アリ其他三十有餘ノ數アルモ僻地ナルヲ以テ著ハレス

10 海岸ハ岬灣ノ出入實ニ多シト雖トモ大ナルモノ少ナク良港ニ乏シ

10 海岸ノ状ヲ記セ  
11 港灣ヲ記セ

11 箱館港ハ渡島ニアリテ箱館山其港口ヲ擁シ風濤ノ憂ナク安穩ニ碇泊スルヲ得ル良港ニシテ港内廣ク大艦巨舶數十艘ヲ入ル、ニ足ル深四匁乃至七匁ニシテ安政六年開港シ五港ノ一タリ而シテ其港ノ辨天岬ヨリ突出セル洲ノ極北ニ燈船ノ碇置アリ水面ヨリ高キコト三丈六尺燈光白色ニシテ照射十海里ニ達ス

小樽港ハ後志ニアリ深八匁ニシテ東風ヲ避クルト能ハサルモ其他ノ風ハ遮リ本道西岸中安全ナル泊地ニシテ大船ヲ泊スルニ足ル而シテ其港ノ信音町ニ高サ一丈七尺五寸ノ燈臺ヲ設置セリ

室蘭港アリ頗ル良港ニシテ深九十匁アリ

石狩港ハ石狩ニアリ大港ナルモ水淺ク大船ノ碇泊ニ適セス

根室港ハ根室ノ東隅ニ位シ深四匁良港ト稱スル能ハサルモ千嶋ニ渡航スヘキ要津ニシテ港内辨天島ニ高サ七丈五尺燈光赤色ニシテ照射七海里ニ達スル燈臺アリ

釧路ノ厚岸港ハ仙鳳趾醜丹二岬ノ間ヨリ入り込ミタル一大灣中ニアリ島嶼其口ニ峙チ風濤ヲ避クルヲ得東南部第一ノ良港トス

其他渡島ニ江刺福山アリ膽振ニ有珠アリ日高ニ幌泉北見ニ網走等ノ諸港アリ

渡嶋ノ兩角ニアル白神崎ト摺首岬トニテ擁セル灣ヲ稱シテ渡島灣ト云フ

膽振ノ繪鞆岬ハ渡嶋ト相對シ灣ヲナス内浦コレナリ

後志ノ辨慶崎トチカモイ崎ニヨリ津灣ヲナセリたかし岬ハ石狩ニ對シ小樽灣ヲ

抱ク

釧路ニ仙鳳趾醜丹兩岬ノ間ニ厚岸灣アリ

根室ノ納沙布岬ニ北見ノ知床岬ト一大灣ヲ鑷セリ根室灣コレナリ

12 前項ニ於テ概テ岬崎ヲ記シタレトモ今マ重複ヲ省ミス備單ニ述ヘン

志山岬並首岬白神崎ノ三岬ハ渡島ニ白糸岬辨慶崎高島崎醜丹島ハ其後志ニアリ繪鞆

岬ハ巖振ニアリ日高ノ南端ニ襟裳崎アリ太平洋ニ突出ス往時ハコノ地ヲ以テ口蝦夷

與蝦夷ノ境トセリ仙鳳趾床丹兩岬ハ釧路ニアリ根室ニ納沙布岬アリ北見ニ知床岬宗

谷岬アリ

宗谷岬ハ北ニ突出シテ樺太ノ白主岬ト相對シをこつく海ト日本海トヲ分ツ

13 渡島白神岬ト東山道陸奥ノ龍飛崎トノ間ヲ津輕海峽ト云ヒ或ハ松前海峽トモ稱セ

リ

北見宗谷岬ト樺太白神崎トノ間ヲ宗谷海峽ト稱ス日本海トをこつく海トノ潮流互ニ

往來シ峽間七條ノ山路アリ宗谷ノ七汐ト名則ツクルモノコレナリ

第三章

根室ノ根室灣ト千島國後島トノ間ニ根室海峽アリ

14 箱館ハ渡島箱館港ニ沿ヒタル市街ニシテ全道産物ノ集マル所ニシテ内外ノ船舶輻

輳シ貿易盛ンニ行ハレ頗ル繁榮ナリ北海道廳支廳ノアル所ナリ

札幌ハ石狩ニアリ北海道全國ヲ管轄スル北海道廳ノアル所ニシテ鐵道東西ニ連リ學

核病院工場等アリテ日ヲ逐ヒ昌榮ニ赴キ曾テ蝦夷ト稱セシ時代ノ形勢ニアラス

根室ハ根室灣ノ東南岸ニ位シ漁獵ノ利多キヲ以テ居民多ク且ツ辨天島海上ニ表立シ

風光甚タ佳ナリ

其他後志ニ小樽巖振ニ室蘭石狩ニ石狩日高ニ浦河北見ニ宗谷等アリ

第四章

15 土地廣茫タメニ氣候ノ差異甚タシク西南及東南部ハ温和ナルモ西北及東北部ハ寒

烈氷雪河川ヲ埋メ殆ント人馬往來ヲ絶ス夏期甚タ短ク且ツ炎熱ナリト

16 全道至ル所山岳ノ巖嶽タラサルハナシ而レトモ沿川沿海ノ地ハ曠茫タル原野甚タ

16 地味ハ

15 鐘候ヲ

間フ

如何

多シトス就中石狩十勝等ニアル平野ハ肥沃ナルヲ以テ現今大ニ開墾ニ從事シ頗ル盛  
ンナリ

17 産物ヲ  
記セ

17 産物ハ地勢ト氣候ヨリシテ本洲ト異ル者多シ而シテ製造物少ク天産物多ク就中水  
産物ヲ以テ最モ主要ナルモノトス魚鮫、鮭、鮪、鱈、鱒、鮑、鰯、等アリテ是ニ次  
クチ礦物トス大理石、河汲石、砂金、砂鉄、硫黄、珊瑚、亞鉛、等アリ獸類ニハ曠虎、鹿、麝  
臍、水豹、鹿、鯨、等アリ材木ニ檜、樺、落葉松、桂、等アリ土人ノ製作ニ係ルモノハ皆ツ  
ズト稱スル織物及花紋ヲ彫刻セル器皿等トス棕櫚、柑類、米穀等ハ殆ント無シト云フ  
モ可ナランカ

### 第五章

18 歴史上  
ノ古蹟ヲ  
記セ

18 日高ニ沙流川アリソノ河源ニ九郎源公義經神社アリ土人義經ナル語ヲうきくるみ  
ト呼フトカヤ

19 總説ヲ  
記セ

19 本道ノ面積ハ實ニ全國ノ四分ノ一アリ然レトモ人口僅ニ一方里二十人余ノ割合ニ  
シテ二分ノ一以上ハ渡島ニ住シ北方ニ至ルニ從ヒ漸次ソノ數ヲ減シ千嶋ノ如キハ一

20 沿革ヲ  
記セ

方里二人ノ割合トナリ土地廣大ナルモ人口稀少ナリ是ヲ以テ農工商ノ如キハ振ハス  
且ツ漁業ハ稍盛ナルモ捕獲ノ法未ダ宜シカラストメニ充分ノ利ヲ得ル能ハス山林  
ニハ繁茂セル樹木アリ硫黄石炭ノ礦物ニ富ミ茫乎タル原野ハ田園牧場ニ適セリ海ハ  
世界比ナキノ好魚場ナリ實ニ天賦ノ地トハ我カ北海道ヲ謂フカ明治維新以來朝野共  
ニ銳意努力開拓ニ從事シ僅々二十余年ノ歲月ヲ以テ昔日ノ情体ヲ改メ舊蝦夷地アラ  
サルニ至ル明治二年北海道ト稱シ同十九年北海道廳ヲ置キ且ツ屯田兵アリ施政他府  
縣ト異ナリトス

20 本道ハ往昔久シク王土ニ歸セス景行天皇ノ朝武内宿禰勅ヲ奉シ此地ヲ巡察ス其ノ  
後土人叛服常ナリ日本武尊之ヲ鎮定シ玉フ齋明天皇ノ時阿部比羅夫ニ勅シ討平セシ  
ム内地多事ナルニ乘シ渡島津輕以下奥羽越後蝦夷(陸前桃生以北)再ヒ叛亂シ坂上田村  
麻呂文屋錦麻呂等前後之ヲ征シ竟ニ其巢窟ヲ攘ヒ本洲悉ク王土ニ歸ス是レヨリ蝦夷  
本道ニ退居シ蝦夷地ト稱ス後轉訛シテ蝦夷地ト云フ享徳年間若狹ノ人武田信廣松前  
ニ航ス其子孫福山ニ居ル露人屢々移住セントスルヲ以テ函館奉行ヲ置ク文久二年使

ナ遷シ樺太ノ境界ヲ議ス露人已ニ全島ニ居留シ我議ヲ肯ンセス後内國ノ多事ナルニ紛レ數年經過ス露人サカレオンヲ開拓ス大ニ驚キコレヲ詰リ後我雜居地トス明治元年榎本武揚、大島圭助、荒井郁之助等函館五稜廓ニ據リ佐幕ノ佐ヲ舉ク軍敗レ歸順ス後子開拓使ヲ置キ北海道ト改メ又々露國ト議シ樺太ヲ得撫ヨリ東北ノ群島ト交換シ千嶋ニ屬ス明治十五年開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置キ全道ヲ分轄セシモ十九年ニ至リ之ヲ併セ北海道廳ト改ム

21 風俗ヲ問フ

21 本道ハ蝦夷ト稱シ土人チあいのト呼ヒ敬神ノ念ニ厚ク蓄財ノ心ナク最モ刀劍弓矢甲冑等ノ古器物ヲ好メリ男女勞ヲ同シ男子ハ率子弓箭ヲ執テ山野ニ獵シ捕鯨ヲナシ女子ハあづま織等ヲナシ農事ハ甚タ迂遠ナリトス住居ノ構造ハ掘建ト稱スルモノニシテ數多ノ丸木ヲ地中ニ建テ礎石トナシ土盤ニシテ床簀ヲ設ケス屋外ニハ周ラスニ柴牆ヲ以テス身体毛深ク特ニ男子ハ多シトス女子ハ口傍手臂ニ黥シ男子ハ多クハ素髮ニシテ鬚ヲ薙ラス文身ノ風アリあづま織又ハ獸皮ニテ製セル粗服ヲ纏ヘリ概子左衽ナルモ右

22 附誌 島嶼ヲ詳記セヨ

衽ノ者近來アルカ如シ圓袖短衣ニシテ股引ヲ穿ツ然レトモ近頃日本支那露國等ノ古着服ヲ着スルモノアリ土人總テ酒煙草ヲ嗜ミ山獸海魚海藻木實等ヲ常食トス

附誌 附千島群島

渡島ニ大島小島アリ後志ニ奧尻島寶島アリ天埴ニ天瓜島燒島アリ根室ニ水晶島アリ北見ニ禮文島尻島アリ

千島群島ハ根室ノ東北三百六十里ノ間ニ散布スル三十二個ノ總稱ニシテ太平洋トをこつく海トナ區分スルハコノ群島ニシテ主要ナルモノヲ國後、擇促、得撫、新知、舍丹、音丹、幌筵、占守、ノ八島トス占守島ハ露領カむさつかト相距ル僅ニ四里許ニ過キス

諸嶋火山脈ニ當リ内地ハ山嶺秀峙シ海岸ハ斷崖削立スル所甚タ多シトス國後嶋ハ根室灣内ニ半部ヲ入レタル島ニシテ東沸湖(周回三)アリ且ツ二里以下ノ湖沼四個アリ爺洞山最モ高ク四時雪ヲ冠レリ擇促島ハ群島中最大ナルモノニシテ東南海岸ハ絶壁ニシテ波浪高ク船舶ヲ近クルコ



ト能ハス然レトモ西北岸ハ是ニ反シ數多ノ港アリ訪床湖(周回三)ノ他ニ一里余ノモノ  
二個アリ跡居屋山ノ東北山耻海ニ迫リテ五十余丈ノ斷崖トナリ刺鬼別ノ瀑布コレニ  
懸ルソノ近海ハ波濤動搖シテ船ヲ近クルト能ハス高五十四丈アリテ有名ナリ

得撫島ノ近海ハ臘虎多キヲ以テ名アリ此島ト擇促島トノ間ヲ擇促海峡ト稱ス始メ明  
和年間露西亞人始メテ移住ス松前氏制スルト能ハス後子寛政十年ニ至リ近藤守重等  
三名ニ命シ本島及千島ヲ巡視セシム露人巳ニ標ヲ擇促島ニ建ツ守重之ヲ拔キ日本惠  
土呂布ト記セリ

新知島ニ良港アリ此島ト得撫島トノ間ヲ風刺海峡ト云フ

占守島ハ千島群島ノ最尾ニシテ大サ國後島ニ比スヘシかむさつか地方ノ山岡樹林明  
カニ辨知スルコトヲ得

夏月陰霧深ク秋季風濤高ク冬間海水凍リ春夏ノ候ニアラサレハ航行スヘカラサルト  
ハ北海道ノ海概子然リトス千島群島ノ如キ往來スルニハ必ス船舶ニ依ラサルヘカラ  
サルノ地ハ實ニ交通ノ不便大ナリトス特ニ土地瘠瘠樹木少キヨリ生産ノ路未ダ開ケ

ス然レトモ鮭、鱒、鯨、臘虎、等ノ海産物豊饒ナリ又タ鷹、雁、鷺等多シトス

千島群島ノ中得撫ヨリ東北ノ數島ハ元魯頓ナリシモ明治八年我邦及露西亞ノ雜居地  
タル樺太ト交換シ千島連島全ク我版圖ニ屬セリ

### 北海道誌終

中國

畿内ノ西ニアル山陰山陽兩道ヲ總稱シテ中國ト云フ東方ハ畿内及東山北陸  
 兩道ニ接シ西ニ起リ左右皆ナ海ニシテ其端南向シ西海道ト海峽ヲ夾ム  
 大山脉東ヨリ西ニ亘リ其陰陽ニヨリテ山陰山陽ノ兩道ヲ區分セシモノナリ  
 山陰道ハ土地礫瘠ナルモ山陽道ハコレニ反シテ肥沃ナリ而シテ兩道共ニ礦  
 物ニ富ミ氣候ハ山脉ノ向背ニヨリテ全ク相反セリ

山陰道

第一章

- 1 位置ヲ 山陽道ト共ニ本洲ノ西部ニ延長シタル八國ノ地ヲ山陰道ト稱ス
- 2 境界ヲ 東ハ北陸<sup>若</sup>東山<sup>近</sup>江ノ兩道ニ接シ東南ノ一部畿内ニ界シ南ハ山陽道ニ依附シ北ハ日  
本海ニ瀕セリ
- 3 經緯度 東經百三十一度五十五分ヨリ百三十六度ニ至リ北緯三十四度十八分ヨリ三十五度  
四十八分ニ盡キ面積千百〇九方里アリ東ヨリ西ニ伸長セリ

4 形勢ヲ 記セ

4 南境山ヲ負ヒ北方海ニ面スルヲ以テ南ヨリ北ニ低クシテ漸ク平カナリ然レトモ丹  
 波ハ東南隅ニアリテ海ニ臨マス全道山多ク平地少シマス

第二章

5 河川ヲ 開フ

5 保津川ハ二源アリ一ハ山城ニ發シ一ハ丹波ニ發セリ相會シテ大堰川トナリ山城ニ  
 入り桂川ト稱シ淀川ニ合ス長五十五里余上流ハ灌溉ノ利多ク下流ハ運輸ノ便甚ダシ  
 ニ由良川源テ丹波ニ發シ丹後ニ入り由良港ニ注グ長三十里余舟楫ノ便アリ  
 江川ハ石見川ト稱シ源ヲ石見安藝<sup>(山陽)</sup>ノ國境山岳ヨリ發シ備後<sup>(山陽)</sup>ニ至リ石見ニ  
 入り遂ニ日本海ニ注グ長五十里余舟楫ノ通スル殆ント二十里許山陰道第一ノ巨流ト  
 ス

高津川ハ二源アリ石見ニ發シ日本海ニ入ル長サ二十里余運輸ノ利アリ  
 其他但馬ノ朝來川<sup>(長十六)</sup>因幡ノ千代川<sup>(長十二)</sup>伯耆ノ日野川<sup>(長十七)</sup>出雲ノ大川<sup>(長二十)</sup>  
 神門川<sup>(長十九)</sup>等ハ總テ運輸灌溉ノ利アリトス

6 山岳ヲ

6 大江山丹波ノ北境ニ屹タチ往昔酒類童子ノ居住セシ所ト云ヒ今ニ古跡ヲ存セリ高

○第二編 地理各論△山陰道誌

示七用礦山

サ三千七百餘尺アリ

大山(高五千八百八十尺)ハ伯耆ノ西南部ニアリテ中國第一ノ高山ナリ其北ニ船上山アリ

石見出雲ノ國境ニ三瓶山(高三千八百七十餘尺)アリ其他但馬因幡ニ跨レル 氷山アリ丹後ニ由

良嶽アリ丹後富士ト稱ス

銅坑ハ丹波天田郡富垣氷上郡三原、西谷、三方等及丹後加佐郡池ノ内下村伯耆會見郡

堂谷山日野郡、間地山、吉近山、井原山、出雲意宇郡、出雲郷村、神門郡及石見鹿足郡、

美濃郡等トス

銀坑ハ但馬朝來郡生野トス生野ハ本道諸礦山中最も有名ナルモノタリ

石炭坑ハ出雲意宇郡矢田ニアリ其他鉛、陶土、鉄坑等アルモ略セリ

7 湖沼ヲ記セ

7 湖山池(周回三里)因幡ニアリ中央ニ青島ト名ツル一小島アリ決流千代川ニ入ル

東郷池(周回二里余)ハ伯耆ニアリ

出雲伯耆ノ境界ノ海濱ニ中海(周回十六里十七町)アリ一方海ニ通シ海山相往來セリ

穴道湖(周回十里余)神西湖(周回二里余)ハ共ニ出雲ニアリ

8 瀑布ヲ記セ

8 布引瀑ハ丹後與謝郡ニアリ白布ヲ垂ルカ如シ高二百七十丈余幅五間余ナリ深山瀑

ハ平時涸レルモ一朝雨アレハ奔激シ瀑布ヲナス

猿尾瀑ハ但馬妙見山麓ニアリ高三十丈許天瀑ハ筏村ノ山間ニアリテ高四十丈余アリ

リ湯島湯ハ但馬ニアリ養老年間ノ發見ニ係ル山水ノ觀アリテ浴客ノ遊ブモノ甚タ多

シ 吉附湯ハ因幡ニアリ有福湯ハ石見ニアリ此地群峯ノ間ニアリ行歩甚タ不便ナルモ就

テ浴スルノ客多シ

其他丹波ニ木津泉伯耆ニ山田、三朝、引地等諸泉アリ出雲ニ三澤、牛尾、玉造等アリ皆

ナ有名ナリトス

10 海岸ノ屈曲甚タ少ニシテ著大ナル者ナシ

11 舞鶴港ハ深八仟余アリ宮津港(四段ノ燈)ハ水深ク碇泊ニ便ナリ故ニ北海航行ノ船舶

ハ概子此ニ寄泊シ春期ヲ待ツヲ以テ船舶輻輳シ頗ル昌ンナリ共ニ丹後ニアリ

但馬ニ諸寄港アリ

境浦港ハ伯耆ニアリ深四仞乃至五仞余

西郷港ハ隱岐ニアリ深十仞島中ノ良港トス伯耆境浦港ト距ル二十五里余

其他伯耆米子浦、出雲美保關(高サ一丈二尺)岩見ノ大浦等ナリ

海灣ノ大ナル者ナク丹後ノ成生岬及鷺岬ノ間ヲ與謝海ト稱ス伯耆ノ赤崎ヨリ沿岸西

南ニ屈曲シ中海ノ東ヨリ北ニ突出シ地藏崎アリテ一小灣ヲナセリ

12 成生岬丹後ニアリ其西ニ黒崎アリ與謝海ニ突出ス長一里十余町鷺崎ハ十五町突出

シ其西北ニ經岬アリ岩礁激浪ノ間ニ散布シ舟行危險ノ所ニシテ本道第一ノ大岬ナリ

出雲美保關ノ東ニ當リ地藏岬アリ突出スル十町余尤モ危險ノ所トス尙ホ多古島、十

六島島アリ

### 第三章

13 都邑ヲ

13 龜岡福知山共ニ丹波ニアリテ甚々繁昌セリ

宮津ハ丹後ニアリ與謝海ニ臨ミ商業繁昌ナリ舞鶴ハ若狹ニ通スルノ要路ニシテ宮津

ヲ距ル六里余

14 名勝ヲ

豊岡ハ但馬ニアリ繁榮ナリトス

鳥取ハ因幡ニアリ頗ル繁盛ナル都邑トス

松江ハ出雲ノ都邑ニシテ宍道湖ノ東邊ニ位シ湖上ノ風景ヲ眺望シ絶佳ナリトス商業

繁榮本道第一タリ杵築ニ出雲大社アリ頗ル著名ナリ

其他石見ニ濱田大森等ノ名邑アリ

14 我國ノ三景ノ一ト稱セラル、天橋立ハ丹後ニアリテ與謝海ニ斗出シタル一帯ノ沙

洲ニシテ長サ二十五町余白沙青松綠波ト相映シ風景畫クカ如ク陸前ノ松島安藝ノ巖

島及ヒコノ天橋立ノ三者ヲ日本三景ト稱セリ

出雲ニ出雲大社アリ官幣大社ニシテ大國主神ヲ祀ル

石見ニ高角山及床浦ノ勝地アリ

### 第四章

15 氣候ヲ

15 氣候寒冽ニシテ降雪多ク且ツ其期長シコレ北方海ニ面シ海風ヲ承ケ南方山脉アル

○第二編 地理各論△山陰道誌

16 地味ハ如何  
 17 産物ノ主ナル者  
 18 歴史上ノ古蹟ヲ  
 19 總説ヲ  
 20 沿革ヲ  
 21 風俗ヲ  
 22 附誌  
 島嶼ヲ示セ

16 伯耆ノ西北部僅ニ肥沃ニシテ他ハ總テ薄瘠ナリ  
 17 丹波ノ煙草、茶、丹後ノ縮緬、選絲、但馬ノ金銀、出石ノ陶器、豐岡ノ柳行李、因幡ノ白珊瑚、伯耆ノ白珊瑚、鉄、木綿、出雲ノ人參、密柑、鉄、十六島海苔、石見ノ半紙、銀、鉄、隱岐ハ材木ノ良ナル者多シ其他生絲、蠟、漆、蜂蜜ハ所々ニ産シ海産ニハ松江ノ鮑ヲ始メトシ數多アリ

### 第五章

18 本道ハ上古ヨリ顯ハレタル地方ニシテ神代ノ事蹟ヲ傳フル者多ク又タ中世以後群雄割據シテ爭戰シタル古跡少カラス丹波ニ龜山城趾アリ因幡ニ鳥取城趾アリ伯耆ニ船上山アリ隱岐ニ中島(承久ノ亂後鳥羽帝ノ茶屋シ給ヒシ所ナリ)西島(後醍醐帝行宮ノ趾ナリ)等アリ  
 19 山陽道ト依附シ七國相列シ隱岐ノミ獨リ日本海ニ離在シ總テ地勢高峻海岸ハ悉ク斷崖ニシテ岩礁多シトス  
 20 神代ニ於テ大己貴命出雲ニ鎮シ四方ヲ服シ玉ヘリ爾後崇神天皇ノ朝道主命ヲシテ治メシメ大化改新ニ至リテ國司郡領ヲ置テ建武中興ノ時源忠顯丹波ノ國司ニ任

シ名和長年伯耆ノ國司兼守護トナリ因幡ヲ兼メ足利氏ニ至リ仁木以下ノ諸氏ヲ以テ諸國ノ守護トナスコレヨリ後尼子經久自立シ出雲伯耆隱岐石見及備中備後安藝ヲ屬食シ永祿年間義久ニ至リ毛利氏ノ爲メニ亡ホサル徳川氏ニ及ンテ藩トナシ明治維新ニ至リ總テコレヲ廢シ縣トナシ現今一府三縣二市五十四郡アリ  
 21 邊境ニアリテ交通少ナキカ故ニ概子撰野温厚ノ風アリトス丹波丹後因幡ノ如キハ固陋ニシテ但馬ハ稍淳朴ナリ出雲ハ柔靡ノ傾キアリテ隱岐ハ極メテ陋愚ナリ

附誌

丹後ニ冠島小島毛島アリ但馬ニ津居山島アリ出雲ニ大根島(周回三哩余)石見ニ高島アリ隱岐島ハ出雲ノ正北ニアリテ東經百三十三度十分ヨリ同三十八分ニ尽キ北緯三十五度五十八分ニ起リ三十六度二十一分ニ至ル四島及ヒ七十余ノ小嶼ヲ以テ成ル文化年間國司ヲ置テ治メシム現今島根縣ノ所管ニシテ警備隊區ヲ置キ實ニ日本海ノ要鎮ナリトス物産ハ材木及海産物トス

### 山陰道誌終

### 山陽道

#### 第一章

1 位置ヲ示セ  
 2 境界ヲ示セ  
 3 經緯度ヲ問フ  
 4 形勢ヲ記セ  
 5 河川ヲ問フ

1 一帶ノ山脉ヲ以テ山陰道ト境シ内海ニ臨メル地ヲ稱シテ山陽道ト云フ  
 2 東畿内(津攝)ニ接シ南ハ内海ニ瀕シ四國島九州島ト相對シ西北ノ一隅日本海ニ面セリ  
 3 東經百三十一度五分ニ起リ百三十五度十八分ニ至リ北緯三十三度四十八分ヨリ三十五度二十分ニ尽キ面積千五百七十七方里アリ  
 4 山陰道ト並行シテ西南ニ赴キ全道ノ各國皆海ニ瀕スルモ獨リ美作ノミ然ラス  
 5 加古川ハ丹波ヨリ來リ播磨ニ入り瀧野川トモ稱ス長二十八里餘海ニ注ク揖保川ハ源ヲ播磨ニ發シ瀨戶内海ニ注キ長十五里餘千種川亦タ長十五里餘ニシテ瀨戶内海ニ入レリ  
 東大川ハ源ヲ美作ニ發シテ備前ニ入り遂ニ内海ニ注ク長三十里餘西大川(旭川トモ稱ス)亦タ

#### 第二章

美作ニ發源シ備前ニ來リ内海ニ注ク長二十七里餘水勢奔激シテ溪間岩石ノ奇觀多シ  
 河邊川ハ備前ニアリテ諸流ヲ合シ内海ニ注ク備前第一ノ巨川タルヲ以テ單ニ大川トモ稱シ長二十八里餘  
 大田川ハ安藝ニアリ或ハ八木川トモ稱ス下流數派ニ分レ共ニ海ニ注ク長二十三里餘アリ  
 周防ニ岩國川(或ハ鏡川ト稱)アリ二派ニ分レ共ニ海ニ入ル長二十四里許ニシテ有名ナル錦帯橋コレニ架セラル  
 厚東川ハ長門ニアリ一ニ廣瀨川ト云フ西南ニ奔リテ海ニ注ケリ長十四里餘其他細流數十アルモ茲ニ畧ス

6 山岳ヲ問フ附屬山

6 山脉ハ總テ北境ニアリテ東西ニ横ハリ且ツ山陰道山岳ノ餘派ニ過キサルヲ以テ終キモノナシ播磨ノ北部ニ雪彦山(高三千四)アリ笠形山(全)アリ又タ西隅ニ白旗山其他諸峰アリ  
 那岐山ハ美作ノ東北境ニアリ蛭山ハ伯耆ニ跨レリ

熊山ハ備前ニアリ高千七百餘尺國中第一ノ高山タリ  
 備中ニ赤瀧山、劍山等アリ備後ノ中央部ニ御神山、高夕登、山中怪巖奇石多ク殊ニ石橋ノ如キハ其狀最モ奇ニシテ帝釋ノ神橋ト稱ス  
 本道ハ鑛物ノ種類甚タ多クソノ探出ノ多量ナルモノチ銅、鐵、石炭、礫石トス其他ハ極メテ少量ナリ  
 銅坑ハ播摩赤穂郡龜硯山、美作吉野郡宮原同ク英田、西條、久米諸郡備中川上、賀陽、小田諸郡安藝、豐岡、賀茂、沼田、高宮、周防、玖珂、長門阿武ノ各郡共ニ數所チ有セリ  
 鐵坑ハ播摩赤粟郡備中阿賀郡ニ數箇所ト備後ニ十數所アリ而シテ安藝ヲ以テ第一シ美作コレニアク一年ノ探出安藝ハ二百萬貫チ出シ美作七十萬貫チ出スト云フ  
 石炭坑ハ備前津高兒島ノ二郡周防吉敷郡及長門厚狹郡其他同郡ニ數十所アリテ長門ノミノ探掘高一年一千萬貫ニ及フ  
 蠟石坑ハ備前和氣郡野谷、播摩神東郡多可郡、備後惠蘇郡等ニアリ尙美作備後安藝ニ鐵坑播摩備中備後ニ鉛坑等アリ

7 湖沼ノ間フ

8 瀑布ノ間フ

9 温泉ノ間フ

7 湖沼ノ大ナルモノナク二里以上ノモノハ唯タ長門ノ常盤池一アルノミ他ハ一里餘ニ過キスシテ備前ノ大池周防ノ長澤池等コレナリ  
 8 大田瀑布ハ播摩神西郡ニアリ高三十丈餘澗三間許アリ  
 岩井澤ハ美作西々條郡ニアリ頗ル壯觀ニシテ高百八十丈餘幅四間神庭澤ハ高三十六丈餘幅八間許ニシテ甚タ奇觀ナリ  
 那智澤ハ備後奴可郡ニアリ高六十五丈餘幅一間アリ常青澤ハ三層チナシ上層ノ高十二丈中層二十三丈餘下層七丈餘アリテ幅總テ六間下流三次川ニ入ル  
 二河澤安藝安藝郡ニアリ二河川ヨ、ニ至リテ澤チナス雌雄二條アリ雌澤高二十四丈餘雄澤高十八丈餘南流シテ海ニ注ケリ其他甚タ多キモ此ニ畧ス  
 9 瀧湯湯谷等ハ有名ナル温泉ニシテ共ニ播摩ニアリ  
 湯原與津湯郷等ハ美作ニアリ湯郷ハコレチ探酌シ各地ニ輸送シ浴用ニ供シ大坂京都等ニテハ頗ル聲價アリ此地岡山チ距ル十五里許道路平坦且ツ又タ舟楫ノ便アリ  
 備前ニ三石泉アリ効アルチ以テ著ハル

備中ニ高末、上熊谷、等アリ備後ニ油木矢野等アリ安藝ニ湯山有留等アリ總テ世ニ著  
ハル

周防ニ湯本アリ長門ニ湯本アリ共ニ有名ニシテ浴客凡ソ四萬餘アリト云フ

10 海岸ノ  
状ヲ示セ

10 山陰道ニ反シテ出入甚タ多キモ大ナルモノニ至リテハ少シトス

11 瀕海ヲ  
開フ

11 尾道ハ備後ニアリ深三匁ヨリ十二匁ニ至ル船舶輻輳シ頗ル繁ナリ瀬津モ亦ダ碇  
泊ニ便ナル港トス而シテ瀬津ニ舊置ノ燈臺一基アリ

安藝ノ吳港ハ海軍鎮守府アリテ稍盛ンナリ

三田尻港ハ周防ニアリ船舶來集セリ

赤馬關ハ下ノ關トモ云ヒ長門ニアリテ瀬戸内海ノ口ヲ扼セリ長崎及ヒ上海ニ航行ス  
ル者必スコ、ニ寄港ス深三匁乃至十匁其ノ繁華五港ニ亞ク而シテ此海峡ノ六連島ニ

燈臺アリ水面ヨリ高キコト八丈九尺燈光白色ニシテ照射十五海里ニ達ス

尙ホ播摩ニ明石、室津、坂越、備前ニ大多府、日比、備中ニ笠岡、玉島等、諸港アリテ其

中明石、大多府、笠岡ノ三港ニ舊置ノ燈臺アリ

本道及四國九州ノ間ニアル海ヲ瀬戸ノ内海ト云フ内國ヲ以テ繞ラシ唯タ明  
石、鳴戸、速吸、早瀬ノ四海峽ニヨリ外海ニ連レリ播摩ニ近キ所ヲ播摩灘ト云フ備中備  
後ノ海ヲ水嶋灘ト稱ス周防ト豐前豐後(西海)ノ間ヲ周防灘ト稱シ風浪稍高シト雖モ  
舟行危険ナラス  
備前ニ兒嶋灣アリ

12 崎岬ヲ  
示セ

12 阿武夷岬ハ備後ニアリ

石瀨崎ハ安藝ニアリ海上ニ突出スル一町余

周防ニ赤石崎アリ長門ノ北海岸ニ高山、川尻ノ両岬アリ

13 海峡ヲ  
開フ

13 播摩ノ明石ト淡路ノ松尾崎トノ間ヲ明石海峡ト云フ大阪灣ニ通セリ

安藝ト瀬戸島トノ間ヲ隱戸ノ海峡ト云フ

周防ト大島トノ間ヲ大島海峡ト稱ス舟行危険ナル一阿波ノ鳴戸ニ亞ク

長門ト豐前トノ間ニ赤間關海峡アリ東口ヲ速瀬瀬戸ト稱シ舟行難キ所タリ

### 第三章



14 都邑ヲ  
記セ

14 姫路明石赤穂等ハ播摩ニアリ姫路ハ中國及西國ヨリ京都ニ通スル要路ニシテ繁華ナリ明石ハ其南ニ須磨浦、舞子濱ノ勝地アリ赤穂ハ山陽道ノ要路ニシテ市街頗ル盛ンナリ

津山ハ美作ノ中央津山川ニ沿ヒタル都邑ニシテ繁昌ナル所ナリ尙ホ倉敷、久世、等アリ

岡山ハ備前ノ旭川ノ西岸ニ臨ミ繁華ナル大都會トス天正年間浮田直家此ニ封セラル

福山ハ備後ニアリ市内水流貫通シ商業盛ンナリ

廣島ハ安藝ニアリ中國第一ノ都會ニシテ大阪ニアク故ニ中國ノ大阪ト稱セリ第五師團指令部ノ兵營アリ又々南方ニ當レル吳港ニハ海軍鎮守府アリ

山口ハ周防ニアリ連山四圍シ險惡ノ地ト稱セラル大内氏治チ此地ニ定メタリ

赤間關ハ長門ニアリ速瀬瀬戸ノ北岸ニ位ス下ノ關或ハ馬關ト稱シ關西第一ノ要地ニシテ船舶常ニ輻輳シ市街頗ル繁盛ナリ赤間宮アリ安徳帝ヲ祀ル

其他播摩ニ室津備前ニ豐浦西大寺備中ニ玉島、笠岡備後ニ鞆津、尾道、安藝ニ吉田、嚴

15 名勝ヲ  
記セ

15 舞子濱ハ播摩ニアリ白沙青松相連ナリテ攝津(内)須磨ニ劣ラサル勝地トス明石海峽ヲ隔テ淡路島ト相對シ須磨東ニアリ明石西ニアリ其レヨリ西ニ高砂アリ共ニ古跡ヨリ勝地ヲ以テ聞ユ高砂松或ハ相生松ト稱シ其幹左右ニ岐レ枝葉長ク地ニ垂ル杖ヲ曳クモノ頗ル多シ石ノ寶殿ハ御影石ニシテ四周ニ凹所アリ天旱スルモ水涸レスト云フ

嚴島ハ安藝ノ西南海中ニアリ一ニ宮島ト稱シ本邦三景ノ一タリ斷崖奇石崎嶇トシテ青松枝ヲ交ヘ社殿壯麗ナリ海潮滿ツル時ハ殿閣長廊漂搖シテ水上ニ浮ヘルカ如ク碧波ニ映シ勝景甚タ愛スヘシ昔時平清盛ノ建營スル所ニシテ市杵姫ヲ祭ル廊後ニ一山アリ眺望絶佳ナリ

錦帯橋ハ周防ニアリ此橋一ノ支柱ナク實ニ奇巧トス俗ニ算盤橋ト呼ヘリ

第四章

16 氣候ヲ

16 地勢山陰道ト反シ長門ヲ除クノ他ハ北方ニ山ヲ負ヒ南方海ヲ控ユルヲ以テ氣候温

○第二編 地理各論 山陽道誌

開フ 和ナリ然レトモ長門ノ北海岸ト美作ノ山間ハ頗ル寒冷ナリ  
 17 地味ヲ 開フ 17 安藝ノ全國及長門ノ東北部ノミ薄瘠ニシテ他ハ概子肥沃ニシテ海岸并ニ沿川ノ地ハ總テ平垣ナリ

18 産物ヲ 開ケル 18 播摩ノ姫路革、赤穂鹽、龍野醬油、明石縮、高砂染、美作ノ雲齋織、大三折紙、鎗物、苧粉、備前ノ伊部陶器、長船刀剣、煙草、備中ノ紙、木綿、花吳座、備後ノ蠶表、保命酒、杉原紙、鉄器、安藝ノ牡蠣、木綿、周防ノ岩國縮布、木綿半紙、蚊帳、長門ノ赤間硯、鹿子綾、藤及竹細工等最モ著名ナル産物トス

第五章

19 歴史上ノ古蹟ヲ 記セ 19 播摩ニ白旗城址アリ美作ニ院庄アリ備前ニ常山アリ長門ニ豐浦行宮址及ヒ壇浦アリ

20 總説ヲ 示セ 20 本道ハ地味氣候ノ宜シキコト及港泊ノ便宜ヨリシテ人口繁殖シ山陰道ニ倍セリ

21 沿革ヲ 開フ 21 仲哀天皇ノ朝熊襲反スルヤ行宮ヲ豐浦ニ建ツ天皇此ニ崩シ給ヘリ是レヨリ先キ國造縣主アリテ各州ヲ治ム大化改新ノ際コレヲ廢シ國司郡領ヲ置ク北條氏ニ至リ中國

探題ヲ長門ニ置ケリ建武中興ノ際赤松則村勤王ノ功ヲ以テ播摩ノ守護ニ補セラル足利尊氏ノ叛スルヤ直ニ服屬ス新田義貞コレヲ白旗城ニ圍メリ爾後應仁文明ノ亂アリテ毛利吉川等ノ諸氏各々割據シテ四近ヲ蠶食ス毛利氏兵勢日ニ強ク播摩美作備前ノ外悉ク其有トナル其後徳川氏ニ至リ防長ノ二洲ヲ毛利氏ニ與ヘ其他功臣ヲ封セリ畿多ノ沿革ヲ經テ明治維新ニ及ヒ藩トナシ己ニシテ縣ト改メ現今四縣四市三區八十一郡アリ

22 播摩備中ハ其風俗悉敏ニシテ前者ハ柔惰ニ流レ後者ハ新奇ヲ好メリ美作長門ハ璞陋ニノ備後周防ハ質直頑狹ヲ免レス備前ハ浮薄ニノ修飾ヲ喜ヒ安藝ハ優柔ノ風アリ

附誌

- 播摩ニ家島(周回四里余)西島(周回五里余)男鹿島、坊勢島共ニ二里余
- 備前ニ鹿之居島(周回七里)長島(周回四里)鴻島、石島、前島共ニ二里余
- 備中ニ北木島(周回五里余)神島(周回四里)白石、島真鍋島共ニ二里余
- 備後ニ因嶋(周回十里)向嶋(周回七里)田嶋(周回四里)菟嶋、走嶋、横嶋、百嶋、岩子島共ニ二里余

○第三編 地理各論△山陽道誌

安藝ニ大崎上嶋(周回十)大崎下嶋(周回五)倉橋嶋(周回二)能美島(周回十)生口嶋(周回六)江田島(周回八)嚴島(周回七)佐木島、生野島、黒神嶋共ニ三里余  
 周防ニ大島或ハ屋代島(周回三)上ノ關島(周回九)笠戸嶋(周回九)平郡島(周回七)大津島(周回七)島ハ周回四里余ニシテ向島、祝島等ニ里余アリ  
 長門ニ青海島(周回九)見島(周回四)角島(周回三)蓋井島(周回二)相島二里余  
 以上記セシハ千人以上ノ住民アル者ノミ其他甚タ多キモ茲ニ畧ス

山陽道誌終

北海道誌

第一章

1 位置ヲ示セ  
 2 境界ヲ示セ  
 3 經緯度ヲ開フ  
 4 形勢ヲ記セ

1 本洲ノ西南隅ニアリテ紀伊及ヒ四國島淡路島其ノ他ノ群島ヨリ成ルモノハ南海邊ト稱ス  
 2 紀伊ハ畿内ノ南海上ニ斗出スル地ニシテ東南ハ海ニ面シ西ハ海ヲ隔テ四國島ニ對シ西北ハ海峽ヲ以テ淡路島ニ接シ東北ノ部東海道(伊)ニ界セリ  
 四國島ハ東南大洋洋ニ瀕シ且ツ海ヲ隔テ東海道ニ對シ西北内海ヲ以テ山陽道ニ對セリ  
 3 東經百三十二度二十三分ヨリ百三十六度三十八分ニ至リ北緯三十二度四十二分五十秒ヨリ三十四度二十四分ニ尽キ面積千一百八十方里(紀伊淡路ヲ除ク)アリ  
 紀伊ハ東西八里乃至二十七里南北七里乃至三十里アリ  
 4 紀伊ノ南部ハ高山極メテ多ク又々四國島ノ山脈ハ東北ヨリ西南ニ亘リ地勢ヲ南北ニ區分ス土佐ノ北部ハ山谷林叢特ニ甚タシトス

第二章

5 河川ヲ  
ホセ

5 紀ノ川ハ源ヲ大和ニ發シ吉野川ト稱シ紀伊ニ入り諸川ヲ合シ漸ク巨流トナリ海ニ注ク長三十五里余

日高川ハ紀伊ノ東境ニ發源シ海ニ入ル長三十二里許アリ

熊野川ハ河内金剛山ニ源ヲ發シ十津川ト稱シ紀伊ノ南隅ニ來リ諸流ヲ合シ漸ク巨流トナリ熊野浦ニ注ク長三十五里余在田川ハ長二十七里許アリ以上總テ運輸ノ便多シトス

那賀川ハ三水源ヲ有ス悉ク阿波ノ山間ニ發シ紀伊海ニ注ク長二十八里余アリ吉野川ハ土佐ノ山谷ヨリ發シ東流シテ阿波ヲ貫キ海ニ注ク長六十里余本道第一ノ大河トス

肱川ハ伊豫ニアリ海ニ入ル長十里許

四萬十川ハ渡川トモ稱シ源ヲ土佐ニ發シ海ニ入ル長二十五里余アリ伊豫ノ山間ヨリ發源シ東南ニ流レテ土佐ニ入ルヲ仁渡川ト云フ諸流ヲ合シ土佐灣ニ注ク長二十六里

余物部川ハ源ヲ土佐ノ東境ニ發シ土佐灣ニ入り長二十五里アリ

6 山岳ヲ  
開フ  
嶺及  
嶺山

6 大塔山ハ鬼山那智山ハ紀伊ニアリ高野山(高二千六百餘尺)山上ニ有名ノ巨剎アリ金剛峯寺ト云フ其東ニ當リ龍門山アリ紀州富士ノ稱アリ

雲邊寺山ハ阿波ニアリ讚岐伊豫ニ跨リ其脈土佐ノ境界ニ沿ヒ中央ノ大嶺ニ連レリ又

八栗山ハ讚岐ノ瀨北海岸ニ峙ツ一名ヲ五劍山ト云フコレ山頂岩石ノ狀五劍ヲ植ヘタルカ如キヲ以テナリ現今其一ヲ滅セリ其脈西北ニ延キ屋島ノ山嶺トナル象頭山ハ山腹ニ琴平神社アリ著名ノ大社ニシテ來詣者多シ

石槌山(俗名鉄石)ハ伊豫ノ東北郡ニ屹峙ス土佐ニ跨レリ高六千四百七十二尺ニシテ四國

第一ノ高山トス四五月ノ交ニ至ルモ尙ホ白雪ヲ冠セリ瓶森山ト東西相對峙ス

銅坑ハ紀伊伊都郡、阿波名東郡、那賀郡、土佐幡多郡、土佐郡、安藝郡及ヒ伊豫ノ別子

銅山トス伊豫及土佐ハ其產出最モ多シ

石炭坑ハ紀伊東牟婁郡、阿波勝浦郡及讚岐小豆島トス

わんちもに坑ハ伊豫浮穴郡、新居郡、土佐幡多郡ニ三箇所アリ尙ホ燧石温石坑伊豫

ニ陶土坑淡路ニアリ本道ハ礦物ノ種類甚タ少シトス

7 湖沼ヲ示セ

7 本道ニ湖沼ノ著大ナルモノナク讃岐ニ北條池(周圍三里八丁)アリ其他ハ一里余ノ周圍ニシテ阿波ニ海老池アリ讃岐ニ神内池、松尾池、三谷池、城池、一谷池、岩瀬池等アリ伊豫ニ鹿子池アリ其外尙ホ讃岐ニ三四アリ

8 瀑布ヲ懸ケヨ

8 那智瀑ハ紀伊那智山ニカ、リ激奔壯絶本邦瀑布中第一ノ壯觀タリ高八十四丈濶十八間余又タ百間瀑アリ高六十丈余下流ハ熊野川トナレリ高瀑ハ伊豫千足山ニアリ高百三十丈幅五十間實ニ壯觀タリ

9 温泉ヲ記セ

9 湯ノ峯鑛泉ハ紀伊ニアリ傳ヘ云フ崇神帝ノ朝發見サルト天皇屢此地ニ行幸サル浴場廣壯ニシテ且ツ清潔ナリ就テ浴スルモノ一萬三千余アリ道後温泉ハ伊豫ニアリ十八町許隔タリタル温泉岳ヨリ陰覓チ以テ引ク昔時天皇皇子ノ行幸アリシヲ展々ナリ浴舎清潔浴客七十萬余アリト云

10 海岸ノ狀如何

10 紀伊ノ海岸ハ屈曲出入甚タシキモ悉ク細小ナリ而シテ四國島ノ南北ニハ甚大ナル凹處アリ

11 港灣ヲ記セ

11 大島港ハ紀伊ニアリテ深五匁余南海第一ノ良港ニシテ船舶必ス寄港ス又タ田邊、加太、由良、有田等モ良港トス

撫養港ハ阿波ニアリ深四匁餘アリ津田大島等ノ諸港アリ

丸龜港ハ讃岐ニアリ深二匁許コノ西南一里餘ノ所ニ多度津アリ深二匁餘共ニ大阪赤間關間往復船ノ碇泊スル所ニシテ頗ル繁昌セリ其他高松港、志度浦港等アリ

宇和島港ハ伊豫ニアリ深二匁許風浪穩ニシテ碇泊ニ便ナリ又タ三津、今治等モ繁盛ノ港トス

土佐ニ浦戸港アリ深四匁餘アリ須崎港ハ深十三匁アリ尙ホ下田、清水等ノ諸港アリテ浦戸ノ龍崎崎ニ舊置ノ燈臺アリ

伊豫ノ西北面ニ周防灘ト相對シ内海ノ西口ニアル者ヲ硫黃灘ト云フ

紀伊ノ東南海ニシテ西ハ鳴門海峡ニ連リ東ハ伊勢海ニ接スルモノヲ熊野浦ト云フ

土佐ノ南ニ當リ蹉跎室戸ノ兩岬相對シテ一大灣ヲ抱ク土佐灣コレナリ此灣昔時ハ陸地ナリシモ大ニ地震シ爲ノニ陥リテ海トナルト其水深カラス

12 崎岬ヲ  
記セ

12 比井岬ハ紀伊ニアリテ紀伊海ニ斗出スルコト三十餘町又々南端ニ潮岬アリ其東ノ海上ハ則チ熊野浦ナリ而シテ友島、潮岬、櫻野浦等ニ燈臺アリ友島ノ燈臺ハ高サ二十丈八尺燈光白色ニシテ照射十七海里ニ達シ潮岬ノ燈臺ハ十六丈三尺燈光白色ニシテ照射十七海里半ニ達シ櫻野浦ノ燈臺ハ高サ十三丈燈光白色ニシテ照射十七海里半ニ達ス

蒲生田岬ハ阿波ニアリ近傍岩礁多シ

三崎ハ讃岐ニアリ海上ニ斗出スルコト二里半餘伊豫ノ大島ト遙ニ相ツル

佐田岬ハ伊豫ノ西端ニ突出スルコト十五里餘遙ニ豊後ノ地蔵崎ト相對ス

土佐東南隅ニ室戸岬アリ西南端ニ蹉跎岬アリ相對シテ一大灣ヲナス共ニ航法者ノ注意シテ危険ナル場所トス

13 海峡ヲ  
問フ

13 紀伊ノ友島ト淡路ノ東南ノ間ニ苦ヶ島海峡アリ由良海峡トモ稱セリ而シテ淡路ノ北岬江崎ニ燈臺ノ設置アリ高サ十五丈八尺燈光白色ニシテ照射十八海里半ニ達ス阿波ノ東北端ト淡路門崎トノ間チ鳴門海峡ト云フ大鳴門小鳴門ノ稱アリテ海流相通

14 都邑ヲ  
問フ

リテ二個ノ渦ヲナス舟行甚タ難クシテ潮候ヲ察セサレハ容易ニ航通スルコト能ハス本邦第一ノ航海危険ナル所トス

### 第三章

14 和歌山ハ紀伊ニアリ北紀川ヲ帶ヒ南和歌浦ニ接シ商業隆盛繁華ナルコト本道第一ナリ新宮モ亦タ繁盛ノ都會ニシテ熊野川ノ岸ニアリ

徳島ハ阿波吉野川ノ南岸ニアリテ商船來集シ通商甚タ盛ンニシテ四國島第一ノ都會トス撫養港ハ東北五里餘ノ所ニアリテ市街稍盛ンナリ

高松ハ讃岐ニアリ高松港ハ中國間チ航スル船舶ハ概チ寄港スルカ故ニ市街頗ル殷昌ナリ西ニ當リ白峯アリ崇徳天皇ヲ祀ル丸龜ハ又其西ニアリテ象頭山其南ニ峙チ旅客常ニ多ク爲メニ市街ノ繁榮ヲ助ケ

松山ハ伊豫ニアリ市街繁榮ニシテ第五師管第十旅團ノ大隊營アリテ三津濱チ距ル一里十七町許慶長年間加藤嘉明此ニ治ス近傍ニ道後温泉アリ今治ハ北部ニアリ宇和島南部ニアリ共ニ繁昌ノ市街ナリ

高知ハ土佐ノ南部ニアリ海ニ接近シ形勢好ク浦戸港アリ運輸便利ニシテ物貨多ク藝  
リ商業頗ル盛ンニシテ市街甚々繁榮ナリトス

其他紀伊ニ湯淺、田邊、淡路ニ由良、阿波ニ池田、富岡、伊豫ニ三津、土佐ニ中津等ノ名  
邑アリ

15 名勝ヲ  
記セ

15 和歌浦ハ一ニ明光浦ト云ヒ紀伊ニアリ風致閑雅ニシテ聖武帝曾テ之ニ行幸シ明光  
浦ノ名ヲ賜ヘリトカ本邦三景ニ亞クヘキモノナリ

金剛峰寺ハ紀伊高野山ニ在リ僧空海ノ始メテ真言宗ヲ唱ヘタル所トス其他紀三井寺  
粉河寺及ヒ日高ノ道成寺等ハ古來有名ノ巨刹トス

### 第四章

16 氣候ヲ  
問フ

16 山陽道ニ比スレハ一層温暖ニシテ夏時ノ熱度ハ大差ナシト云フ然レトモ山間ノ地  
ハ寒烈ナリ紀伊土佐ハ草木ノ萌芽最モ速ナリトカ

17 地味ヲ  
問フ

17 紀伊ノ東北端ヲ除キ總テ低地ハ概テ肥沃ナリ

18 産物ヲ  
問フ

18 紀伊ノ密柑、高野紙、材木、雲齋織、淡路ノ綿布、漆器、伊賀野燐、阿波ノ藍玉、讃岐ノ

記セ

19 歴史上  
ノ古蹟ヲ  
問フ

砂糖、保多織、食鹽、伊豫ノ銅、松山簡、土佐ノ半紙、珊瑚ハ有名ナルモノニシテ本道ノ  
製糖ノ産出ハ本邦第一ニ位ス  
全道海國ナルヲ以テ海産物甚々多ク就中紀伊熊野浦土佐沖ノ鯨及ヒ土佐ノ鯨節等ノ  
ノ主タリ

### 第五章

20 綱統ヲ  
記セ

19 淡路ニ淡路廢帝則チ淳仁天皇遷行宮跡アリ阿波ニ土御門天皇ノ遷幸跡アリ讃岐ノ  
北海濱ニ屋島ノ古戰場アリ福原ノ舊皇居今マ何ノ邊ニアルヲ知ラス

21 沿革ヲ  
問フ

20 六國斷續シテ一道ヲナシ紀伊ノ山脉延テ海中ニ入り淡路島トナリ再ヒ起テ四國ノ  
中央ヲ連亘ス紀伊ノ南部大和ニ接スルノ地ハ今尙ホ人跡ノ通セサル地アリト云フ  
21 本道ハ上古四國ニシテ文武天皇ノ朝紀伊以下六國ヲ隸ス天慶年間藤原純友叛シテ  
都邑ヲ掠奪シ尋テ誅セラル保元ノ亂崇徳天皇ヲ讃岐ニ遷ス平氏ノ末路ニ至リ安徳天  
皇ヲ奉シテ屋島ニ行宮ヲ營セリ承久ノ亂土御門天皇ヲ土佐ニ遷シ尋テ阿波ニ遷セリ  
天正年間長曾我部元親土佐ニアリ勢漸ク熾ンナリ自テ四國ノ主ト稱スルニ至ル豊臣

秀吉來リ征シ其侵地ヲ奪ヒ小早川、加藤、蜂須賀、福島等ノ諸氏ヲ分封ス徳川氏ニ至リ又タ變更シ明治維新ニ及ンテ藩トナリコレヲ廢シ縣ヲ置ク現今四縣四市八十三郡アリ

22 風俗ヲ問フ

22 本道ハ風俗一樣ナラス紀伊淡路ハ樸直ニシテ阿波讃岐ハ寛裕ニシテ温順ナリ伊豫ハ淳直ナルモ固陋ノ弊ナキニアラス土佐ハ樸強ニシテ頑固ナリ

附誌

23 附誌島嶼ヲ問フ

紀伊ニ苦ヶ島アリ或ハ友島トモ云フコレ地島、沖島ノ總稱ニシテ島中岩石ノ奇勝多ク苦ヶ島海峽コレカタメ三分セラル沖島ト淡路嶋トノ間チ大船巨舶皆ナ通過セリ潮岬ノ東ニ大島アリ周回四里余トス  
阿波ニ島田(周回三里二)大毛山(周回五)高嶋、伊島、大島等アリ總テ周回二里許  
讃岐ニ小豆島アリ播磨灘ノ西部ニ位シ周回三十里二十三町余ニシテ草加部灣アリ碓泊ニ便ナリ其他廣島(周回四里二)豐島、直島等四里許ニシテ其他甚タ多シ  
伊豫ニ興居島アリ島峰兀立恰モ富士ニ似タルヲ以テ伊豫小富士ト稱セリ周回六里余

トス尙ホ弓削島(周回五)等ノ如キ大島多キモ略ス

淡路國ハ四國島ノ東北ニ位セル一嶋國ニシテ周回三十八里二十余町先山屹立シ其餘派松尾崎トナリ又タ東南ニ走ルモノヲ生石崎トス又タ西南ニ門崎アリ紀伊友島トノ間チ由良海峽ト云フ地勢平坦ニシテ地味肥沃且ツ氣候温和ナリトス由良、福良ノ兩港アリ共ニ碓泊ニ適シ洲本ニ稍繁盛ノ名邑ナリ兵庫縣ノ所轄ニ歸ス

南海道誌終



### 西海道誌

#### 第一章

1 位置ヲ  
記セ

1 本洲及ヒ四國島ノ西南ニアリテ九州島及是ニ附屬スル諸島ト壹岐、對馬、琉球ノ三島國ヨリ成立ス對馬ノ如キハ朝鮮ト相距ル數十里ニ過キス

2 境界ヲ  
記セ

2 東南ハ太平洋ニ面シ西北ノ一部日本海ニ瀕シ東北ハ海峽ヲ隔テ山陰、山陽、南海ノ三道ト相對セリ

3 經緯度  
ヲ問フ

3 東經百二十九度四十六分ヨリ百三十二度十八分ニ至リ北緯三十一度一分余ニ起リ三十三度五十八分二十五秒ニ至ル面積二千六百七十七方里アリ (但シ壹岐、對馬、琉球三島國ハ除ク)

4 形勢ヲ  
問フ

4 本道ハ南北ニ長クシテ東西ニ短カシ而シテ筑後川以北ノ山脉ハ東西ニ連ナリ以南ノ山脉ハ南北ニ亘リ餘派海ニ延テ琉球諸嶋ニ及フ筑後川下流ノ近傍及肥後ノ西北部ハ一般ニ低地ナルヲ以テ洪水ノ害甚ダシ

#### 第二章

5 河川ヲ  
悉ク

5 筑後川ハ筑紫二郎ト稱シ或ハ千年川トモ云ヒ豐後及肥後ノ二水源アリ數多ノ細流ヲ合シ筑後ノ北境ヲ流レ漸ク巨流トナリ筑紫海ニ入ル長三十五里余本道第一ノ大河トス

大野川ハ源ヲ豐後ニ發シ東北ニ流レテ海ニ入ル長三十四里余日田川ハ西流シテ筑後川ノ上流ヲナセリ

白川ハ源ヲ肥後河蘇山近傍ヨリ發シ水源ニアリ線川ハ河蘇山脉ノ東南ニ發シ長二十一里余球摩川ハ著名ノ急流ニシテ下流十五六里ハ舟筏ヲ通スヘシ三川共ニ海ニ注ク美々津(耳川)五箇瀬、一瀬、大淀(江川)ノ四川ハ日向ニアリ皆三十里ニ近キ長流ニシテ舟楫漕漑ノ便アリ

川内川ハ源ヲ日向ニ發シ大隅薩摩ヲ貫流シテ海ニ入ル四十六里余ノ長流トス

其他筑前ニ遠賀川アリ海ニ入ル長十三里余漕漑ノ利アリ豐後ニ大分川アリ長十三里余肥後ニ栗池川(高瀬川)アリ長十九里許其他畧ス

6 山岳ヲ

6 寶滿山(高二千)筑前ノ稍中央部ニ聳ヘ其山脉肥前ト國境ヲ分テリ

間ノ噴火山

英彦山(高三千三)ハ或ハ彦山ト稱シ豊前ノ西南境ニ屹立セリ黒岳(七千六百)ハ豊後ノ西南境ニ峙チ其西ニ大船山(七千二百)アリ扇鼻山(高四千六百)肥後ニ跨レリ祖母嶽(高五千八百)南境ニ聳ヘ日向ニ跨ル

涌蓋山(高四千八百)肥後ノ東北隅ニ立チ豊後九重山ニ連接ス

法華岳(高三千六百)ハ日向ノ中央部ニアリ又夕國ノ南方ニ小松山(高四千)アリ

紫尾山(高四千八百)ハ薩摩ノ北部ニアリ

其他筑後ニ御前嶽、高良山等アリ

鶴見山(高六千)ハ豊後ニアリ貞觀九年噴火ス

温泉岳(高四千九)ハ肥前島原半島ノ中央ニ峙チ寛政二年噴火シ焦土海ヲ没シ數十ノ小嶼ヲ生セリ今マ熄ム

阿蘇山(高六千二百)ハ肥後ノ東北部ニ聳ヘ貞觀九年噴火シ今尙ホ噴烟シ十二餘ノ温泉アリ

霧嶋山(高五千三百)ハ日向ノ西南ニ在リテ永録年間噴火ス

櫻嶋岳(高三千餘)ハ大隅櫻嶋ニアリ應仁ノ年始メテ噴火シ山上沼池アリトス  
開間山(高三千餘)ハ薩摩ノ南部ニアリ貞觀三年始メテ噴火シ今ハ熄メリ  
筑後三池肥前高島ノ兩石炭坑ハ甚タ有名ナルモノトス且ツ豊前ニモ亦タ田川炭坑アリ

金坑ハ豊後、日向、大隅、薩摩ニアリ  
銅坑ハ筑前、豊前、豊後、肥後、日向ニアリ  
硫黃坑ハ肥前、肥後、大隅、薩摩ニアリ  
大理石坑ハ薩摩ニ在リ

陶土坑ハ肥前、肥後、豊前ニ在リ

7 湖沼ヲ示セ

7 湖沼ノ大ナルモノ一ツモナク筑前ニ鴨生田池(周回三)薩摩ニ池田湖(周回五)アリ其他ハ一里餘ニシテ筑前ニ大牟田池、大池等アリ豊前ニ小倉池アリ肥後ニ立岡池、日向ニ御池等大隅ニ大浪池(周回二)等アリ  
8 千丈瀑ハ筑前嘉摩郡ニアリ高六十丈幅三間餘ニシテ頗ル奇觀トス

8 瀑布ヲ示セ

○第三編 地理各論△西海道誌

示セ

椎谷瀑ハ豊前宇佐郡ニアリ一チ西椎谷瀑ト稱シ一チ東椎谷瀑ト云ヒ共ニ高十餘丈幅  
五間許ニシテ壯觀ナリ

清水瀑ハ肥前小城郡ニ在リ高三十五丈餘幅七間許アリ

白水瀑ハ肥後球摩郡ニアリ又タ松水瀑ハ代郡ニアリ共ニ下流球摩川ニ入ル白水ハ高  
四十餘丈幅七間アリ

松森瀑ハ薩摩川邊郡ニアリテ高十八丈甚タ奇觀ナリ

9 温泉ヲ

9 武藏温泉ハ筑前ニアリ天拜山麓ニ位ス天武天皇ノ朝發見セリト云フ尙ホ吉井、  
原等諸泉アリ

示セ

船古屋冷泉ハ筑後ニアリ近頃鐵道ノ便アリテ浴客多シトス

柄崎礦泉ハ肥前ニアリ神功皇后ノ朝發見セリト其他小濱温泉岳等共ニ浴客多シ

山鹿礦泉ハ肥後ニアリ熊本ヲ距ル僅ニ七里餘ニシテ車馬ヲ通シ得ヘク浴客甚タ多シ

別府、潞洲共ニ豊後ニアリテ浴客多シ

硫黃谷、湯ノ尾、福山、宮ノ下等ノ諸泉共ニ大隅ニアリ共ニ往復便利ニシテ浴客多シ

10 海岸ノ

狀ヲ記セ

11 濠洲ヲ

問フ

薩摩ニ湯ノ浦、金花等アリ其他甚タ多キモ略ス

10 九州島西部海岸ハ屈曲多クシテ良港少カラス

11 博多港ハ筑前ニアリ深四一儼船舶輻輳セリ若松港亦繁華ナリ而シテ博多ノ洲崎ニ舊  
置ノ燈臺アリ

若津港ハ筑後ニアリ深一儼乃至二儼許アリ

長崎港ハ肥前ニアリ深五儼乃至十六儼小島嶼港口ヲ擁ス五港ノ一ニシテ外國ニ通商  
貿易セシハコノ港ヲ以テ始メトス島原港ハ深二乃至九儼碇泊ニ便ナリ佐世保港ハ海

軍鎮守府アリ唐津港ハ深五儼乃至八儼アリ而シテ長崎ノ港口伊王島ニ燈臺アリ高サ

二十丈五尺燈光白色ニシテ照射二十一海里ニ達ス

鹿兒島港ハ薩摩ニアリ深十三儼乃至二十儼碇泊甚タ便ニシテ良港タリ山川港亦タ繁

ンナリ

12 速瀬崎アリ一ニ門司崎ト云ヒ豊前北隅ニ突出ス其東ニ筋崎アリ仰上ニ燈臺アリ高

サ十二丈二尺燈光白色ニシテ照射十七海里ニ達ス

13 崎形ヲ

記セ

○第三編 地理各論△西海道誌

地藏崎ハ豊後ニアリ或ハ關崎トモ稱ス伊豫佐田岬ト遙ニ相對シ舟行危險ナリ  
都井岬ハ日向ニアリ突出スルヲ三十余町

鐘岬ハ筑前ニアリテ玄海灘ト響灘トチ分ツ其西南ニ當リ志賀ノ砂嘴アリ細ク海上ニ  
斗出スル三里許青松其上ニ生シ白沙ト相映シ風光絶佳ナリ

佐多岬ハ大隅ニアリ燈臺ヲ設ケリ其高サ廿丈燈光白色ニシテ照射廿一海里ニ達ス  
13 豊前ノ部崎ト長門赤間關トノ間ニ速瀬海峽アリ其ノ西北ナル響灘ニ次テ玄界灘ア

13 海峽ヲ  
記セ

肥前ノ野母崎ト肥後天草トノ間ハ天草灘ニシテ其東ニ早瀬海峽アリコノ海峽ノ内海  
ヲ筑紫海ト稱ス

豊後ノ地藏岬ト伊豫佐田岬ノ間ヲ速吸海峽ト稱シ舟行危險ノ所トス  
薩摩大隅ノ兩國間ニ鹿兒島灣アリ

第三章

14 都邑ヲ

14 福岡博多ハ共ニ筑前ニアリ一橋ヲ以テ市街相分テリ博多市街ハ東箱崎ニ至リ西福

都ケ

岡ニ接シ屈指ノ都邑ニシテ兩市共ニ公園ヲ設ケリ  
久留米ハ筑後ニアリ筑後川ノ南岸ニ位スマタ柳河ハ市中水流貫通シ共ニ繁榮ノ市街  
トス

長崎ハ肥前ニアリ丘陵環繞シテ一長灣ヲナシ灣内水深ク波穏カニシテ碇泊ニ便アリ  
寛永十八年ヨリ以來支那和蘭等ト交通貿易シ通商場ト定メラレ安政六年ニ至リ横濱  
箱館等ト共ニ海外諸國トノ互市場トナル外國人居留地アリテ市街頗ル繁榮セリ佐賀  
モ亦タコレニ亞テ繁ナリ

熊本ハ肥後ニアリ彼ノ有名ナル加藤清正ノ築キシ城ハ今マ第六師團ノ本營アリ西南  
ノ役官軍固守シテ遂ニ賊徒ノ銳鋒ヲ挫ケリ市街頗ル繁華ナリ  
豊前ニ中津、小倉アリ共ニ昌ナリトス

豊後ニ大分、臼杵アリ日向ニ宮崎アリ共ニ繁榮ノ市街ナリ  
鹿兒島ハ薩摩ニアリ内海中ノ一灣ニ臨ミ船舶ノ碇繁ニ便ニシテ市街繁華ナリ前面ニ  
櫻嶋アリ風景絶佳ナリ

○第三編 地理各論△西海道誌

15 名勝ヲ  
記セ

15 筑後發心山ハ櫻花ヲ以テ名アリ  
豊前ニ耶馬溪アリ兩崖奇石重疊シ實ニ奇絶ナリ  
筑前大宰府神社ハ社殿壯麗ニシテ眺望絶佳ナリ箱崎香椎ノ神社ハ海邊ニ臨ミ風景甚  
タ佳シ

### 第四章

16 氣候ヲ  
問フ

16 氣候概子四國嶋ニ相同シキモ南北ハ稍々暖氣ヲ加フ

17 地味ヲ  
問フ

17 對馬ハ海瘠ニシテ豊後、大隅、薩摩ハ肥瘠相交リ其他ハ肥沃ナリ就中肥前、佐賀近  
傍肥後ノ西北部ハ最モ肥沃トス

18 産物ヲ  
記セ

18 石炭ノ産額甚タ多ク又々豊後、肥前、肥後ハ牛馬ノ多數ヲ産ス其他肥前伊萬里燒、  
兩筑、肥前及薩摩ノ蠟、肥後ノ米穀、薩摩、大隅ノ煙草、筑前博多織、霧島酒、  
小倉織、生臘、百合粉、硯石、筑後ノ久留米餅、傘等ハ頗ル有名ナリ

### 第五章

19 歴史上  
問フ

19 筑前ニ大宰府、朝倉行宮趾、肥前ノ原城、肥後熊本城、豊前ノ宇佐神宮等アリ

ノ古跡ヲ  
問フ

肥後五家ハ壽永ノ亂ニ平家ノ殘黨潜伏セシ所ニシテ村民ハソノ子孫ナリト云フ  
日向ニ高千穂及ヒ三田井近傍ニハ天ノ岩戸、高天原、天ノ浮橋ナド傳稱スル古跡アル  
トカヤ

20 總説ヲ  
示セ

20 本道ハ四圍海ヲ以テ繞ラシ山脈ハ山陰、山陽、兩道及朝鮮等ヨリ來リ河系ハ四境連  
山ヨリ發源シ悉ク四圍ノ海ニ入レリ豊後、肥後、日向ノ北半ハ山岳連綿トシ重疊シ今  
尙ホ人跡ノ到ラサル所アリ全道概子險隘ノ地ナルモ河川縱横シ運輸交通ノ益甚タシ

21 沿革ヲ  
問フ

21 天孫降臨ノ土地ニシテ第一ニ皇化ニ浴セリ全島ヲ筑紫州ト稱シ筑紫、豊、火、熊襲、ノ  
四國ニ分ツ景行天皇ノ朝熊襲反ス天皇親征シ首魁ヲ誅ス推古天皇ノ御宇大宰府ヲ筑  
前ニ置キ諸國ニ統轄セシム齋明天皇西巡シテ朝倉ヲ行宮トナシ帥ヲ出シ百濟ヲ救ヘ  
リ其後聖武天皇ノ朝大宰府ヲ廢シ鎮西府ヲ置クコレヨリ本道ヲ稱シテ鎮西トモ云ヘ  
リ弘安年間蒙古入寇シ颯風ノタメ虜艦悉ク覆没ス我兵乘シテコレヲ鏖殺ス北條氏ノ  
時筑紫探題ト改メ鎮西府ヲ廢シ博多前ニ居ラシム足利尊氏ノ反スルヤ本道ノ諸州悉  
ク之ニ應ス獨リ肥後ノ菊池武光勤王ノ兵ヲ擧ケ懷良親王ヲ奉シ筑後高良山ニ據ル勢

22 風俗ヲ  
記セ

23 附誌  
島嶼ヲ記  
セ

ヒ甚ク熾ナリシモ後子遂ニ支ヘル能ハス肥後ニ歸ル天正年間島津義久殆ント本道ヲ  
征服ス豊臣秀吉大舉來リ打ツ義久降ル由テ秀吉家臣ヲ分封ス後幾多變更アリテ明治  
維新藩ヲ置ク後廢シ縣トナス現今七縣六市百十三郡アリ

22 筑前肥前ハ輕薄巧智ノ風アリ筑後ハ質直温厚ニシテ豊前豊後大隅ハ陋樸ナリ肥後  
日向薩摩ハ撲直ニシテ勇悍義ニ富メリ

附 誌 附壹岐、對馬、琉球、諸島

筑前ニハ多クノ島嶼アリ大ナルモノヲ殘島志賀島トス共ニ周回二里余アリ

筑後ニ筑後川河口ニ大野島アリ周回三里二十町余

肥前ニ平戸島(周回四十  
三里余)アリ弘安役(元寇)大舉シテ來ル我兵力戰大ニ破ル平戸名邑アリ

生月、廣島、大島等屬島アリ又々(オホホリウツク)中通、宇久、奈留、久賀、福江ノ五島アリ此等諸島ノ間

鯨蠟盛ニシテ鯨及鰯ハソノ産物タリ島原半島ハ中央ニ温泉岳アリ常ニ煙ヲ噴キ火

抗温泉多ク東麓ニ原城ノ古趾アリ

肥後ニ天草、上島、天草下島アリ

豊後ニ姫島アリ周防灘ト硫黃灘ノ間ヲ限レリ

大隅ニハ鹿兒島灣ノ中央部ニ櫻島アリ南海ニ種子、屋久、ノ二大島アリ種子島ハ地形

狭キモ十四里余ノ長サアリ屋久島ハ圓形ニシテ八重岳高ク中央ニ聳ユ

壹岐島ハ肥前ノ西北ニアリ周回三十五里ニシテ港灣多ク主ナル者ヲ郷野浦ト云ヒ全

島山多ク平地少ナク都邑ヲ勝本ト云ヒ稍繁華ナリ湯川温泉アリ鯨、海膽、大豆、木綿、

竹器、鉄器等ヲ重モナル産物トス

對馬ハ上下二島ニ分レ南チ上島北チ下島ト云フ二島間ヲ大船越海峽ト稱ス全島山多

ク土地薄瘠耕耘ニ適セス沿海ハ岬灣相列シ淺茅浦アリ河川ニハ佐護川アリ嚴原チ都

邑トス稍昌ンナリ鯨、乾鮑、鹿角菜、煙草等ノ産物アリ穀物ハ内地ニ仰ケリ

琉球ハ大隅群島ノ西南海上ニアリテ五十五ノ島數アリ其中主ナル者ヲ沖繩島(周回七

宮古、石垣、入表ノ諸島トス沖繩島チ本島トシ附近ノ群嶼是ニ屬ス石垣、入表及附近ノ

島嶼チ八重山島ト稱シ石垣島ソノ本島タリ八重山及宮古其他附近ノ諸島ハ總稱シテ

先島ト云フ諸島岩石多ク平地少ナシ海中ハ暗礁相連リ潮流急激ナリ

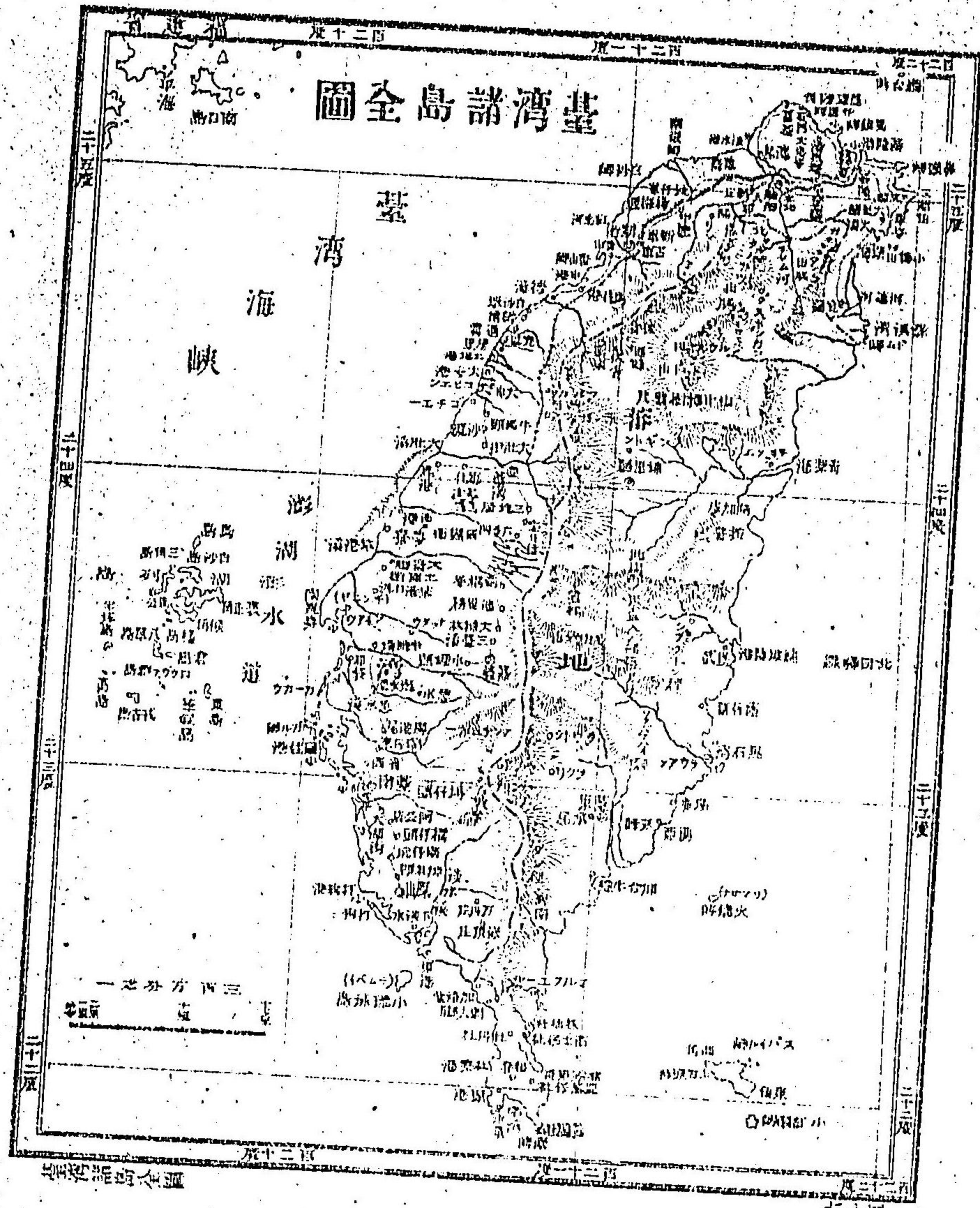
沖繩島ノ海岸ハ屈曲シテ港灣多ク那覇、運天ノ兩港有名ナリ

那覇ハ東京ヲ距ル五百七十四里ナリ首里ハ那覇ヲ距ル東一里許ニシテ琉球舊城ノアル所ナリ今縣廳コ、ニアリ市街清潔官殿官署壯麗ナリ氣候ハ炎熱ニシテ冬時降雪ナク四時綠葉凋マズ芭蕉、蘇鉄、櫻欄等ノ熱帶地方植物繁茂シ米麥等産セサルニアヲサルモ甘藷ヲ以テ常食トシ或ハ蘇鉄ノ果ヲ食セリ産物ハ芭蕉布、泡盛酒、朱塗等ノ製造品アリ海ヨリハ珊瑚、鯨ヲ産ス風俗ハ窄袖ノ長衣ヲ着シ髮ヲ結ビ簪ヲ挿ミ家屋ハ海風激烈ナルヲ以テ構造甚タ低ク石垣ヲ繞ラシ農民ハ男女共ニ能ク業ヲ勉ムルモ士族

商人ハ男ハ逸遊シ婦女ハ紡績賣買等ノ職ヲ勉メルノ風アリトカ

琉球ハ一王國ヲナシ古來ヨリ我邦ニ内附セリ中頃日支兩屬ノ体ナリシカ應長年間薩摩ノ島津氏全島ヲ略取セシモ唯タ大島ノミヲ收メテ其他ヲ還附ス然ルニ明治五年ニ至リ全ク我邦ニ附屬スルヲ以テ其王ヲ華族ニ列シ國ヲ西海道ノ一洲トナシ縣ヲ置キ國ヲ治ム始メ琉球藩ト稱シ次テ沖繩縣ト改ム

### 西海道誌終



圖全島諸灣基

基  
灣  
海  
峽

一 寸 分 方 四 三  
等 量 毫



◎ 增 補

● 臺灣誌

第一章

1 位置ヲ  
記セ

1 臺灣島ハ其東北八重山群島(沖繩縣)ト雲煙縹渺ノ間ニ相望ミ西南ハ南洋諸島ノ一ナル「フィリッピン」群島(西班牙領)ト遠ク相連ナル其地支那海中ニ在リテ加フルニ亞細亞大陸ヲ距ル數十里ヲ出ズ

2 境界ヲ  
記セ

2 東ハ太平洋ニ面シ西ハ臺灣海峡ヲ隔テ、支那大陸ト相對シ南ハ呂宋(西班牙領)ト隣シ北ハ支那海ニ瀕ス

3 經緯度  
ヲ記セ

3 北緯度二十一度五十三分ヨリ全ク二十五度十六分ニ至リ東經百二十度十五分ヨリ全ク百二十二度四分ニ至ル

4 面積及  
面積ヲ示  
セ

4 臺灣島ノ形狀ハ長楕圓形ニシテ南北百里ニ近ク東西廣キ處四十里、周圍二百六十里、面積二千五百三十二方里一四アリ

5 地勢ノ  
概要ヲ舉  
ゲヨ

5 臺灣ハ大山脈、極北ヨリ極南ニ連亘シテ突然脊骨狀ヲ爲シ自ラ全島ヲ東西兩部ニ

◎ 增補 ● 臺灣誌 ○ 第一章 ◎ 位置、境界、經緯度、廣袤、面積、地勢

分チ其地脈、島ノ内部ニ亘リ其大ナル部分ハ峯嶺環峙シ殊ニ峻嶺ノ連ナルハ島ノ東部ニシテ巍然直ニ海ニ接シ海岸ニ壁立ス又西部ハ海岸ニ至ルマデ峻夷ナリ

### 第二章

○河流及湖沼ヲ問フ

6 臺灣島ハ山脈ヲ以テ南北ニ截斷セラレ即チ東部太平洋ニ注ク河流ト西部臺灣海峡ニ注ク河流トノ分水嶺ナルガ故ニ其河流ハ概テ源チ中部ニ發シテ東部若クハ西部ニ流レ以テ海ニ注ク然レドモ地勢狹長ニシテ内部ハ高山峻嶺突兀タレハ大河ト稱スベキモノ甚タ乏シク多クハ急流ニシテ船舶ヲ通スベキモノ幾ンド希レナリ  
河流ノ最大ナルモノハ島ノ北部ヲ流ル、淡水河ニシテ基隆、大姑寮、<sup>キルン、ダイコウ</sup>「シンシヤム」ノ三流、臺北縣ノ北ニ至リ合流シテ一大河トナリ以テ淡水港ニ注クモノ是ナリ  
西部地方ノ河流ハ平原ノ間チ縱貫横通シ大肚溪、東螺溪、笨港河、八掌溪等其重ナルモノナリ又東部地方ハ東加禮遠河ノ如キ蓋シ其大ナルモノナルベシ  
湖沼ハ各地ニ少ナカラザルベシト雖モ未ダ詳カナラズ唯「モリソ」山ノ東南ニ水社ト稱スル大湖アリ蓋シ島内ノ大湖ナラン

7 山岳ノ重ナルモノヲ舉ゲヨ

7 臺灣島内ニハ高山極メテ多ク就中其重ナル者ハ東部生番ノ中央ニ峙タル「モリソ」山(高サ一萬二千八百五十尺、日本第一ノ高山ニシテ富士山「一萬二千三百七十尺」ヨリ高キコト四百八十尺ナリ)アリ島ノ北部ニ大屯山(高サ二千尺)アリ其西南ニ北淡水山(高サ三千尺)アリ島ノ東北ニ噶瑪蘭山(高サ二千尺乃至二千五百尺)アリ其南ニ蘇澳山(高サ三千尺乃至四千尺)アリ其西ニ「タンガウ」山(高サ二千尺乃至四千尺)アリ其背後ニ「シルピヤ」山(高サ一萬三千三百尺)アリ其西南ニ「ドット」山(一名中西山脈高サ一萬二千八百尺)アリ其西ニ西嶺(高サ九千尺)アリ彰化ノ北ニ分水嶺(高サ一萬〇五百尺)アリ淡水ノ南ニ南山(一名觀音山高サ一千九百三十尺)アリ臺北地方ニ紗帽山(高サ三千二百尺)ト稱スル噴火山アリ打狗港領ニ打狗山(高サ一千一百尺)アリ鳳山ノ北部ニ翁羅山(高サ一千八百尺)アリ其他南淡水山(高サ一千尺)、勇武乃山、魁斗山、草山、雙峯、高峯、三凸山、北山、基隆山等皆高峻ナリ而シテ鐵山ハ島内ニ數箇所アリ

8 島ノ東北部蘇澳ノ近傍ニ礫泉多シ滾々トシテ湧出ス其成分ハ炭酸ニシテ少量ノ鐵

○増補臺灣誌○第二章○河流、湖沼、山岳、礫泉



十一分ニ至ル此列島中大島ト稱スベキハ澎湖本島、漁翁島及ヒ白沙島トス此列島ノ南岸ヲ多智灣ト云ヒ夫ノ本島、漁翁及ヒ白沙ノ三島間ナル大灣ヲ澎湖港ト稱シ一大巨澳ナリ其北邊ヲ大倉灣、南邊ヲ馬公灣ト呼ブ而シテ北方ヨリ此港内ニ入ルニハ漁翁、白沙兩島間ナル姑婆水道ノ小海峡ヲ通過スルヲ常トス

其他島嶼ノ重ナハモノハ基隆島、龜山島、小龜山島、火燒嶼、紅頭嶼、小琉球島、西市嶼等ニシテ基隆島ハ基隆港ノ東北ニ位シ古來廈門、泉州、福州等ノ通商盛シナリ龜山島ハ三貂角ノ南方ニ位シ小龜山島ハ臺灣本島南端ノ東方ニ位シ其絶頂水面ヲ抜クコト千二百尺、火燒嶼ハ青港ノ南ニ位シ紅頭嶼ハ火燒嶼ノ南ニ位シ小琉球島ハ臺灣本島南部ノ西方ニ位シ其絶頂水面ヲ抜クコト百八十尺ナリ

### 第三章

12 臺灣ハ中央ニ一帶ノ連山アリテ東西ヲ縦斷シ其西部ヲ熟蕃ト稱シ其東部ヲ生蕃ト稱ス島ノ西部即チ熟蕃ノ地ハ現今臺北、臺中、臺南三縣ヲ置キ以テ分治セリ

13 臺北ハ島ノ北邊ニ位セル都市ニシテ總督府ノ在ル所ナリ其地全島中樞要ノ地ナル

四四四ノ  
三四七ヨ  
三四市ヲ  
三四日

ナ以テ人家稠密、市街廣濶家屋ノ建築亦宏壯ニシテ商業頗ル繁盛、其市街中大稻埕ニ外國人ノ居アリ滬尾ニ支那街アリ而シテ其地山水ノ風色最モ佳ナリ明治二十八年七月末日ノ調査ニ據レハ城内、艋舺、大稻埕三市街ノ戸數ハ合計七千二百九十五、人口三萬六千七百七十七ニシテ内男二万四千四十一、女一萬五千七百三十七ナリト云フ之ヲ清領タリシ時即チ光緒十九年(明治廿八年)ヨリ四年前ノ現在數ニ比スレハ戸數(六千五百九十八)ニ在リテハ七百七十七多ク人口(四万四千四百四十四)ニ在リテハ七千三百六十七人少ナク男數(二萬四千七百十三)ニ在リテハ三千六百七十二人少ナク女數(一萬九千四百三十一)ニ在リテハ三千六百九十五人少ナシ

臺南ハ島ノ南西岸ニ在リ其地清領タリシ時、清ノ雍正元年(我享保八年)始メテ城壁ヲ築キ乾隆五十三年(我天保八年)ニ及ヒ十二萬四千餘兩ヲ費シテ之ヲ修築セリ此地全島中ノ舊都ニシテ人家稠密商業最モ盛ナリ戸口ハ未ダ精査ヲ經ズド雖モ戸數凡ソ二萬五千人口凡ソ十三萬餘アリト云フ諸建築物中壯麗見ルベキモノ多ク商業ノ最モ盛ナルハ大西門通ニシテ織物店櫛比シ砂糖其他雜貨店ハ北勢街及ヒ南勢街ニシ

◎増補●臺灣誌○第三章、區劃、都市